

県道多度津丸亀線（丸亀工区）緊急地方道路整備工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

津森位遺跡Ⅱ

2020.1

香川県教育委員会

序文

本報告書は県道工事に伴い発掘調査を実施した香川県丸亀市津森町の津森位遺跡の報告を収めたものです。

津森位遺跡からは、弥生時代から近世までの水路跡や中世の井戸跡が見つかりました。このうち平安時代後半に開削された大型水路跡からの出土品は、この時期の標準的な資料となるものです。

本書が、香川県の歴史研究の資料として広く活用されますとともに、埋蔵文化財に対する理解と関心が一層深められる一助となれば幸いです。

最後になりましたが、発掘調査から出土品の整理・報告にいたるまでの間、関係機関及び地元関係者各位には多大なご援助とご協力をいただきました。ここに深く感謝申し上げますとともに、今後ともご支援賜りますようお願い申し上げます。

2020年1月
香川県埋蔵文化財センター
所長 西岡達哉

例　言

1 本報告書は、県道多度津丸亀線（丸亀工区）緊急地方道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書で、香川県丸亀市津森町に所在する津森位遺跡（つのもりくらいいせき）の報告を収録した。今回報告する箇所は、平成21年度に刊行された発掘調査報告書の報告箇所の西側に位置し、遺跡名も同じ津森位遺跡であることから、本書の報告遺跡名は「津森位遺跡Ⅱ」とした。また、平成21年度報告箇所については、本書では「津森位遺跡Ⅰ」と呼ぶ。

※『県道丸亀詫間豊浜線（觀音寺工区）及び県道多度津丸亀線（丸亀工区）緊急地方道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告　高屋条里遺跡　津森位遺跡』香川県教育委員会　2009.10

2 発掘調査は、香川県教育委員会が調査主体、香川県埋蔵文化財センターが調査担当者として実施した。

3 発掘調査期間及び発掘調査の担当は次のとおりである。

試掘調査 平成19年8月23、24日

本調査 平成21年6月1日～平成21年10月31日（担当 北山健一郎、松本和彦）

4 調査に当って、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）

香川県中讃土木事務所、地元自治会、地元水利組合

5 報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。編集及び執筆は山下平重が担当した。

6 報告書の作成に当っては、下記の方々のご教示を得た。記して謝意を表したい。（順不同、敬称略）
高松市教育委員会、高上拓

7 本報告書で用いる方位の北は、世界測地系（または旧国土地標系第IV系）の北であり、標高は東京湾平均海水位（T.P.）を基準としている。

また、遺構は下記の略号により表示している。

SB　掘立柱建物跡　SD　溝状遺構　SE　井戸跡　SK　土坑　SP　柱穴跡

SX　不明遺構

8 石器実測図中、網掛けをしている部分は磨滅痕を、輪郭線周りの実線は磨滅あるいは研磨を、同じく点線はつぶれを表す。本器実測図中、断面図周りの波線は樹皮の存在を、実線は皮がはげた面であることを表す。

9 本遺跡の報告に当っては、次の機関等に保存処理・分析を依頼した。

木器保存処理（平成 21 年度） 株式会社吉田生物研究所
木器樹種同定（平成 21 年度） 株式会社吉田生物研究所

- 10 土層及び遺構断面図の水平線上の数値は、水平線の標高値（単位 m）である。
- 11 遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財團法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖』による。また、残存率は遺物の図化部分に占める割合であり、完形品に対する割合ではない。
- 12 採団の一部に国土地理院地形図、丸亀（1/25,000）及び丸亀市都市計画図（1/2,500）を使用した。
- 13 本書での遺物の年代観は、下記の文献等を参考にした。

佐藤竜馬「讃岐における古代～中世土器編年をめぐる基礎作業（1）」「香川県埋蔵文化財センター年報平成 26 年度」2016
本文中では佐藤編年と表記して使用する。

佐藤竜馬「高松平野と周辺地域における中世土器の編年」「空港跡地整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 4 冊 空港跡地遺跡IV」香川県教育委員会 2000
本文中では、空港跡地分類と表記して使用する。

『概説 中世の土器・陶磁器』中世土器研究会編 1995
『篠窯跡群大谷 3 号窯の研究 大阪大学文学研究科考古学研究報告第 5 冊』2012

本文目次

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の経過	2

第2章 立地と環境

第1節 地理的環境	4
第2節 歴史的環境	4

第3章 調査の成果

第1節 調査の方法	4
第2節 調査区の概要と層序	4
第3節 遺構、遺物	22

第4章 自然科学分析

第1節 香川県津森位遺跡出土木製品の樹種調査結果	61
--------------------------	----

第5章 総括

第1節 瓦の出土について	63
第2節 遺構について	63

挿図目次

第1図	調査位置図	1	第41図	2区 SD12 断面・遺物実測図	33
第2図	遺跡位置図(1)	2	第42図	3区 SD02 断面図	33
第3図	遺跡位置図(2)	3	第43図	3区 SD05 新面・遺物実測図	33
第4図	遺跡付近の調査実績図	5	第44図	3区 SD07 断面図	33
第5図	調査区割図	7	第45図	4区 SD01 新面・遺物実測図	34
第6図	1区東壁断面図	7	第46図	3区 SK19 平・断面図	36
第7図	1区北壁断面図	8	第47図	3区 SX02 平・断面・遺物実測図	36
第8図	1区南壁断面図	9	第48図	4区 SX05 遺物実測図	36
第9図	2区南壁断面図	10	第49図	2区 SE01 平・断面図	37
第10図	2区北壁断面図	11	第50図	2区 SE01・SX05 断面図、 2区 SE01 井戸本体 平・断面図	38
第11図	3区北壁断面図	12	第51図	2区 SE01 遺物実測図①	39
第12図	3区南壁断面図	13	第52図	2区 SE01 遺物実測図②	41 ~ 42
第13図	4-①区北壁断面図	14	第53図	1区 SD06 断面図	43
第14図	4-①区東壁断面図	14	第54図	1区 SX02・03・04・05 平・断面図	43
第15図	4-①区南壁断面図	15	第55図	3区 SD03 断面・遺物実測図	44
第16図	4-②区南壁断面図	15	第56図	3区 SD04 断面図	44
第17図	4-②区北壁断面図	16	第57図	3区 SD06 断面図	44
第18図	4-②区西壁断面図	16	第58図	4区 SB01 平・断面図	45
第19図	4-③区東・南壁断面図	17	第59図	1区 SK01・02・03・06・07 平・断面・ 遺物実測図	46
第20図	4-④区南壁断面図	17	第60図	1区 SX01 平・断面・遺物実測図	47
第21図	4-④区西壁断面図	18	第61図	2区 SK08・09・10・16 平・断面・ 遺物実測図	48
第22図	1区遺構配置図	19	第62図	2区 SK11・13・14・15・18 平・断面・ 遺物実測図	49
第23図	2区遺構配置図	20	第63図	2区 SX05 遺物実測図	50
第24図	3区遺構配置図	21	第64図	3区 SK01 平・断面・遺物実測図	51
第25図	4区遺構配置図	22	第65図	3区 SK02・03 平・断面・遺物実測図	52
第26図	4区 SD02・03 断面・遺物実測図	23	第66図	3区 SK04・05 平・断面・遺物実測図	53
第27図	1区 SK08 平・断面図	23	第67図	3区 SK06・07 平・断面・遺物実測図	54
第28図	1区 SD04 断面図・遺物実測図①	25	第68図	4区 SK01・02 平・断面・遺物実測図	54
第29図	1区 SD04 遺物実測図②	26	第69図	4区 SX01・02・04 平・断面・遺物実測図	55
第30図	1区 SD04 遺物実測図③	27	第70図	4区 SX08・09・10 平・断面図	56
第31図	1区 SD04 遺物実測図④	28	第71図	4区 SX08・09・10 遺物実測図	57
第32図	1区 SD04 遺物実測図⑤	29	第72図	4区 SX11 平・断面・遺物実測図	58
第33図	1区 SD07 断面・遺物実測図	29	第73図	1区 SD01・02・05・10 断面・遺物実測図	59
第34図	1区 SD08 断面・遺物実測図	30	第74図	3区 SD01 断面図	59
第35図	1区 SD09 断面・遺物実測図	30	第75図	ピット・包含層遺物実測図	60
第36図	1区 SD11 断面・遺物実測図	31	第76図	遺構変遷図(1)	65
第37図	2・3区 SD08 新面・遺物実測図	31	第77図	遺構変遷図(2)	66
第38図	2区 SD10 断面・遺物実測図	31			
第39図	2・3区 SD09 新面図、2区 SK17 平・断面図	32			
第40図	2区 SD11 断面図	32			

表目次

第1表	遺跡付近の調査実績一覧	6	第12表	土器観察表(10)	76
第2表	出土瓦集計表	63	第13表	瓦観察表(1)	76
第3表	土器観察表(1)	67	第14表	瓦観察表(2)	77
第4表	土器観察表(2)	68	第15表	石器観察表	77
第5表	土器観察表(3)	69	第16表	木器観察表	78
第6表	土器観察表(4)	70	第17表	金属器観察表	78
第7表	土器観察表(5)	71	第18表	骨角器観察表	78
第8表	土器観察表(6)	72			
第9表	土器観察表(7)	73			
第10表	土器観察表(8)	74			
第11表	土器観察表(9)	75			

図版目次

写真 1	樹種同定顕微鏡写真 62	
図版 1 80	
	1区全景 西から	
	2・3区 完掘 東から	
	2区 近世土坑群 完掘 北から	
図版 2 81	図版 13
	2区 溝状遺構群 完掘 北東から	
	2区 土坑群完掘 東から	
	3区 東半部全景 北から	
	4・①区 遺構検出 東から	
図版 3 82	図版 14
	4・②区 遺構検出 南から	
	4・③区 全景 南から	
	4・④区 全景 南から	
図版 4 83	図版 15
	4・⑤区 完掘 北西から	
	4・⑥区 遺構検出 南から	
	4・⑦区 完掘 南から	
	1区 北壁断面 東半 南から	
図版 5 84	図版 16
	1区 北壁断面 西半 南から	
	1区 東壁断面 西から	
	1区 東壁断面 西から	
	1区 東壁断面 西から	
図版 6 85	図版 17
	1区 東壁断面 西から	
	1区 東壁断面 西から	
	1区 東壁断面 西から	
	2区 南壁断面 北から	
図版 7 86	図版 18
	2区 北壁断面 SD08 部分 南から	
	3区 南壁断面 北から	
	3区 北壁断面 南から	
	4・①区 東壁断面 西から	
図版 8 87	図版 19
	4・①区 南壁断面 SX05 付近 北から	
	4・②区 南壁断面 SD01 付近 北から	
	4・②区 北壁断面 南から	
	4・②区 西壁断面 東から	
図版 9 88	図版 20
	4・③区 東壁～南東壁断面 西から	
図版 10 89	図版 21
	4・③区 東壁～南東壁断面 西から	
	4・③区 東壁～南東壁断面 西から	
	4・④区 南壁断面 北から	
	4区 SD02・SD03 完掘 西から	
図版 11 90	図版 22
	4区 SD02・SD03 断面 西から	
	4区 SD03 遺物出土状況 西から	
	4区 SD03 土器出土状況 東から	
	1区 SK08 断面 (炭化物あり) 西から	
図版 12 91	
	1区 SD03 北から	

図版 23	102	図版 29	108
	3区 SD06 断面 北から			3区 SK03 完掘 東から	
	4区 SB01 完掘 南から			3区 SK04 断面 北から	
	1区 SK01 断面 西から			2・3区 SK05 断面 西から	
	1区 SK02 断面 西から			2・3区 SK06 断面 西から	
図版 24	103	図版 30	109
	1区 SK03 断面(炭化層上面) 東から			3区 SK07 断面 西から	
	1区 SK03 炭化物出土状況 東から			4区 SK01 断面 東から	
	1区 SK03 断面 西から			4区 SK02 断面 南東から	
	1区 SK04・SK09 完掘 南から			4区 SX01 断面 南東から	
図版 25	104	図版 31	110
	1区 SK06 断面 西から			4区 SX02 断面 北から	
	1区 SK07 断面 西から			4区 SX06 全景 北から	
	1区 SX01 断面 西から			4区 SX07 全景 北から	
	2区 SK08 断面 西から			4区 SX08・SX09・SX10 断面 北東から	
図版 26	105	図版 32	111
	2区 SK09 断面 西から			4区 SX11 断面 北から	
	2区 SK10 断面 南から			1区 SD01 断面 西から	
	2区 SK11 断面 西から			1区 SD02 ㉚② 断面 西から	
	2区 SK12 断面 南から			1区 SD05 断面 西から	
図版 27	106	図版 33	112
	2区 SK13 断面 南から			1区 SD10 断面 北から	
	2区 SK14 断面 西から			3区 SD01 断面 西から	
	2区 SK15 断面 西から			113～130
	2区 SK16 断面 西から			出土遺物	
図版 28	107	図版 34～51	
	2区 SK18 断面 西から				
	3区 SK01 完掘 北西から				
	3区 SK02 断面 西から				
	3区 SK03 断面 西から				

第1章 調査の経緯

第1節 調査に至る経緯

県道多度津丸亀線道路整備工事に伴い、県道建設予定地（周知の埋蔵文化財包蔵地「津森位遺跡」の西側隣接地）を今後の保護措置を検討する資料を得るために、平成19年度に香川県教育委員会生涯学習・文化財課が試掘調査を実施したところ、古代から中世の遺構が検出されたため、県道建設に当っては、事前の保護措置が必要となった。

※『埋蔵文化財試掘調査報告X X I 香川県内遺跡発掘調査』香川県教育委員会 2008

平成21年度に香川県埋蔵文化財センターが開発に伴う本発掘調査を実施した。

なお例言1で前述したとおり、周知の埋蔵文化財包蔵地である「津森位遺跡」（今回報告対象の東側）



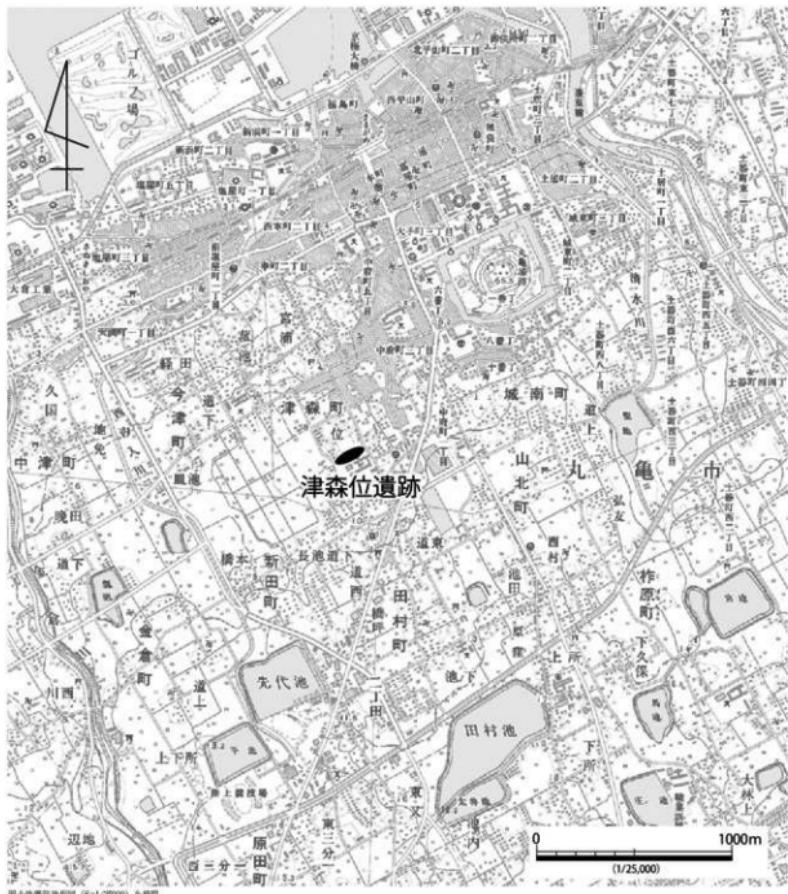
第1図 調査位置図

は、同じく県道建設に伴い、平成 18 年度に本発掘調査を実施し、平成 21 年度に報告書を刊行している。

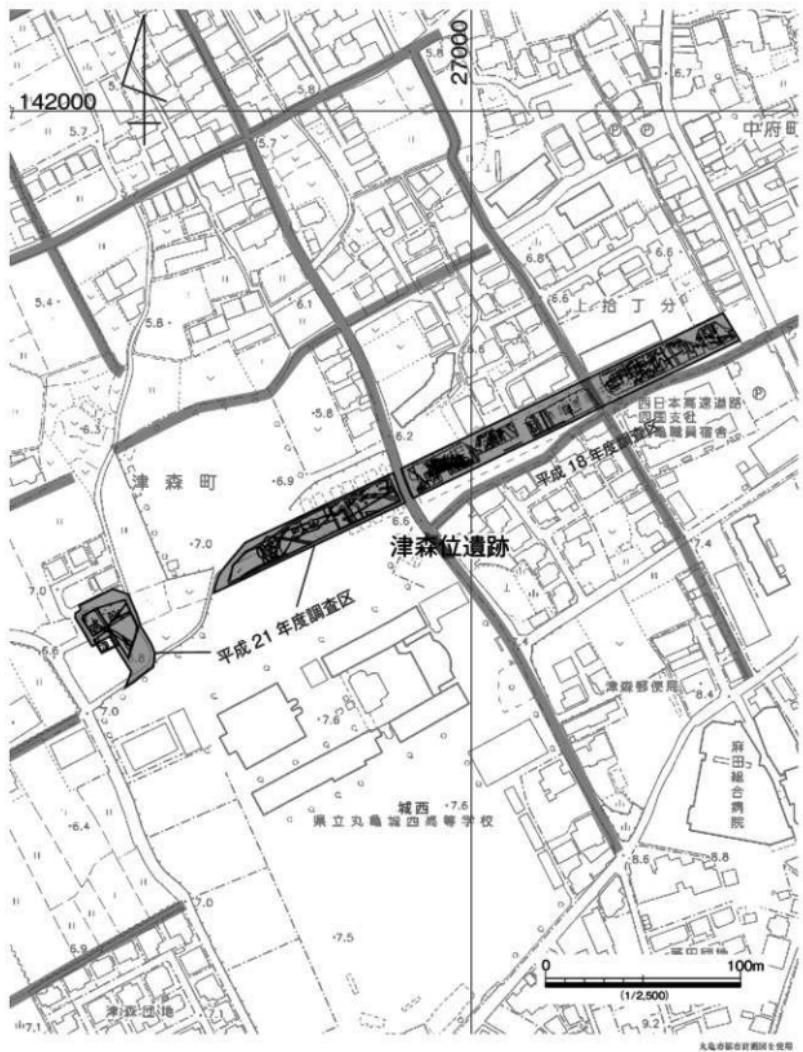
第 2 節 調査の経過

発掘作業の期間及び担当者は、例言のとおりである。調査面積は 2,449m²である。

整理作業は、平成 30 年度に実施した。整理作業期間は、平成 31 年 1 月～平成 31 年 3 月である。整理作業対象の遺物コンテナ数(28 ℥入り)は、22 箱である。遺物の実測及び実測図のトレースについては、一部外部委託で実施した。



第 2 図 遺跡位置図 (1)



第3図 遺跡位置図（2）

第2章 立地と環境

第1節 地理的環境

地理的環境については、次の報告書を参考にされたい。

『県道丸亀詫間豊浜線（観音寺工区）及び県道多度津丸亀線（丸亀工区）緊急地方道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高屋条里遺跡・津森位遺跡』香川県教育委員会 2009.10

第2節 歴史的環境

ここでは、上記報告書で報告された既往の調査に追記しておくにとどめる。津森位遺跡Ⅰの報告以降に、発掘調査が実施された箇所を第4図に、また調査実績一覧表（第1表）も追記しておく。運動公園整備に伴う中の池遺跡の発掘調査及び新田橋本遺跡（34）の店舗建設に伴う発掘調査が実施されているのはかは、顕著な成果は見られない。

第3章 調査の成果

第1節 調査の方法

発掘作業員を直接雇用して調査を実施した。

平面図の作成は、手書き図面とトータルステーションを使用した遺構実測支援システム「遺構くん」を併用して行った。断面図は、手書きで作成した。写真撮影は、デジタルカメラを中心に、一部6×7のモノクロフィルム及びポジフィルムを使用して実施した。

第2節 調査区の概要と層序

調査区は東側から1～4区として設定し、4区についてはさらに①～④に細分している（第5図）。1～3区は連続した調査区であるが、一番西に位置する4区は飛び地状になっている。

遺構面標高は、津森位遺跡Ⅰでは東から西へ向い低くなっていたが、本報告平成21年度調査区（津森位遺跡Ⅱ）の1～4区では6.0m前後とほぼ安定している。また津森位遺跡Ⅰ西端と津森位遺跡Ⅱ東端（1区）の遺構面標高はほぼ同じである。

調査区壁面の土層断面図を第6図～第21図に示した。

地山は、基本的に黄灰色系の粘質土であるが、その下には砂礫層の堆積が見られる。津森位遺跡Ⅰと同様な堆積である。地山は基本的に耕作土直下で検出される。

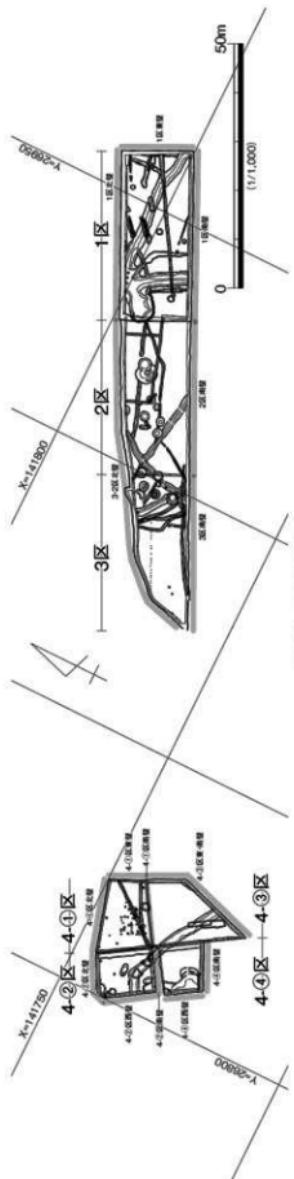


第4図 遺跡付近の調査実績図

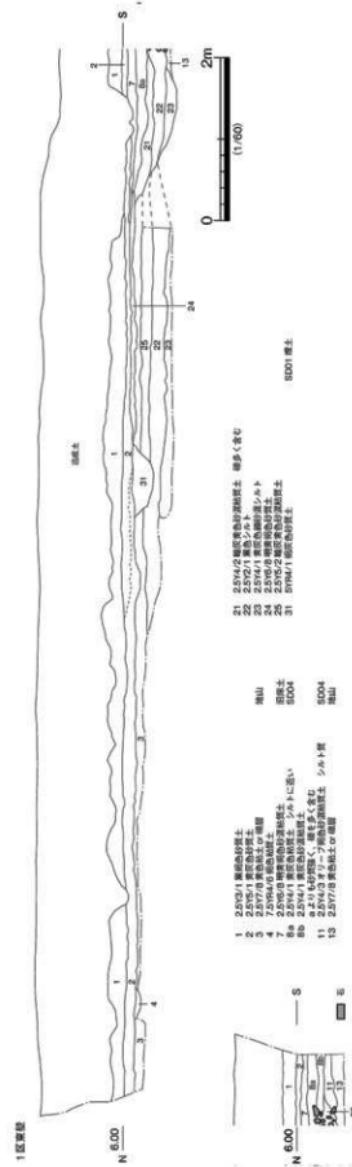
番号	文献
1	「県道丸亀詫間豊浜線（綾音寺工区）及び県道多度津丸亀線（丸亀工区）緊急地方道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中の池遺跡」2009.10 香川県教育委員会
2	「県道多度津丸亀線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 今津中原遺跡」2007.9 香川県教育委員会
3	「株式会社 百十四銀行城西支店建設に伴う丸亀市田村町所住の古代寺院跡の調査 田村遺跡」2002.3 丸亀市教育委員会 株式会社百十四銀行
4	「県道高松丸亀線改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 田村遺跡」2004.3 香川県教育委員会 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター 香川県土本部
5	「県道高松通守線道路改修事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 田村遺跡Ⅱ」2007.1 香川県教育委員会
6	「県道多度津丸亀線緊急地方道路整備事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 道下遺跡」1991.11 香川県教育委員会 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
7	「山北町字原塚地区」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第2集」2007.3 丸亀市教育委員会 「山北町字原塚地区遺跡調査」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第3集」2008.3 丸亀市教育委員会
8	「道下遺跡」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第2集」2007.3 丸亀市教育委員会
9	「作原町字上所地区」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第3集」2008.3 丸亀市教育委員会
10	「香川県丸亀市金倉町所在の弥生時代遺跡の調査 中の池遺跡発掘調査概要」1982.3 丸亀市教育委員会
11	「香川県丸亀市金倉町所在の弥生時代遺跡の調査 中の池遺跡発掘調査概要」1982.3 丸亀市教育委員会
12	「香川県埋蔵文化財調査年報 平成7年度」1996.3 香川県教育委員会
13	「丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中ノ池遺跡Ⅰ」1998.12 丸亀市松本考古学研究所
14	「丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中ノ池遺跡Ⅱ」2000.3 丸亀市松本考古学研究所
15	「香川県埋蔵文化財調査年報 平成10年度」2000.3 香川県教育委員会
16	「丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中ノ池遺跡Ⅲ」2000.3 丸亀市松本考古学研究所
17	「丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中ノ池遺跡 第8次調査」2003.3 丸亀市教育委員会（財）元興寺文化財研究所
18	「丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中ノ池遺跡 第9次調査」2004.3 丸亀市教育委員会（財）元興寺文化財研究所
19	「丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中ノ池遺跡 第10次調査」2004.3 丸亀市教育委員会（財）元興寺文化財研究所
20	「丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中ノ池遺跡 第11次調査」2005.3 丸亀市教育委員会（財）元興寺文化財研究所
21	「丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中ノ池遺跡 第12次調査」2006.3 丸亀市教育委員会（財）元興寺文化財研究所
22	「丸亀市総合運動公園整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 中ノ池遺跡 第13次調査」2008.3 丸亀市教育委員会（財）元興寺文化財研究所
23	「山北町字原塚地区試掘調査」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第3集」2008.3 丸亀市教育委員会
24	「ゆめタウン丸亀建設事業に伴う確認調査報告書」2009.3 株式会社イズミ 丸亀市教育委員会
25	「津森町字高丸地区」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第4集」2009.3 丸亀市教育委員会
26	「金倉町字道下地区試掘調査」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第4集」2009.3 丸亀市教育委員会
27	「田村町字橋の坪地区試掘調査」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第4集」2009.3 丸亀市教育委員会
28	「津森町字高丸地区試掘調査」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第6集」2012.3 丸亀市教育委員会
29	「山北町字池田地区試掘調査」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第10集」2014.3 丸亀市教育委員会
30	「田村庵寺跡試掘・確認調査」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第10集」2014.3 丸亀市教育委員会
31	「中の池遺跡確認調査」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第12集」2014.8 丸亀市教育委員会
32	「田村町字池の下地区試掘調査」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第12集」2014.8 丸亀市教育委員会
33	「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第13集」2015.3 丸亀市教育委員会（中の池遺跡）
34	「株式会社エディオン店舗建設に伴う発掘調査報告書」2015.2 株式会社エディオン 丸亀市教育委員会
35	「金倉町字道下地区試掘調査」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第14集」2016.3 丸亀市教育委員会
36	「中の池遺跡確認調査」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第15集」2017.3 丸亀市教育委員会
37	「中の池遺跡・金倉町字道上地区試掘・確認調査」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第15集」2017.3 丸亀市教育委員会
38	「作原西村遺跡確認調査」「丸亀市内遺跡発掘調査報告書第16集」2018.3 丸亀市教育委員会
39	本書

中の池遺跡については、図が煩雑になるため一部記載を省略している。

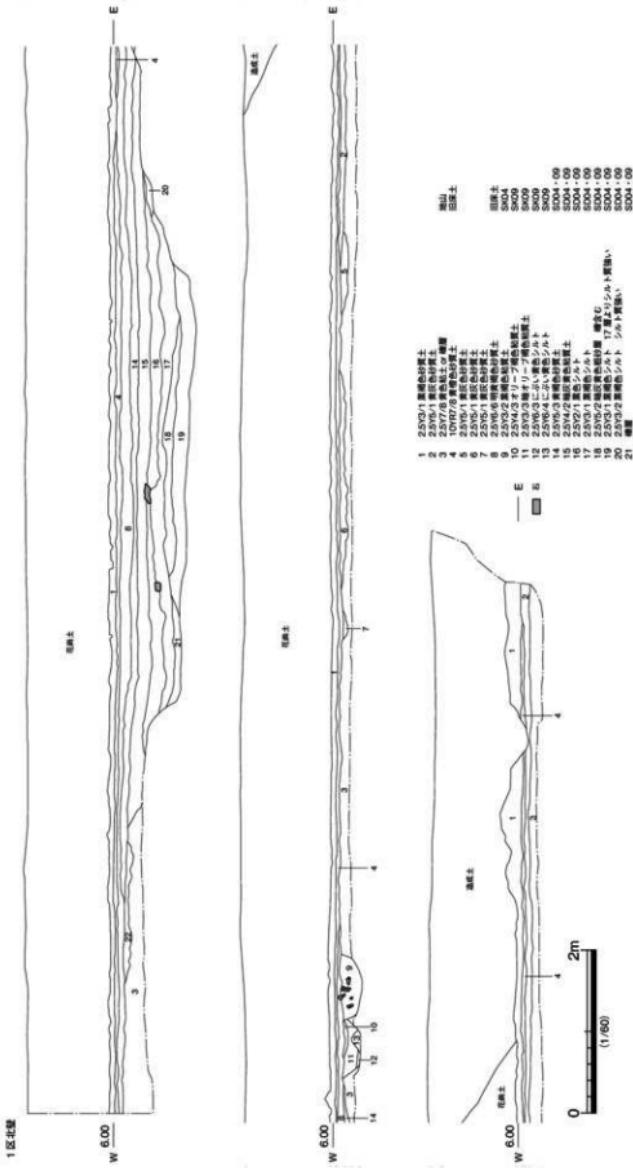
第1表 遺跡付近の調査実績一覧（番号は第4図に対応）



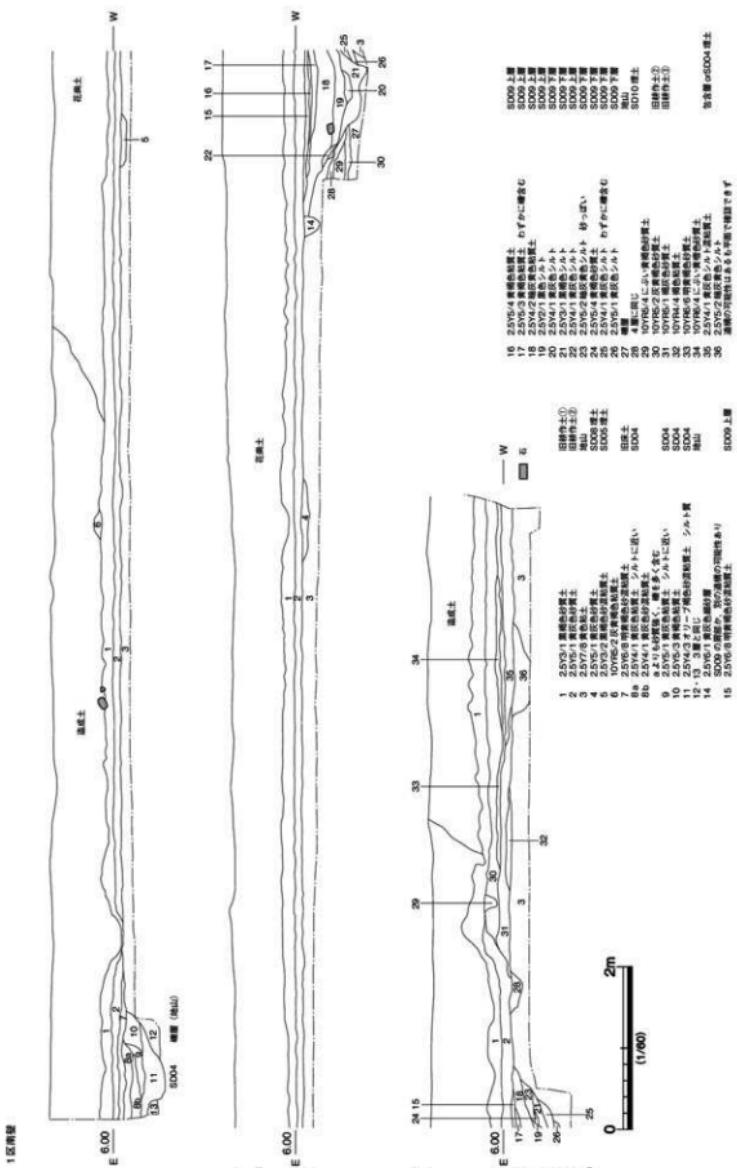
第5図 調査区割図



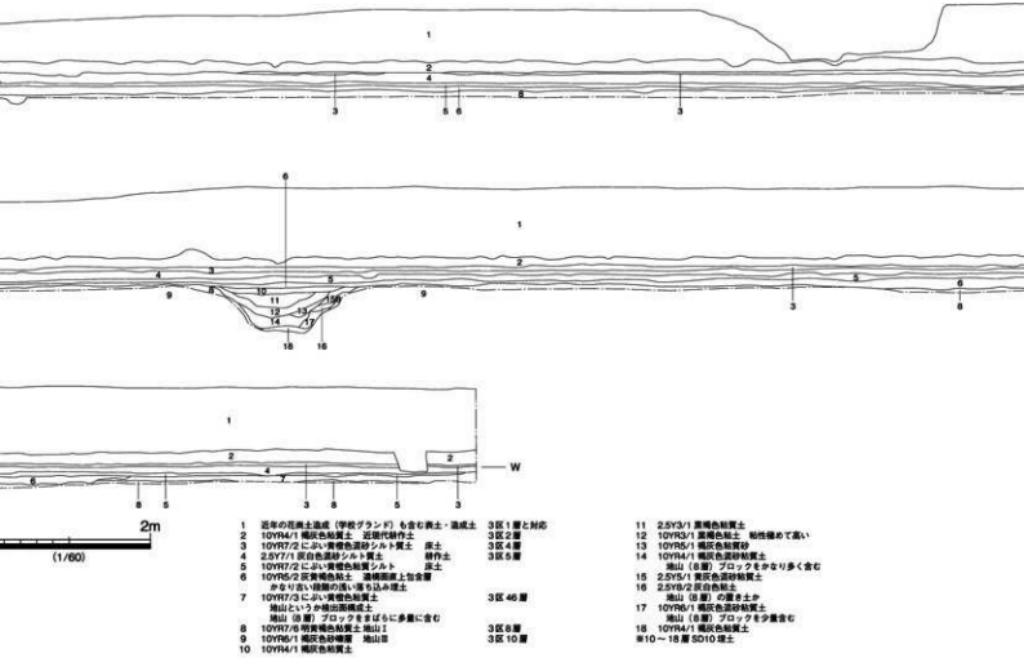
第6図 1区東端断面図



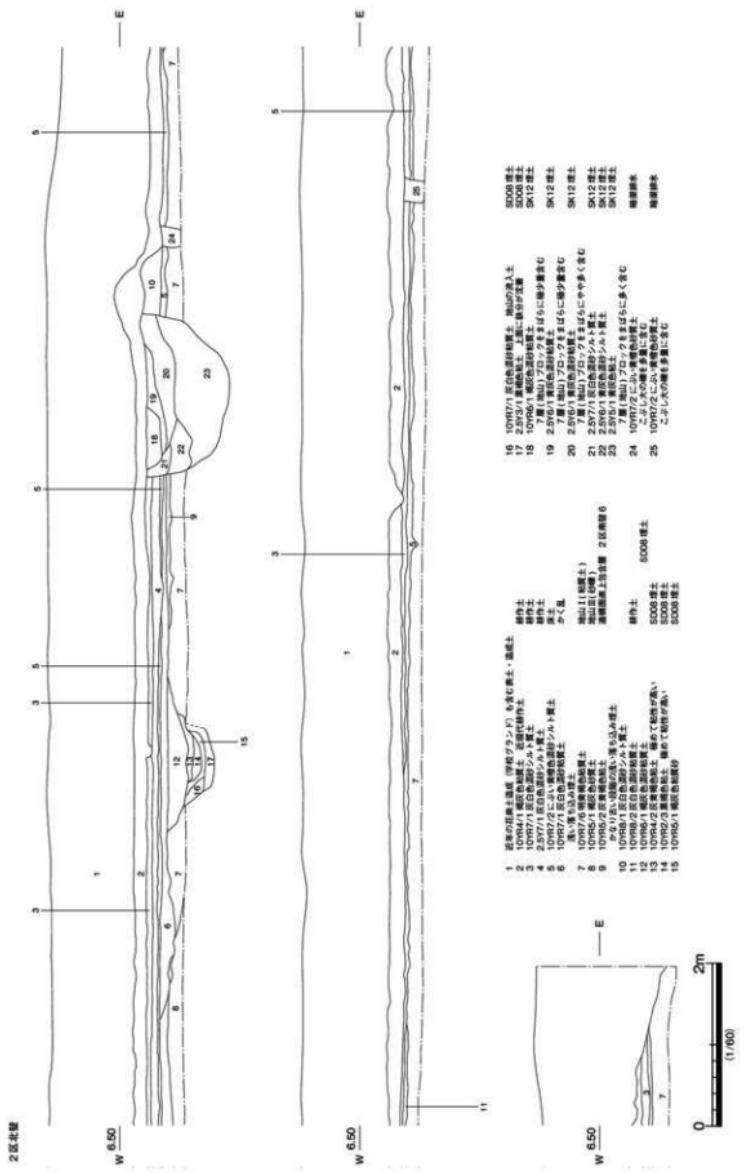
第7図 1区北壁断面図



第8図 1区南壁断面図



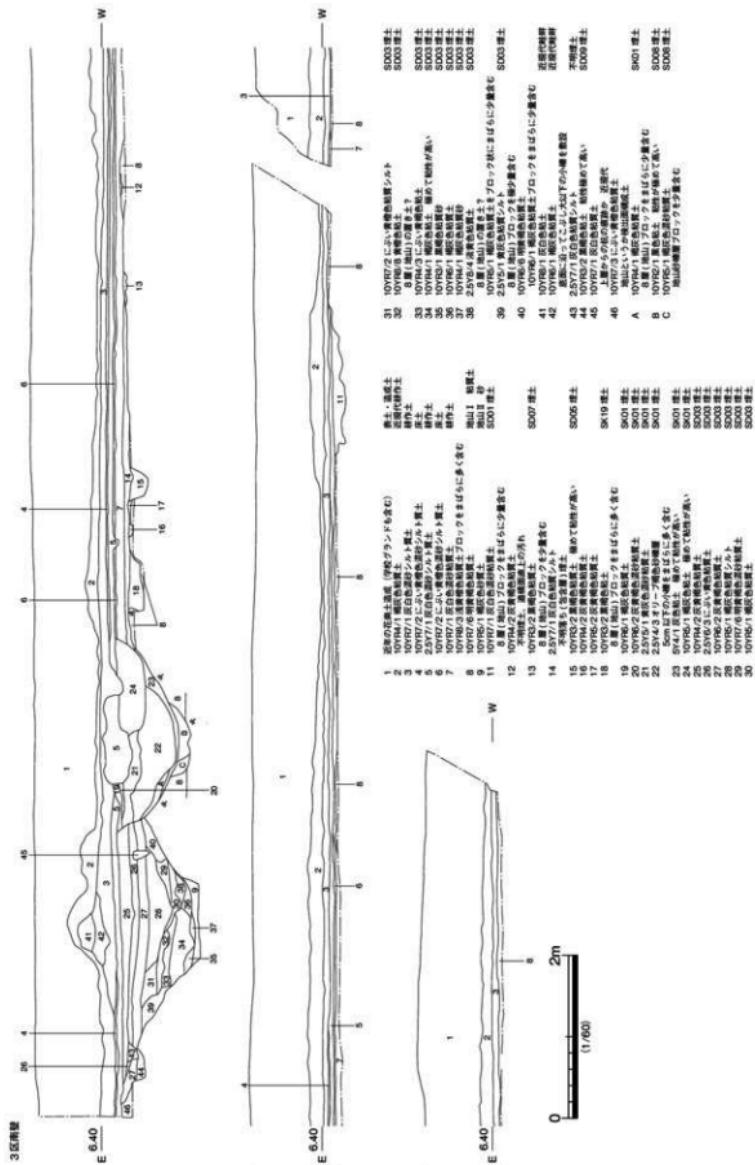
第9図 2区南壁断面図



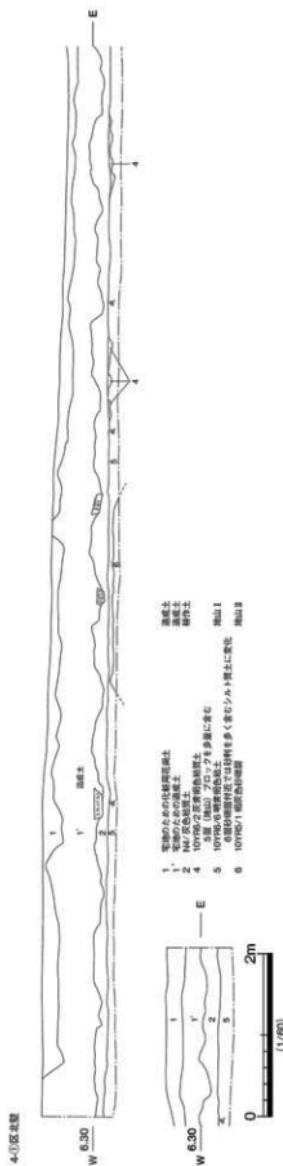
第10図 2区北側断面図



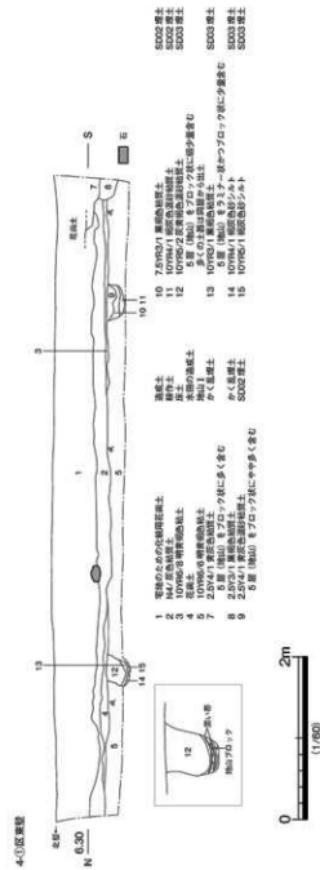
第11図 3区北壁断面図



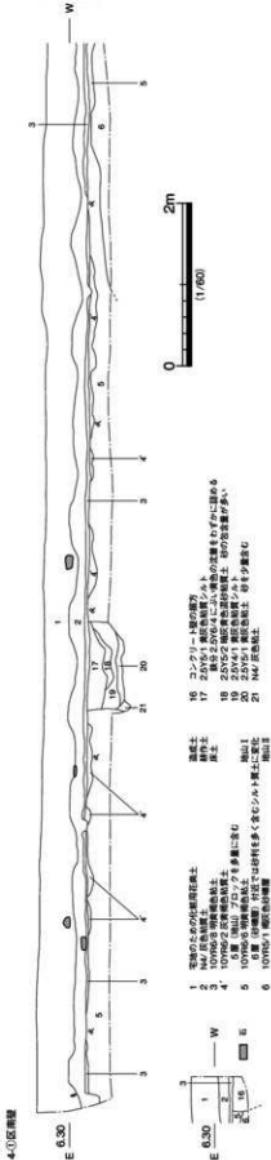
第12図 3区南壁断面図



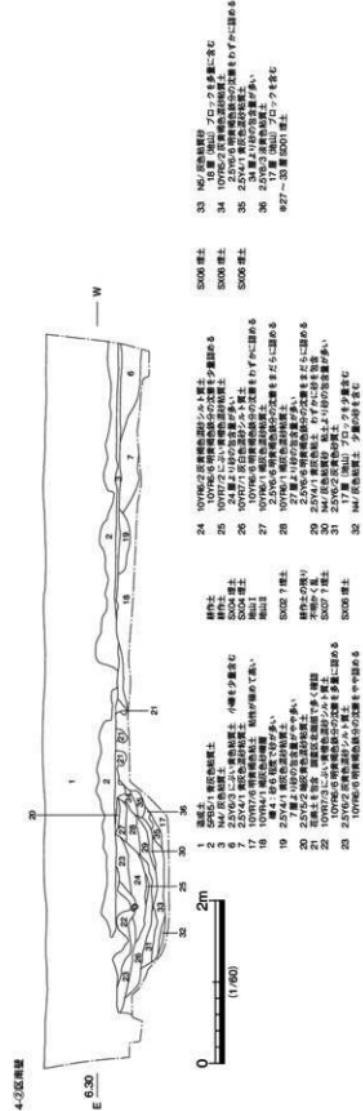
第13図 4-①区北壁断面図



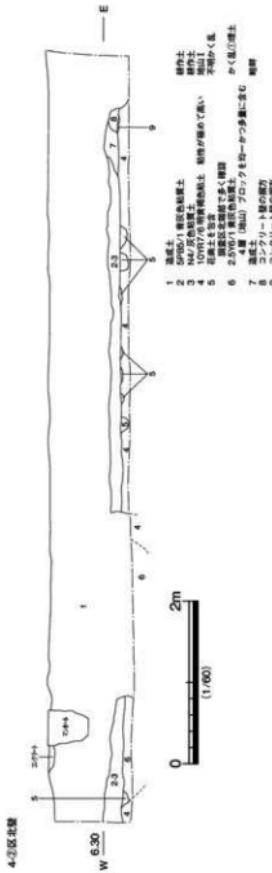
第14図 4-①区東壁断面図



第15図 4-①区南壁断面図

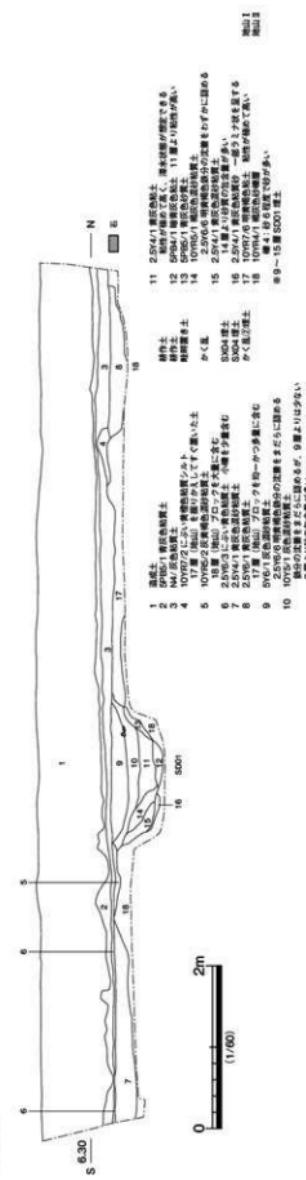


第16図 4-②区南壁断面図

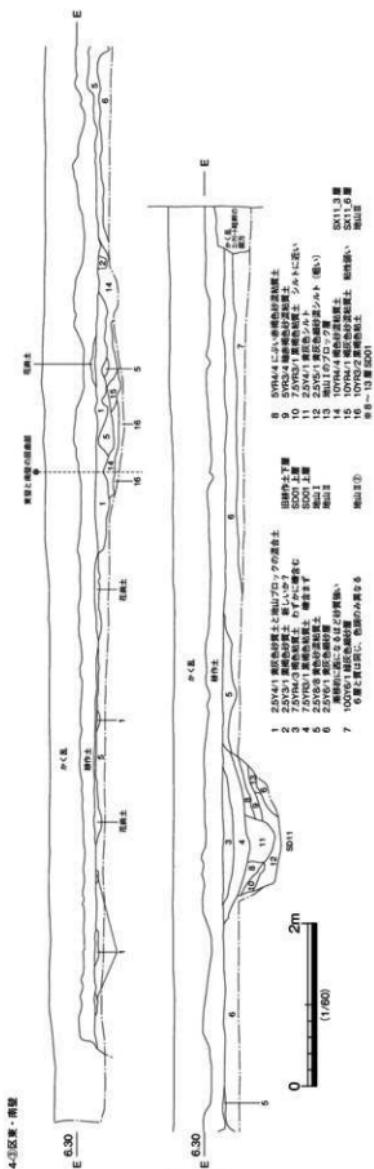


第17図 4-②区北壁断面図

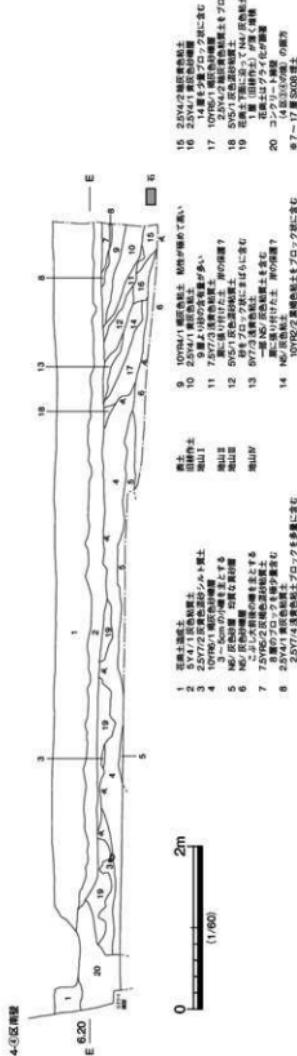
4-②区西壁



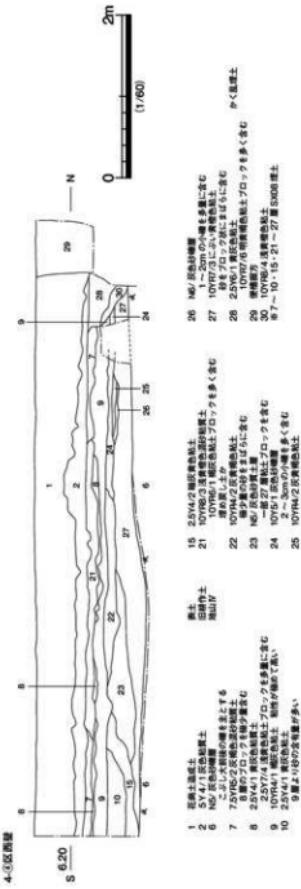
第18図 4-②区西壁断面図



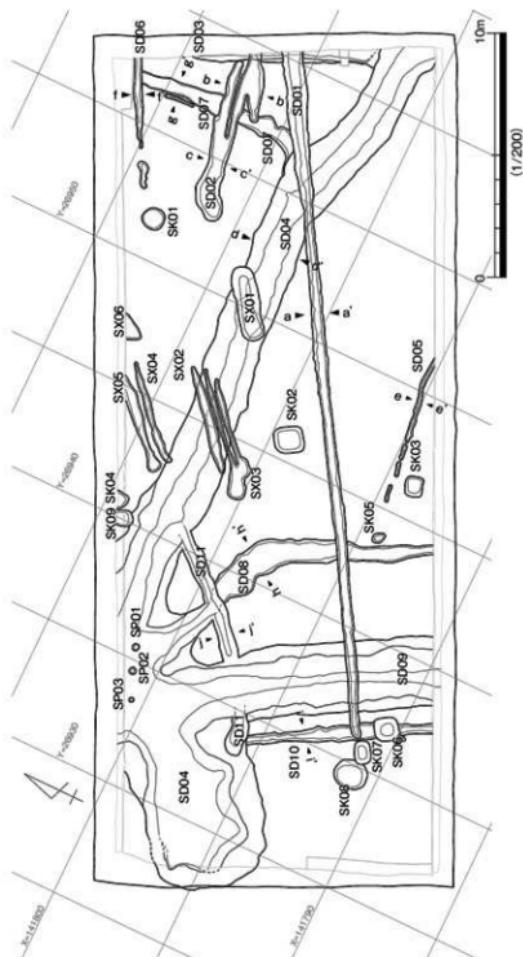
第19図 4-③区東・南壁断面図



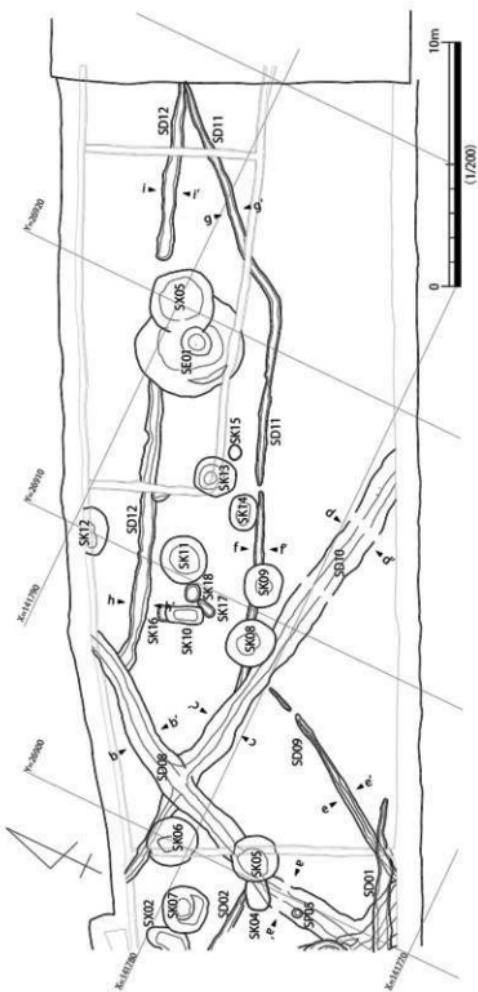
第20図 4-④区南壁断面図



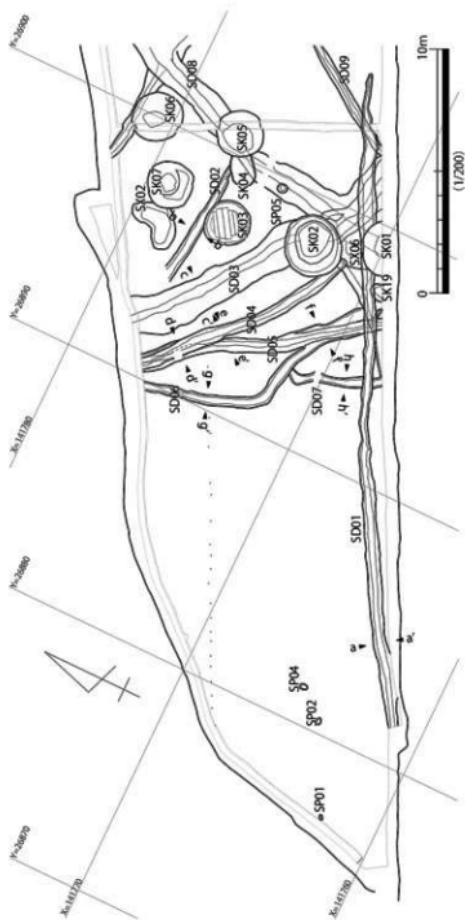
第21図 4-④区西壁断面図



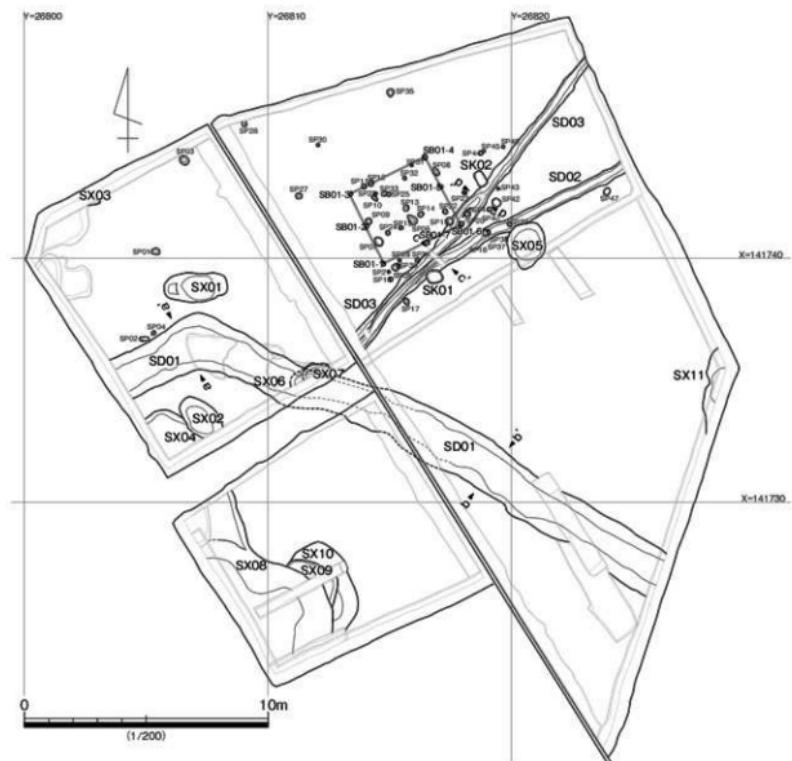
第22図 1区調査配置図



第23図 2区遺構配置図



第24図 3区構構配図



第 25 図 4 区遺構配置図

第 3 節 遺構、遺物

遺構名は、発掘作業時の遺構名をそのまま使用して報告する。ただし 4 区の遺構については小区画名の①～④は省略する。また、溝跡の断面図作成位置は第 22～25 図の遺構配置図で示している。

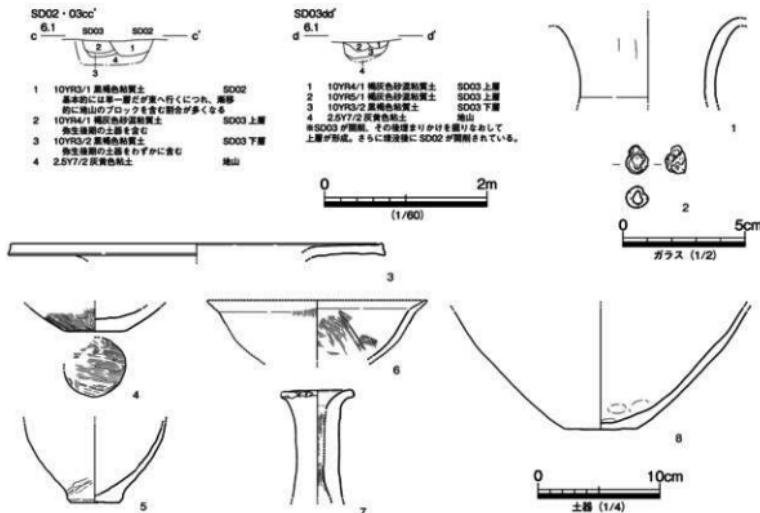
1 弥生時代終末期

溝跡

4 区 SD02（第 26 図）

最大幅約 0.5 m、深さ約 0.2 m である。4 区 SD03 との合流部分の断面では、埋土下位に黒い帯が見えることから、流水状態を示すラミナ状の堆積と考えられる。底面標高はいずれの箇所もほぼ同じであり、底面標高からは流水方向はわからない。4 区 SD03 より新しいが、埋土及び規模はほぼ同じである。

弥生土器 1 及びガラス滓と考えられる遺物 2 が出土している。



第26図 4区 SD02・03断面・遺物実測図

4区 SD03（第26図）

最大幅約0.5m、深さ約0.2mである。調査区東壁断面では、埋土下位に黒い帯が見えることから、流水状態を示すラミナ状の堆積と考えられる。再掘削が行われており、一部では再掘削時に流路が多少ずれている。再掘削後の堆積が上層である。弥生土器のみが出土している。4区SD02より古い。

3～7は下層出土土器である。8は上層出土土器である。小形鉢6及び支脚7より弥生時代終末期の時期が考えられる。

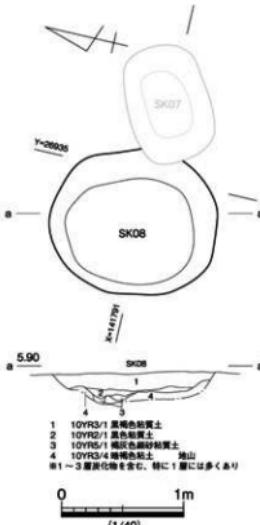
2 平安時代

ここでは平安時代と考えられる遺構を報告するが、最終埋没時には一部中世の遺物を含むものもある。

土坑

1区 SK08（第27図）

底面は砂礫層には達していない。近世以降の土坑SK07より古い。黒褐色の埋土に炭化物が混じる。埋土からは当該期と考えられる。瓦質土器と考えられる小片が1点出土しているのみである。実測遺物は無い。



第27図 1区 SK08 平・断面図

溝跡

1区 SD03

調査区近辺で予想される条里型地割の方向と合致する溝である。検出が一部にとどまるため、規模は不明である。平安時代に開削されたと考えられるSD04より古い。東壁断面図では、SD04との関係は明確には図示されていない。出土遺物は無い。

1区 SD04（第28～32図）

最大幅約2.5mで、深さは遺構検出面からは約0.35mであるが、調査区北壁では、約0.7mと観察される。底面標高は約5.0m～5.5mである。

9世紀末から中世前半までの遺物がコンテナ3箱程度出土する。また、加工木も出土している。規模の大きな溝跡である。SD08、09と合流するが、新旧関係は明らかではない。また、西端部分は徐々に深くなるスロープ状になっている。溝底へ降りるための施設かもしれない。埋土は大きく2層にわかれ、上層からは中世の遺物、下層からは10世紀後半頃の遺物が出土する。また、瓦がまとめて出土している。

9～26は下層出土遺物である。9～18は土師器である。14は台付杯で、佐藤編年のIV期新相からV期古相に当たり、10世紀中葉～末頃の時期と考えられる。19～25は須恵器である。糸切り底の須恵器椀19・20は、京都府亀岡市の篠塙跡群を参考にすれば、前山2・3号窯の時期（10世紀中葉頃）と考えられる。24は内面の当て具痕に文様が見られない。25は器種不明である。26は黒色土器A類椀である。佐藤編年IV期新相（10世紀中葉頃）に当たると考えられる。

27～87は出土層位が不明確な遺物である。27～45は土師器である。杯や椀は、底部が突出する形態のものがあることから、佐藤編年IV期新相（10世紀中葉頃）頃の時期が考えられる。39は土師器羽釜であるが、空港跡地遺跡SDb19（8世紀後葉）に初見するような古いタイプの羽釜と考えられる。10世紀中葉頃の川津東山田遺跡I区SD3109出土例が新しい時期と考えられる。羽釜40～43のうち、40以外は口縁部と鋲部の間に平坦面が無くなっている。40はその平坦面があることからより古い時期と考えられる。

46～54は須恵器である。46は佐藤編年IV期新相～V期古相（10世紀中葉～末）に当たると考えられる。50は底部糸切りの椀で、篠塙跡群を参考にすれば前山2・3号窯の時期（10世紀中葉頃）と考えられる。51は川津東山田遺跡I区SD3109や下川津遺跡SEⅢ04に類例が見られることから佐藤編年IV期新相の時期と考えられる。

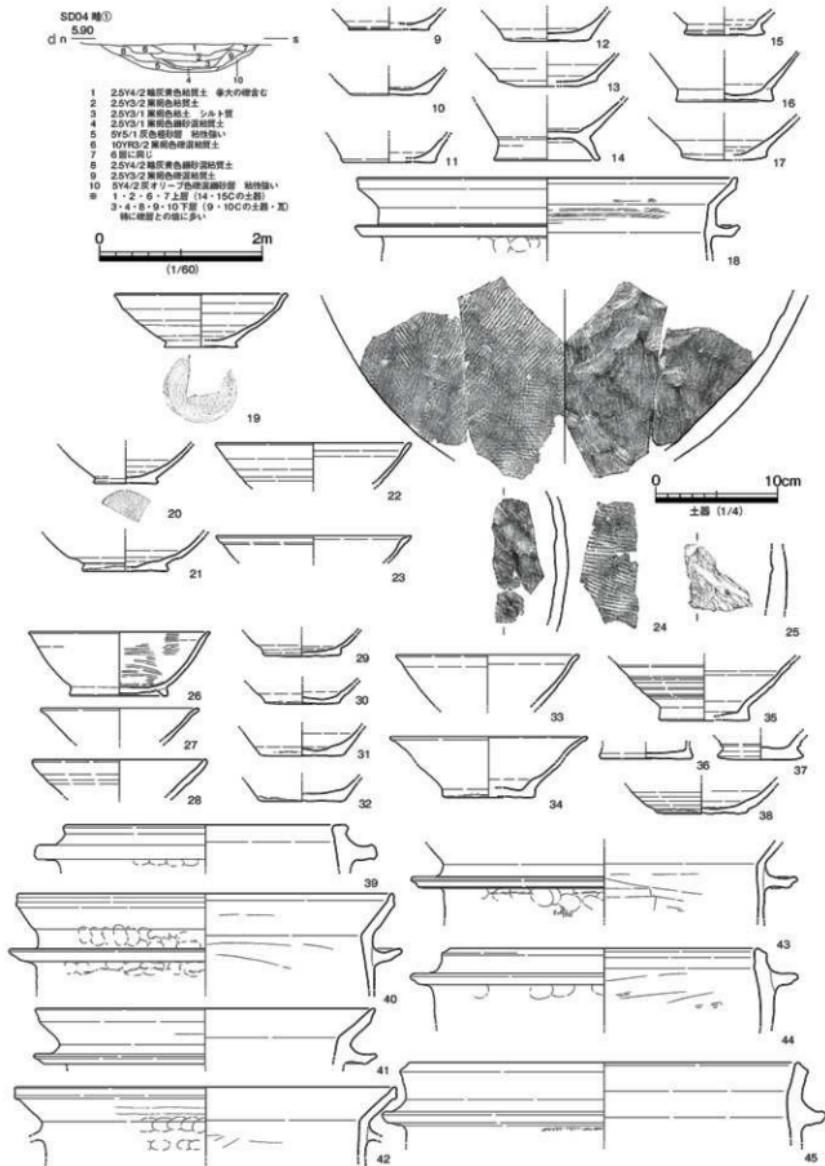
55～58は黒色土器A類椀である。

59・60は黒色土器B類椀である。59は高台径がやや小さいことから11世紀に下る可能性がある。

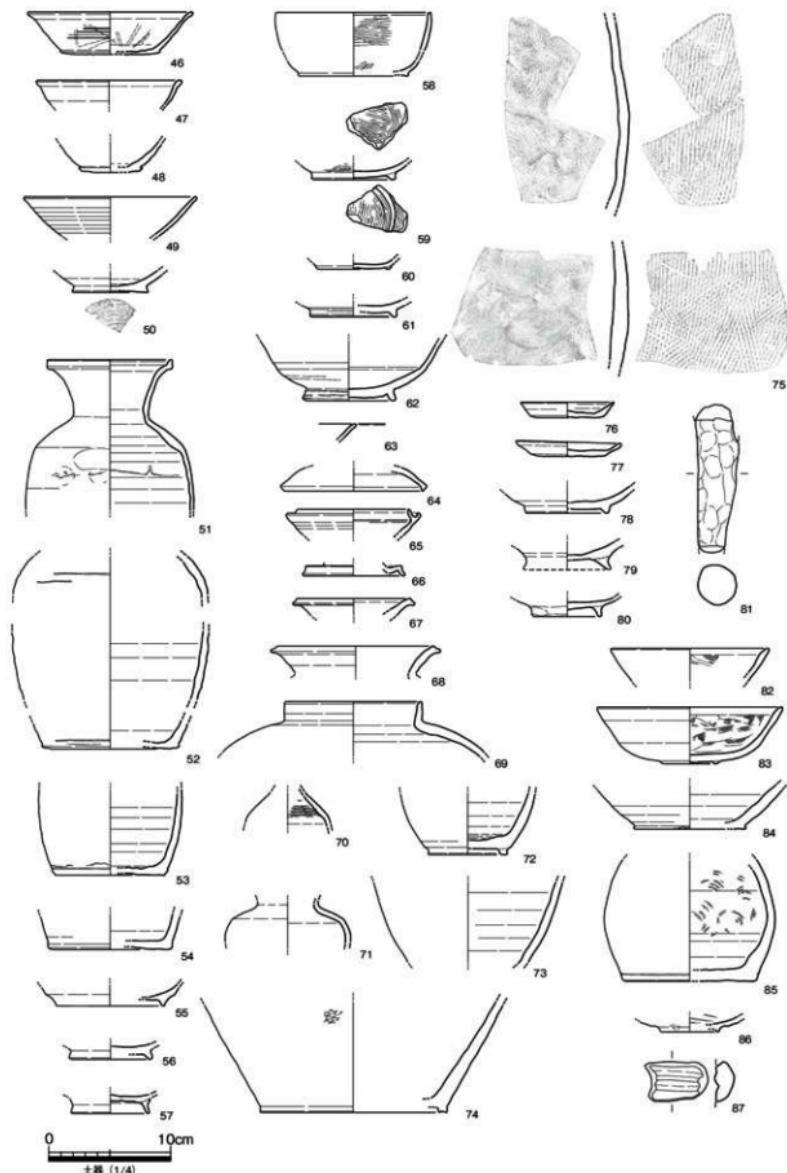
61～63は緑釉陶器である。61・62は削り出し高台であることから京都産である。62は稜椀である。輪高台であり、高台内面には施釉が見られないことから篠塙跡群大谷3号窯（9世紀第4四半期頃）よりもやや時期が下る可能性があるが、10世紀前半までの範囲と考えられる。

64～75は10世紀よりも古い時期と考えられる遺物である。いずれも須恵器である。

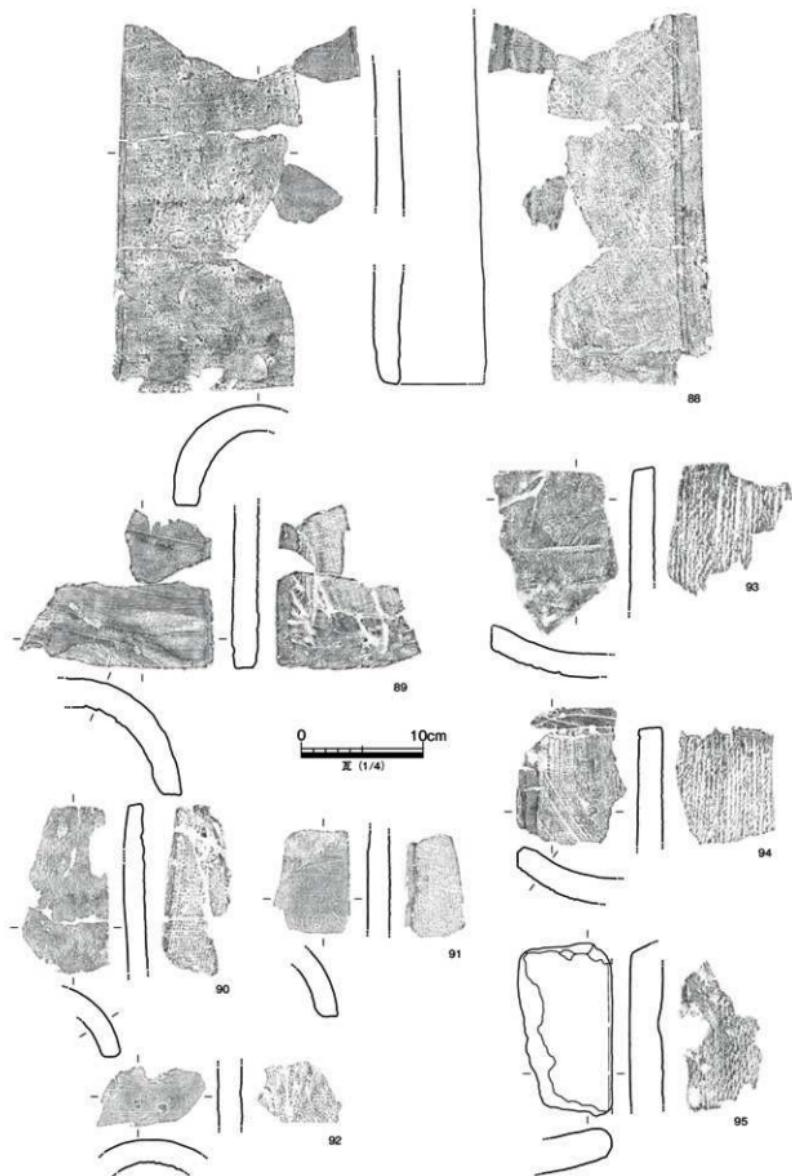
76～86は11世紀以降の時期と考えられる遺物である。76～81は土師質土器である。82～85は須恵器である。83は空港分類AⅡ-9に当たり、13世紀中葉頃の時期が考えられる。86は瓦器椀である。



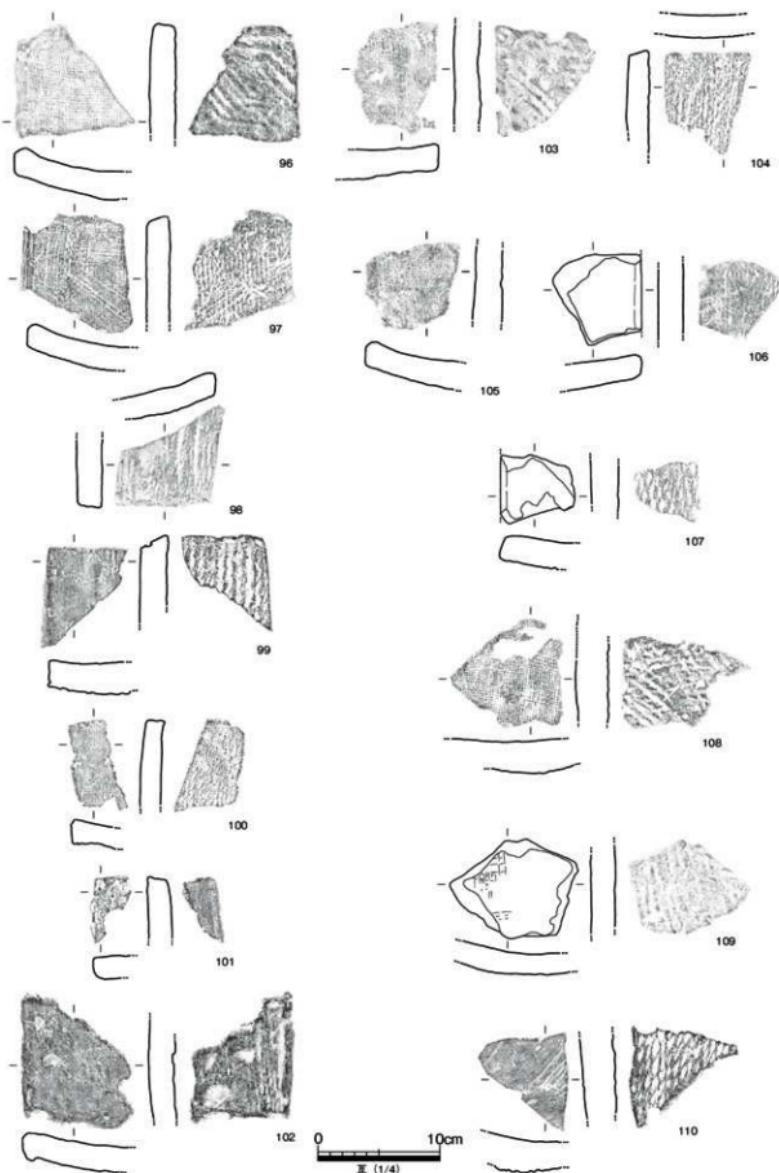
第28図 1区 SD04 断面図・遺物実測図①



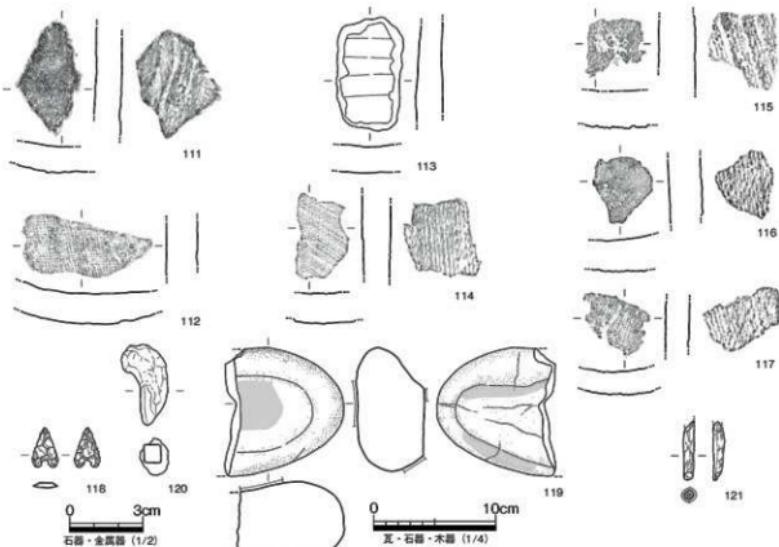
第29図 1区 SD04 遺物実測図②



第30図 1区 SD04 遺物実測図③



第31図 1区 SD04 遺物実測図④

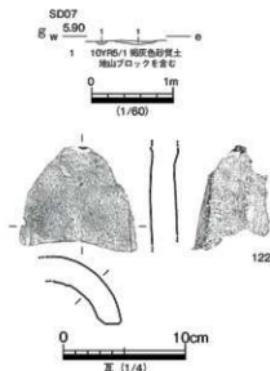


第32図 1区 SD04 遺物実測図⑤

87は器種不明である。

88～117は瓦である。88～92は丸瓦である。凹面には布目痕が見られ、凸面はナデ調整である。93～117は平瓦である。凹面には布目痕が見られ、凸面は縄目タキとなっている。118はサヌカイト製石錠である。119は砥石である。被熱後に生じた剥離面にも磨滅が見られる。120は鉄釘だろう。

121は下層から出土した先端加工木である。



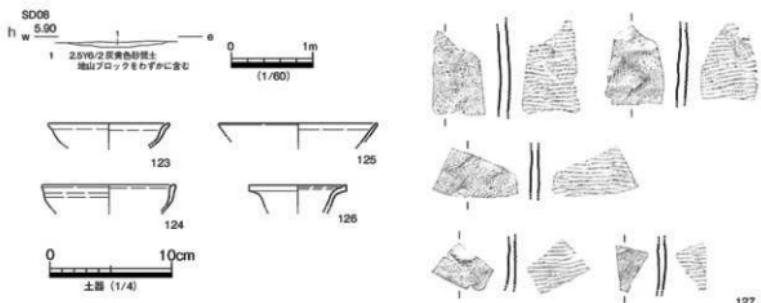
第33図 1区 SD07 断面・遺物実測図

1区 SD07 (第33図)

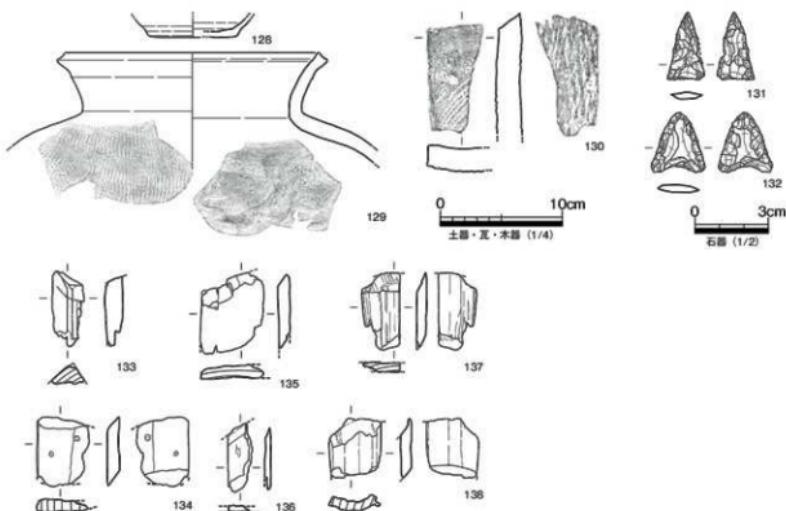
最大幅0.9m、深さ約0.05mの浅い溝である。土師器小片が出土しており、中世の溝1区SD02及び1区SD06より古く、中世には完全埋没したと考えられる1区SD04より古いことから平安時代頃のものと考えられる。122は丸瓦である。

1区 SD08 (第34図)

1区SD11より南側は深さ約0.05mの浅い遺構であるが、SD11より北側では徐々に深くなり、1区SD04と1区SD09に合流する。遺物は平安時代から中世前半の遺物が出土している。実測遺物はすべて須恵器(123～127)である。



第34図 1区 SD08 断面・遺物実測図

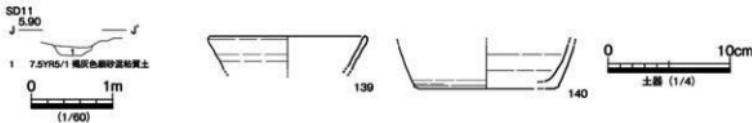


第35図 1区 SD09 断面・遺物実測図

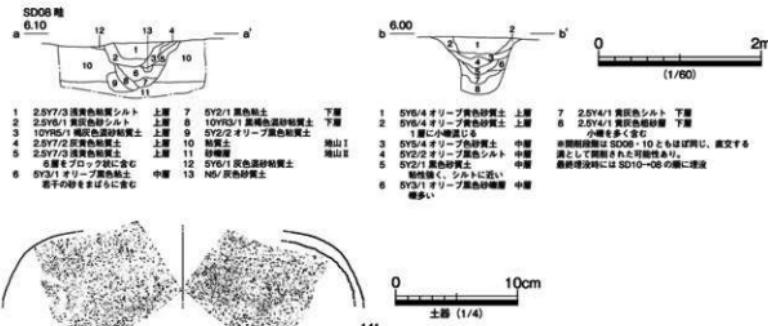
1区 SD09 (第35図)

条里方向を向く。1区 SD04 と合流するが、新旧関係は明らかではない。最大幅約 29 m、深さ約 0.8 m、底面標高約 5.0 m である。埋土は 1区 SD04 に類似する。

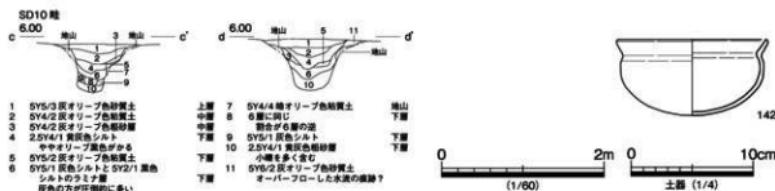
平安時代の土器のほか、加工木、種、樹皮などが出土している。128 は須恵器甕である。129 は上層から出土した須恵器甕である。内面の当て具痕に文様は見られない。130 は平瓦である。131・132 はサヌカイト製石錠である。133～138 は木器である。削りかすと考えられるものが出土している。



第36図 1区 SD11断面・遺物実測図



第37図 2・3区 SD08断面・遺物実測図



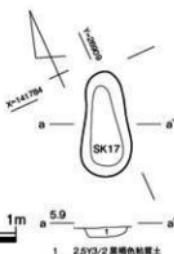
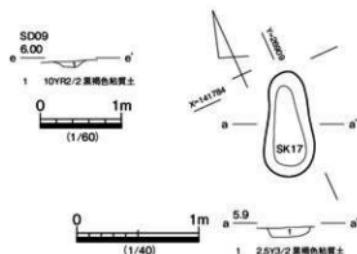
第38図 2区 SD10断面・遺物実測図

1区 SD11（第36図）

幅約0.6m、深さ約0.1mの小規模な溝である1区SD09及び1区SD04とは明確な新旧関係は認められない。出土遺物が平安時代から中世前半のものであることから、ほぼ同じ時期の遺構と考えられる。139は土師器杯である。140は須恵器壺である。

2・3区 SD08（第37図）

2区SD10より新しい。3区SD03より古い。遺構検出面では最大幅約1.5mを測るが、これは最終埋没時に肩が崩れて大きくなったもので、本来の規模は幅約0.7mであると考えられる。底面標高は約5.25mで、深さは約0.7mである。埋土は大きく3層に分かれ、流水状態を示す最下層の粗砂層、滞水状況を示す中層の黒色系粘質土、再掘削後の最終埋没土である灰色系粘質土である。須恵器壺等が出土している。141は3区SD03と重複する部分で出土した須恵器壺である。



第39図 2・3区 SD09断面図、
2区 SK17平・断面図



第40図 2区 SD11断面図

2区 SD10（第38図）

2区 SD08より古い。遺構検出面では最大幅約15mを測るが、これは最終埋没時に肩が崩れて大きくなつたもので、本来の規模は幅約0.7mであると考えられる。SD08の西側で急に狭くなっているのは、この肩部分の崩落がなかったものか、あるいは上部が削平された結果であると考えられる。埋土は大きく3層に分かれ、流水状態を示す最下層の粗砂層、滯水状況を示す中層の黒色系粘質土、再掘削後の最終埋没土である灰色系粘質土である。底面標高は5.3mで、検出面からの深さは約0.65mである。

埋土の状況、遺構の規模や底面の標高がSD08とはほぼ同じであることから、少なくとも中層の堆積までは、同時併存していた可能性があり、最終埋没時が異なるため、SD10の方を古く検出した可能性がある。

遺物は弥生土器や古代の須恵器・土師器が出土している。142は古式土師器の鉢である。

2・3区 SD09、2区 SK17（第39図）

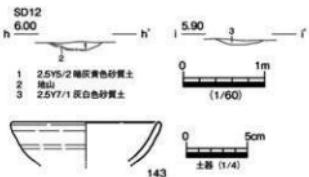
SD09は最大幅0.4m、深さ約0.1m程度の小規模な溝である。2・3区 SD01より古い、茶色系の埋土である。遺物は出土していないが、埋土から当該期と考えられる。また、SK17は浅い小規模な遺構である。SD09と同様な埋土であることから、SD09の延長部の可能性がある。出土遺物はない。

2区 SD11（第40図）

最大幅約0.4m、深さ約0.1mの小規模な溝である。茶色系の埋土を持つ。近世土坑、2区 SD12及び2区 SD10より古い。遺物は出土していないが、埋土から当該期と考えられる。

2区 SD12（第41図）

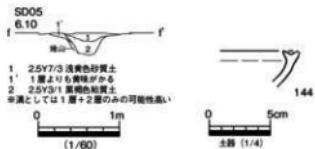
最大幅0.6m、深さ約0.2mの小規模な溝である。茶色系の埋土を持つ。2・3区 SD08、2区 SE01より古く、2区 SD11より新しい。西村産須恵器椀や土師器小片が出土していることから、当該期と考えられる。143は須恵器椀である。



第41図 2区 SD12断面・遺物実測図



第42図 3区 SD02断面図



第43図 3区 SD05断面・遺物実測図



第44図 3区 SD07断面図

3区 SD02（第42図）

最大幅0.5m、深さ約0.1mである。近世土坑3区SK03、同SK04より古い。出土遺物は無い。

3区 SD05（第43図）

最大幅約0.7m、深さ約0.25mである。調査区北側壁面では、3区SD03最終埋没土より古い段階で埋没していることがわかる。3区SD04より古い。断面f-f'の1層はSD06埋土と考えられることから、3区SD06より古い。出土遺物は須恵器杯144、土師器小片2点のみである。

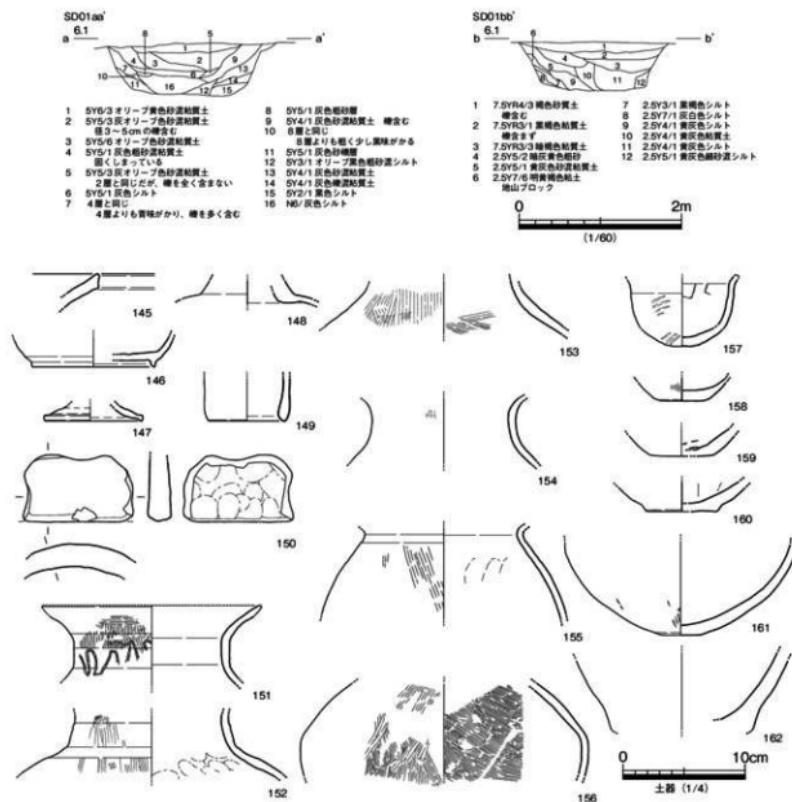
3区 SD07（第44図）

最大幅約0.5m、深さ約0.03mである。3区SD05と同様な茶色系の埋土である。3区SD01及び3区SD06より古い。遺物は出土していない。

4区 SD01（第45図）

最大幅約2.0m、深さ約0.6mである。底面標高は約5.4mである。弥生土器及び須恵器が出土している。埋土下層は、黒色シルト及び砂疊混じり粘質土となっており、土層断面からは再掘削されているものと考えられる。この下層を中心に出土している。

145は土師器鍋と考えられる。146～148は須恵器である。149は飯蛸壺である。150は丸瓦である。151～162は弥生土器である。151は頸部に線刻文様が見られる。弥生土器がまとまって出土しているのは、これらの土器は本来4区SD02あるいはSD03に帰属していたものの、4区SD01の開削に伴いSD01内へ流出したためと考えられる。



第45図 4区 SD01断面・遺物実測図

3 中世

ここでは出土遺物から明らかに中世の時期と考えられる遺構と、詳細な時期は不明であるが、近世より古いと考えられる遺構を報告する。

3区 SK19 (第46図)

調査区南壁付近で検出された。長さ約0.7m、幅約0.6m、深さ約0.2mである。近世土坑より下の検出面で見つかっていることから、近世以前の時期が考えられる。埋土は地山ブロックを含むことから、埋められたものと考えられる。底面は砂礫層に達していない。遺物は出土していない。

3区 SX02（第47図）

平面形が屈曲しているものの、土坑状を呈する。土師器小片が出土している。163は土師器碗である。

4区 SX05（第48図）

平面形が隅丸方形に近い。東西約1.5m、南北約1.9m、深さ約0.7mである。南壁での写真によれば埋土は茶灰色系の粘質土である。底面は砂礫層に達していることから取水及び貯水を目的とした遺構と考えられる。出土遺物は土師質土器皿や足釜、中国産青磁など中世前半頃の遺物が出土している。164～172は土師質土器である。172は荒いハケ目のある土師質土器で近世の焰熔のような形態である。近世遺物の混入かもしれない。173は中国産青磁である。174は備前焼壺である。

井戸

2区 SE01（第49～52図）

井側は石組みで、井筒は曲物である。井筒は、曲物2段重ねとなっており、上半は腐朽しており、下半のみ遺存していた。井筒部分の裏込めは、特別な埋め戻しはしていないようであるが、石組み部分は版築状になっている。井筒底部は砂礫層に達している。

井筒内埋土からは、土師質土器こね鉢が出土している。口縁部がほぼ水平の状態で出土しており、意図的に置かれた可能性もある。ただし、井筒内埋土は均質なシルトあるいは粘土であることから埋め戻された可能性は小さいと考えられる。

175は、井筒内埋土から出土した土師質土器鉢で、井戸の廃絶時期を示す資料である。口径が小さい。16世紀代とされる下川津遺跡¹⁾のSD IV 01から類似品が出土している。また、東播系須恵器の編年を参考にすれば、15世紀前半頃の資料と類似している。いずれにしても、次に報告する井戸裏込め出土と考えられる資料とは年代差がある。

176～193は井戸裏込めから出土した遺物である。176～184は土師質土器である。185は須恵器碗である。186は東播系須恵器鉢である。187は瓦器碗である。188は亀山焼壺である。これらの遺物は13世紀後半を中心とした時期と考えられる。189は北宋銭で、1086（元祐元）年初鑄の「元祐通寶」である。190～193は木製品である。192は曲物底板である。193は漆器碗で、内面に赤漆が残存している。

194は井筒に使用された曲物である。基本的に側板が二重になっており、そのうち内側の側板は全周していないため、その部分を部分的に3枚目の側板で塞いだものと考えられる。側板には実際に機能している以外の多数の皮縫じ用の穴がみられ、この側板は再利用されたものと考えられる。側板内側には、切り曲げのための切れ目（ケビキ）が見られる。

また側板の外側には「まわし（「廻し」）の側板」²⁾あるいは「籠」³⁾「飾り輪」⁴⁾と呼ばれるものがある。保存処理時に樹種同定を実施し、スギとの同定を得ている（第4章）。

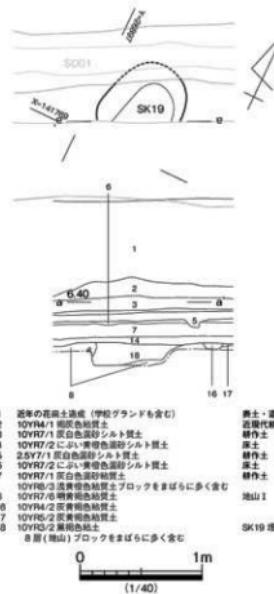
1) 香川県教育委員会『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅳ 下川津遺跡』1990

2) 南博史『絵巻物による曲げ物の一考察』『平安博物館研究紀要第7輯』1982

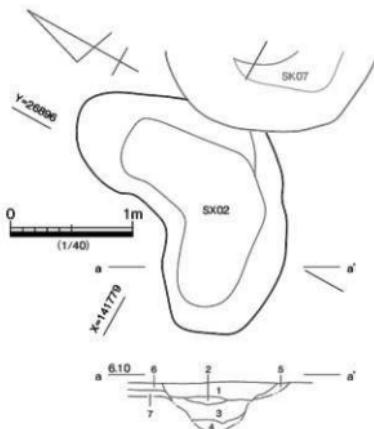
岩井宏實『曲物』1994 法政大学出版社

3) 広島県草戸千軒町遺跡調査研究所編『草戸千軒町遺跡発掘調査報告Ⅰ』1993 ほか

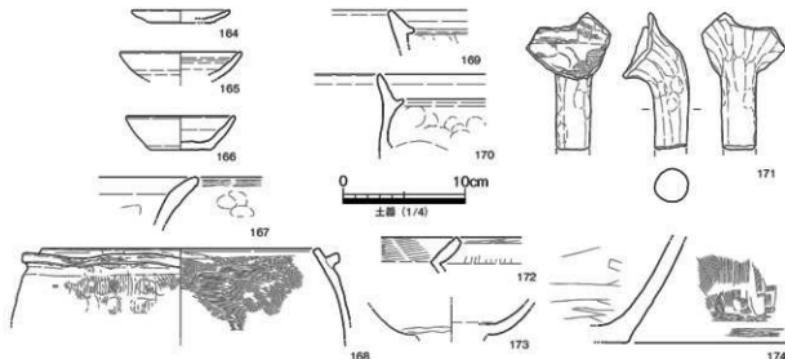
4) 成田壽一郎『曲物・籠』1996 理工学社



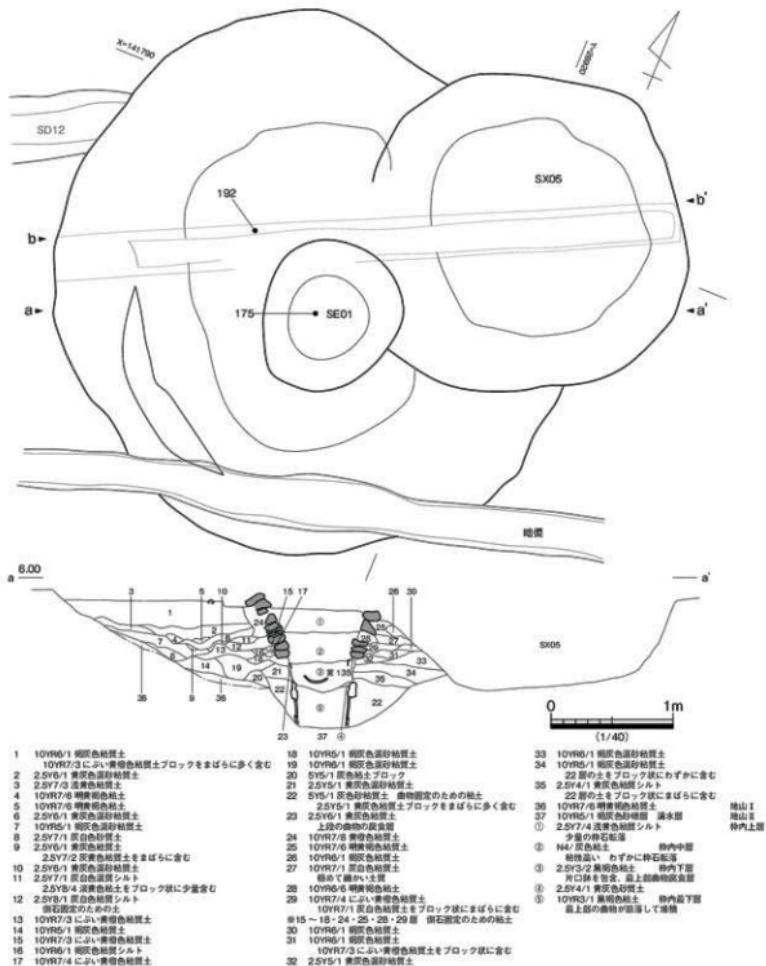
第46図 3区 SK19 平・断面図



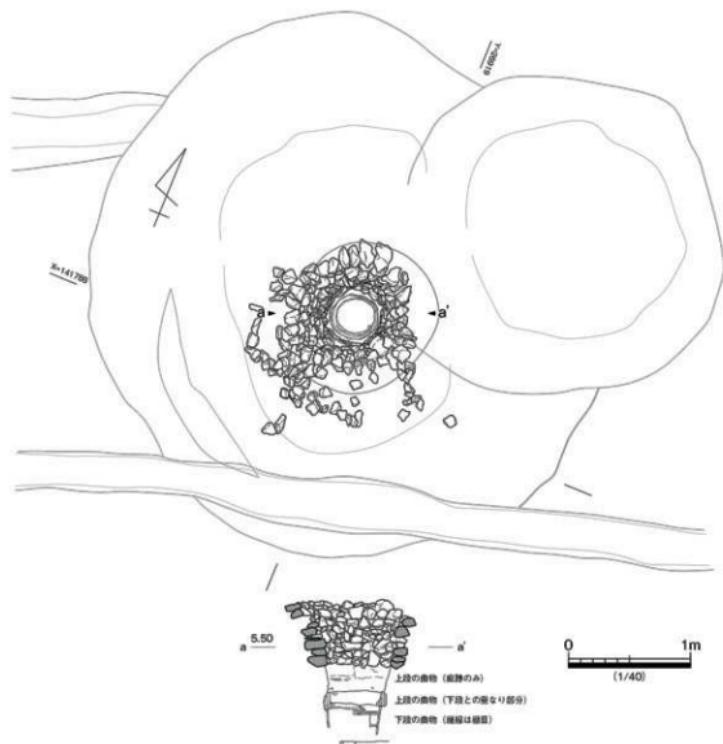
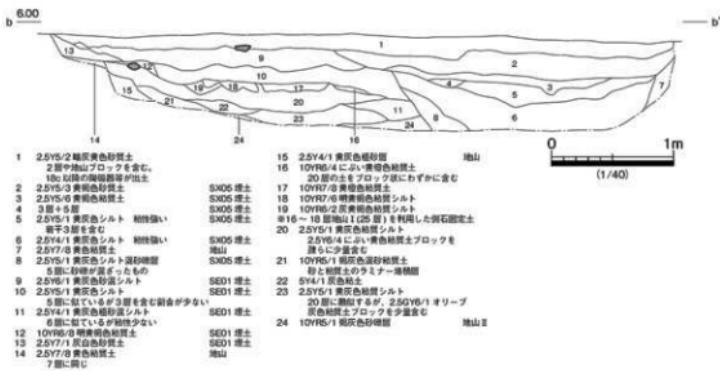
第47図 3区 SX02 平・断面・遺物実測図



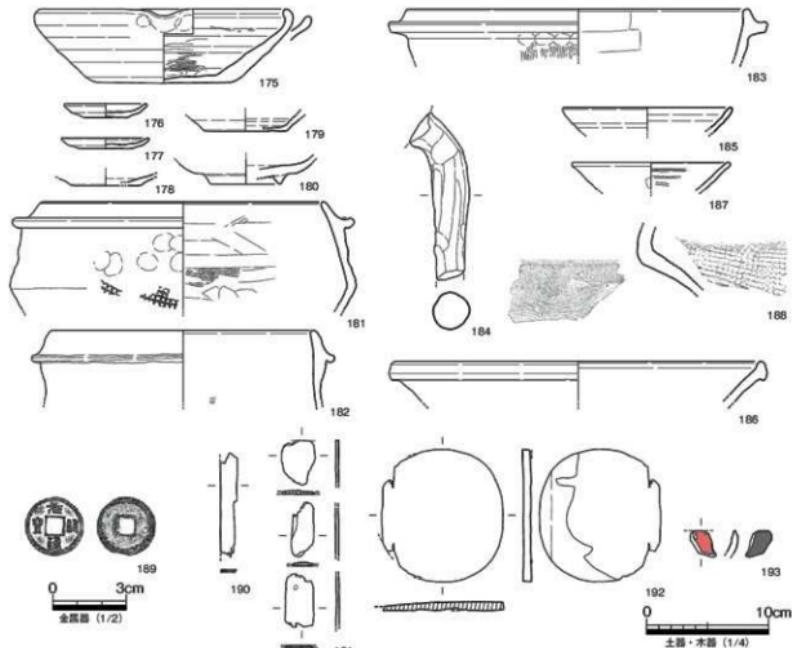
第48図 4区 SX05 遺物実測図



第49図 2区 SE01 平・断面図



第 50 図 2 区 SE01・SX05 断面図、2 区 SE01 井戸本体 平・断面図



第51図 2区 SE01 遺物実測図①

溝跡

1区 SD06 (第53図)

浅い遺構である。出土遺物（土師質土器小片）及び埋土から当該時期と考えられる。

1区 SX02、03、04、05 (第54図)

ほぼ平行する浅い溝跡で、鬱溝の可能性がある。中世の土器が出土していること、1区 SD04より新しいことから、中世と考えられる。

3区 SD03 (第55図)

検出最大幅約15mである。底面標高は約5.3mで、検出面からの深さは約0.75mである。2・3区 SD08や2区 SD10にみられる黒色系粘質土の堆積は見られない。底面標高はほぼ同じである。2・3区 SD08より新しい。土師質土器小片等が出土しており、中世の遺構の可能性がある。195は土師器杯である。196は弥生土器と考えられる。197は砥石である。

3 区 SD04（第 56 図）

最大幅約 0.7 m、深さ約 0.2 m である。調査区北側壁面では、3 区 SD03 最終埋没土より下層で埋没していることがわかる。3 区 SD05 より新しい。南東端は 2・3 区 SD08 と重複するものと考えられるが、現地調査では途中で途切れているように記録されている。3 区 SD03 とは平行することから、SD03 から取水した水を流すものであった可能性はある。

出土遺物は、須恵器小片 1 点のみである。

3 区 SD06（第 57 図）

最大幅約 0.5 m、深さ約 0.05 m の浅い溝である。3 区 SD05 及び 3 区 SD07 より新しい。遺物は出土していない。

4 近世以降

掘立柱建物

4 区 SB01（第 58 図）

ほぼ正方形の平面形であるが、南北方向を桁行とする。規模は、桁行 2 間（約 3.1 m）、梁行 2 間（約 3.6 m）である。主軸方位は N 26°W で、周辺の推定条里地割に方向が合う。

遺物は柱穴 6 から土師器小片 2 点が出土しているのみである。柱穴埋土から当該期と考えられる。

土坑

平面形がほぼ円形を呈する土坑が多数検出されているが、出土遺物からは 18 世紀後半以降の時期が考えられる。底面が砂礫層に達しているものについては、地下水を取水して蓄えるための施設と考えられる。

1 区 SK01（第 59 図）

深さ約 0.04 m の浅い遺構である。底面は礫層に達していない。土師器小片が出土している。埋土から近世以降と考えられる。

1 区 SK02（第 59 図）

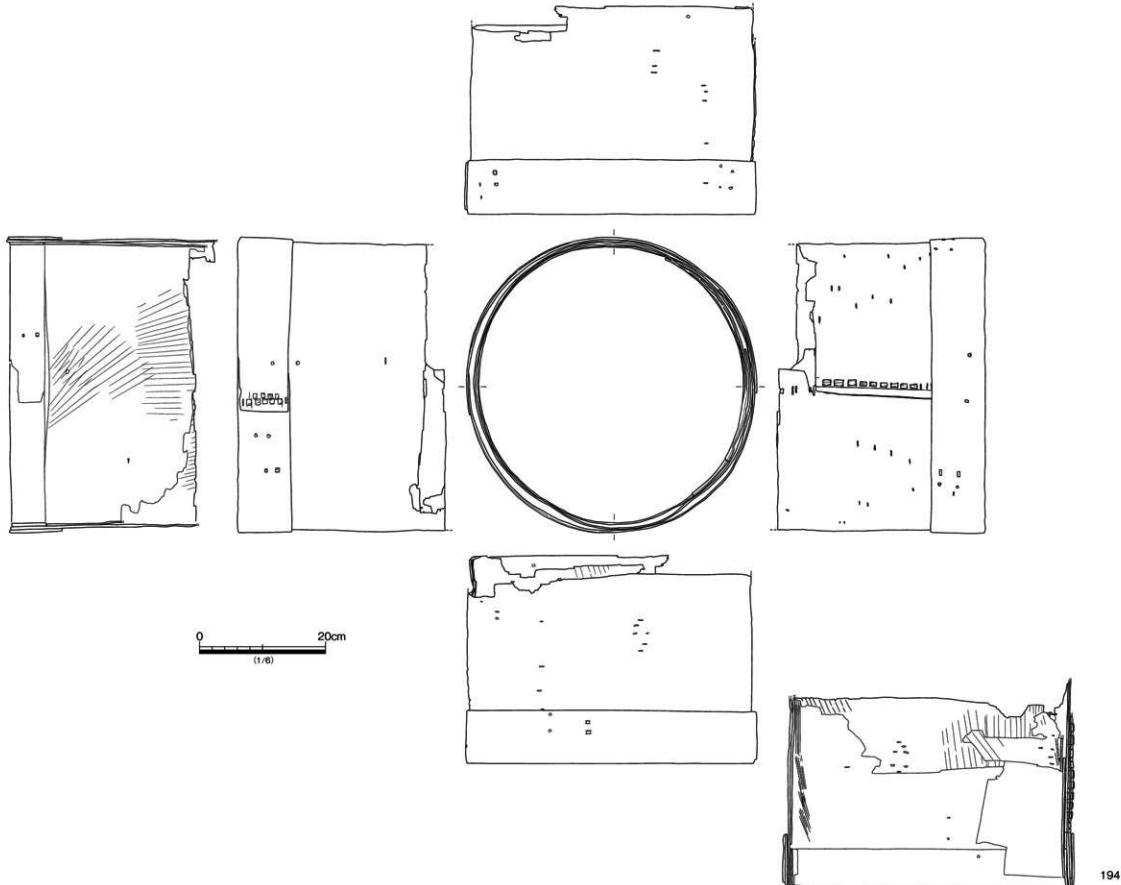
平面形が方形をなす浅い遺構で、底面は砂礫層に達していない。出土遺物（近世磁器）及び埋土から近世以降と考えられる。

1 区 SK03（第 59 図）

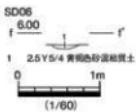
平面形が方形をなす浅い遺構で、底面は砂礫層に達していない。底面に炭の広がりが認められる。埋土から近世以降の時期が考えられる。

1 区 SK04

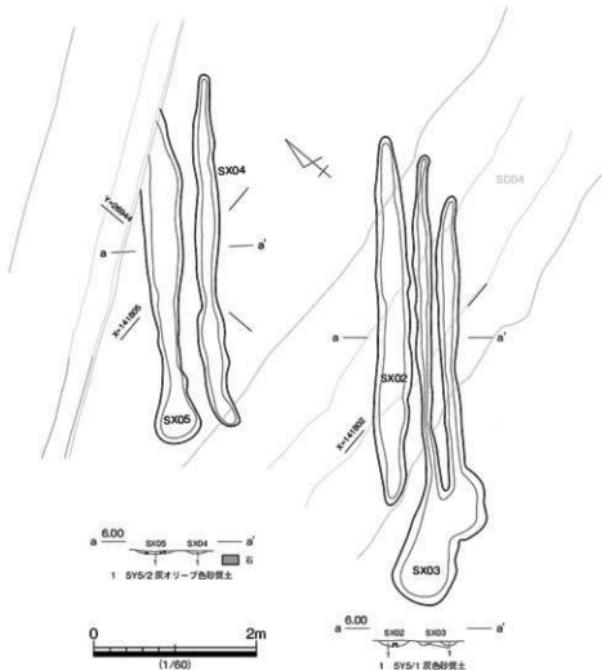
調査区北壁際で検出された埋土に円礫を含む浅い土坑である。底面は砂礫層には達していない。埋土から近世以降の時期が考えられる。



第52図 2区 SE01 遺物実測図②



第53図 1区 SD06 断面図



第54図 1区 SX02・03・04・05 平・断面図

1区 SK06（第59図）

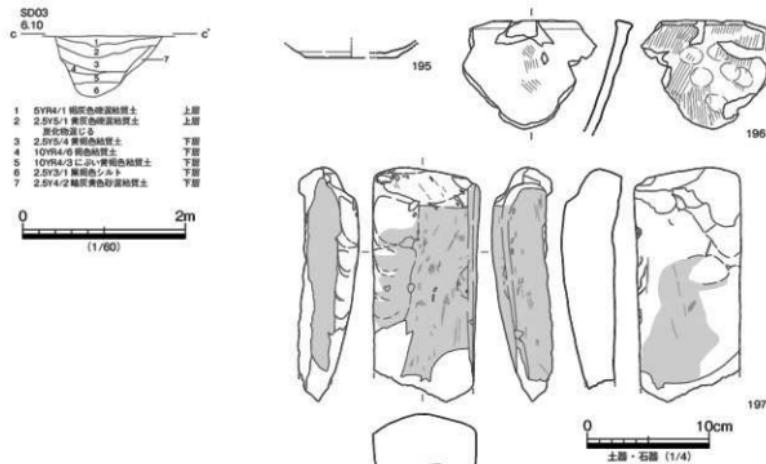
底面は砂礫層には達していない。埋土に地山ブロック土を多く含む。埋土及び出土遺物（近世の白磁、瓦）から近世以降の時期と考えられる。198は白磁皿である。

1区 SK07（第59図）

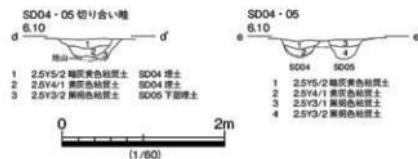
底面は砂礫層に達していない。埋土及び出土遺物から近世以降の時期が考えられる。

1区 SK09

調査区北壁際で検出された埋土に地山ブロックを含む浅い遺構である。底面は砂礫層に達していない。近世以降の時期が考えられる。



第 55 図 3 区 SD03 断面・遺物実測図



第 56 図 3 区 SD04 断面図



第 57 図 3 区 SD06 断面図

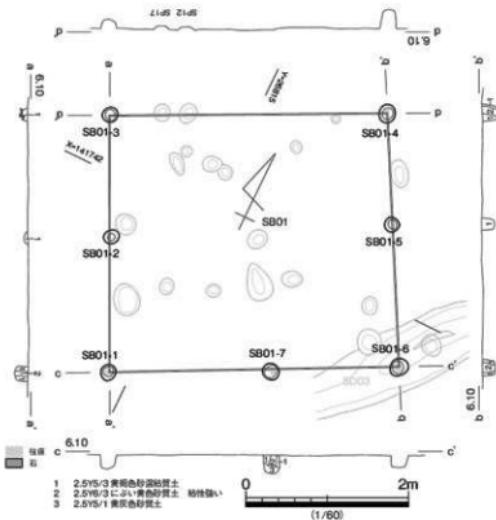
1 区 SX01 (第 60 図)

細長い土坑状の遺構である。深さはやや深く、近世磁器が出土している。埋土は、1 区 SD04 由来と考えられる黒色粘土ブロックを含むもので、短期間のうちに埋められたものと考えられる。199 は丸瓦である。

2 区 SK08 (第 61 図)

断面形が逆台形をなす。埋土最下層には滲水状態を示す灰色シルトが見られるが、上部は疊や地山ブロックが含まれ、埋め立てられたものと考えられる。底面は砂礫層に達していることから地下水を貯めることを目的としたものと考えられる。近世陶器が出土している。

200 は白色釉の陶器である。201・202 は備前焼系陶器である。



第58図 4区 SB01 平・断面図

2区 SK09（第61図）

断面形が逆台形をなす。埋土最下層には滯水状態を示す灰色シルトが見られるが、上部は地山ブロックが多く含まれ、埋め立てられたものと考えられる。底面は砂礫層に達していることから地下水を貯めることを目的としたものと考えられる。遺物は出土していないが、埋土や他の近世土坑との形状が類似していることから近世以降の時期が考えられる。

2区 SK10（第61図）

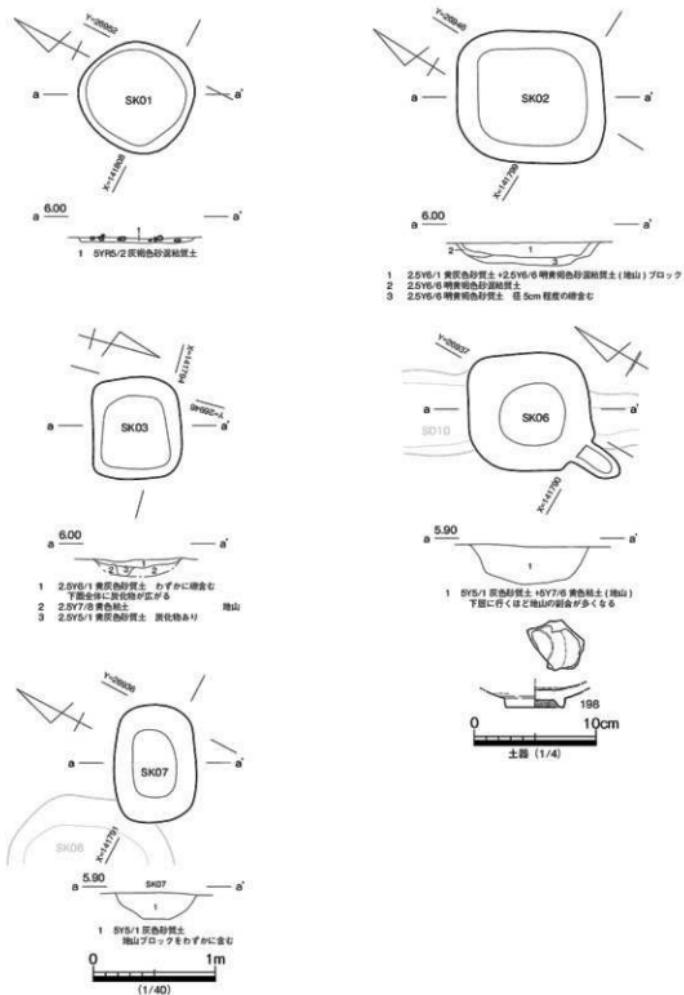
平面形が長方形をなす墓坑状の遺構である。底面は砂礫層に達していない。遺物は出土していないが、埋土から近世以降の時期が考えられる。

2区 SK11（第62図）

断面形が逆台形をなす。埋土は他の近世土坑と共通し、埋土最下層には滯水状態を示す灰色シルトが見られるが、上部は地山ブロックが多く含まれ、埋め立てられたものと考えられる。底面は砂礫層に達していることから地下水を貯めることを目的としたものと考えられる。近世陶器が出土している。203は白磁壺である。204は京焼風陶器椀である。205は褐色釉の陶器皿である。

2区 SK12

他の近世土坑と共に、埋土上部は地山ブロックが多く含まれ、埋め立てられたものと考えられる。調査区北壁で検出され調査は約半分しか実施していないが、調査範囲では底面は砂礫層に達していない。



第59図 1区 SK01・02・03・06・07 平・断面・遺物実測図

近世陶磁器が出土している。

2区 SK13（第62図）

土師質の大甕を設置した土坑である。甕の底面ではなく、また甕の設置面（土坑底面）は砂疊層に達していることから、地下水が湧き出れば、甕の中に滲水したものと考えられる。遺物は、近世磁器や瓦が出土している。

2区 SK14（第62図）

埋土最下層には滲水状態を示す灰色シルトが見られるが、上部は地山ブロックが多く含まれ、埋め立てられたものと考えられる。底面は砂疊層に達していることから地下水を貯めることを目的としたものと考えられる。近世の擂鉢206が出土している。

2区 SK15（第62図）

小規模な土坑である。埋土には地山ブロックが多く含まれ、埋め立てられたものと考えられる。底面は砂疊層に達していない。近世陶磁器が出土している。

2区 SK16（第61図）

2区 SK10より古い。浅い小規模な土坑である。地山ブロックが多く含まれ、埋め立てられたものと考えられる。底面は砂疊層に達していない。近世の擂鉢207が出土している。

2区 SK18（第62図）

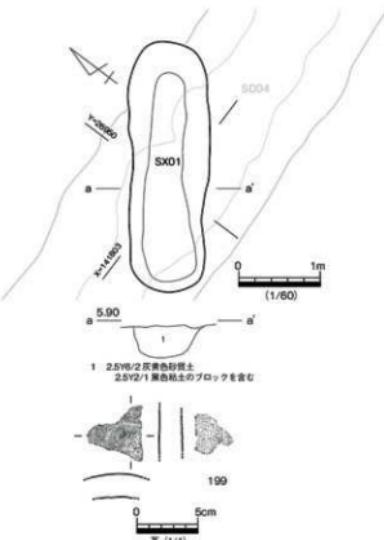
平面規模は小さいが、深さのある遺構である。埋土には地山ブロックが多く含まれ、埋め立てられたものと考えられる。底面は写真で見る限り砂疊層に達しているかどうか確実ではない。近世陶磁器が出土している。208は染付皿である。

2区 SX05（第49,50,63図）

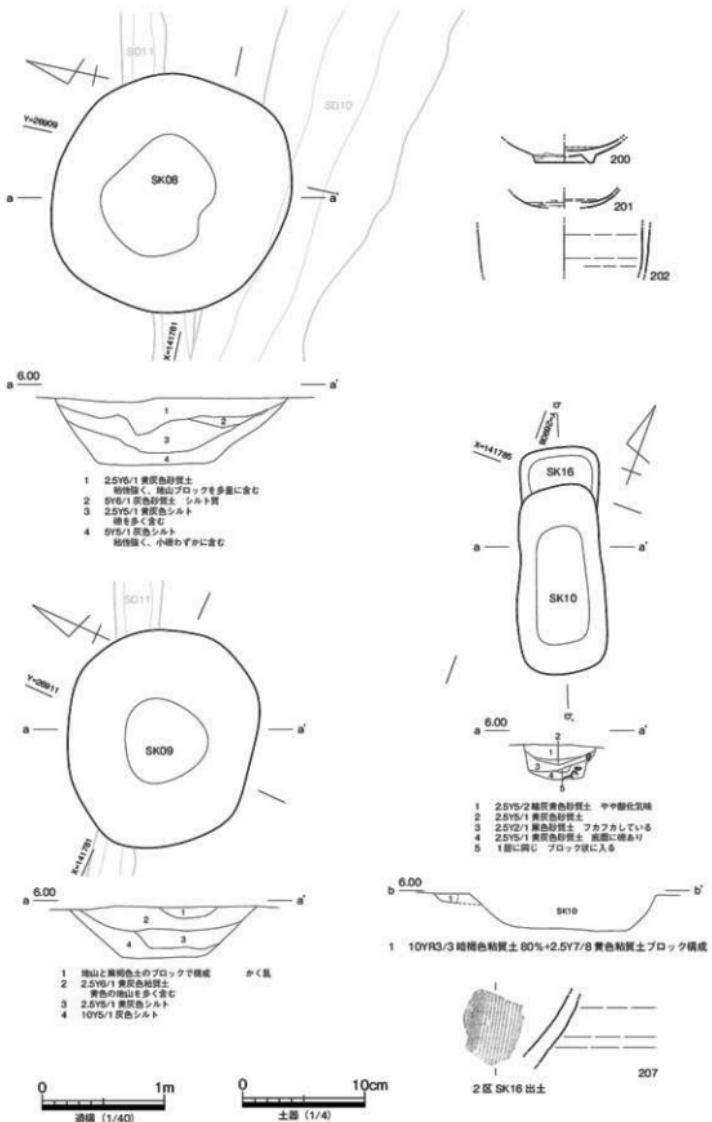
2区 SE01より新しい。規模・形態及び埋土の状況から近世土坑と考えられる。埋土最下層には滲水状態を示す灰色シルトが見られる。底面は砂疊層に達していることから地下水を貯めることを目的としたものと考えられる。土師器小片等が出土している。209は土師器碗である。

3区 SK01（第64図）

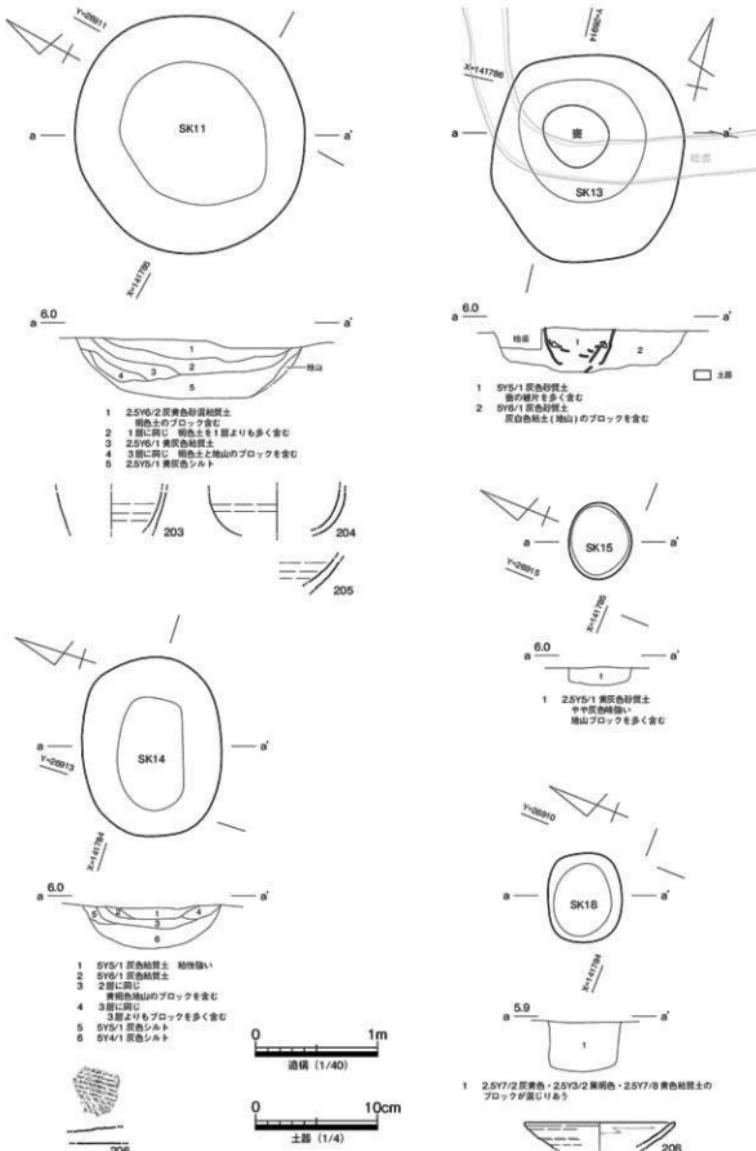
直径約24m、深さ約0.75mである。擂鉢状の形態の土坑である。下位には滲水状態を示す粘土層の



第60図 1区 SX01 平・断面・遺物実測図

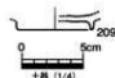


第 61 図 2 区 SK08・09・10・16 平・断面・遺物実測図



第62図 2区 SK11・13・14・15・18 平・断面・遺物実測図

堆積が見られるが、その上は砂礫を含む埋土で埋め立てられたものと考えられる。近世陶磁器が出土している。210 は白磁の紅猪口である。211 は染付皿である。212 は鉄軸の陶器皿である。213 は軟質陶器の壺である。



第 63 図 2 区 SX05 遺物実測図

3 区 SK02（第 65 図）

底面付近では流水堆積を示す粗砂が見られるが、それより上層は礫を含む粘質土で埋められたものと考えられる。底面は砂礫層に達している。近世陶磁器が出土している。214～217 は染付である。218 は肥前系陶器刷毛目椀である。219 は京焼風陶器椀である。220 は褐釉の陶器椀である。221 は備前焼擂鉢である。222 は土師質の鍋である。223 は頁岩製の砥石である。

3 区 SK03（第 65 図）

直径約 1.9 m、深さ約 0.3 m である。底面に板が敷いてある。また、断面写真によれば、板の外縁部に土管を置いてあったと考えられる。板が水に浮かないようにしたものと考えられる。近世陶磁器等が出土している。224 は備前焼擂鉢である。

3 区 SK04（第 66 図）

3 区 SK05 より古い、深さ約 0.1 m の浅い土坑である。遺物は出土していない。

3 区 SK05（第 66 図）

3 区 SD08 及び 3 区 SK04 より新しい。底面は砂礫層に達していることから地下水を貯めること目的としたものと考えられる。近世陶磁器が出土している。225 は白磁の猪口である。226 は染付椀である。227 は青緑釉陶器皿である。228・229 は備前系陶器である。

3 区 SK06（第 67 図）

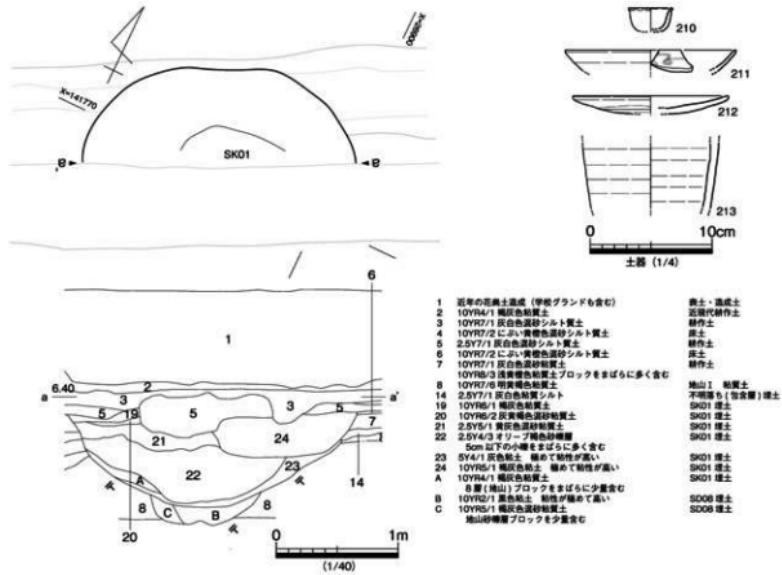
2・3 区 SD10 より新しい。床面は砂礫層に達しており、最下層は滲水状態の堆積が見られる。埋土最上層はブロック状の粘質土の堆積であることから埋め戻されたものと考えられる。中世の足釜が 1 点出土している。

3 区 SK07（第 67 図）

3 区 SX02 より新しい。埋土上層は、地山ブロック土の堆積が見られることから、埋め戻されたものと考えられる。埋土下層は滲水状態を示す堆積が見られ、床面は砂礫層に達していることから、この土坑は地下水を貯めること目的としたものと考えられる。近世陶磁器が出土している。230 は褐釉の陶器皿である。

4 区 SK01（第 68 図）

4 区 SD02 より新しい。底面は砂礫層に達していない。須恵器、土師器、石鎌が出土している。埋土から当該期と考えられる。231 は東播系須恵器鉢である。232 はサヌカイト製石鎌である。



第64図 3区 SKO1 平・断面・遺物実測図

4区 SK02（第68図）

4区 SD03より新しい。平面形はほぼ長方形で、主軸方向は4区 SB01と同じく条里型地割に合致する。埋土は地山ブロック土を含む。底面は砂礫層に達していない。土師器小片が出土している。埋土及び主軸方向から当該期と考えられる。

4区 SX01（第69図）

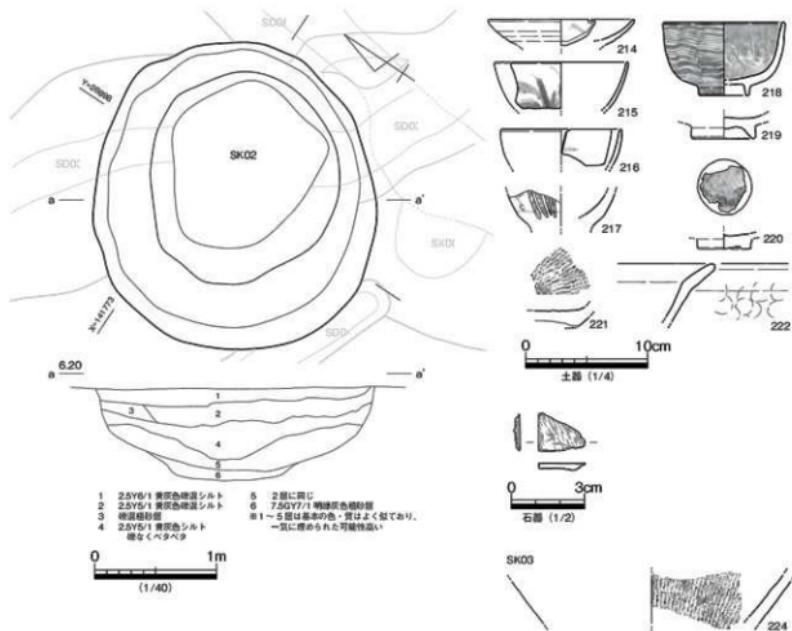
埋土には地山ブロックが多く、埋め戻されたものと考えられる。底面は砂礫層に達している。弥生土器が出土している。埋土から当該期と考えられる。

4区 SX02（第69図）

4-②区南壁際で検出された。底面は砂礫層に達している。近世陶磁器が出土している。

4区 SX04（第69図）

4-②区南西隅で検出された。南壁断面図からは皿状の遺構と考えられるが深さは不明である。近世陶磁器が出土している。233は白磁皿である。234は青磁皿である。235は染付蓋である。236は備前系陶器皿である。237は京焼風陶器碗である。238は掲釉の陶器碗である。239は備前焼壺である。



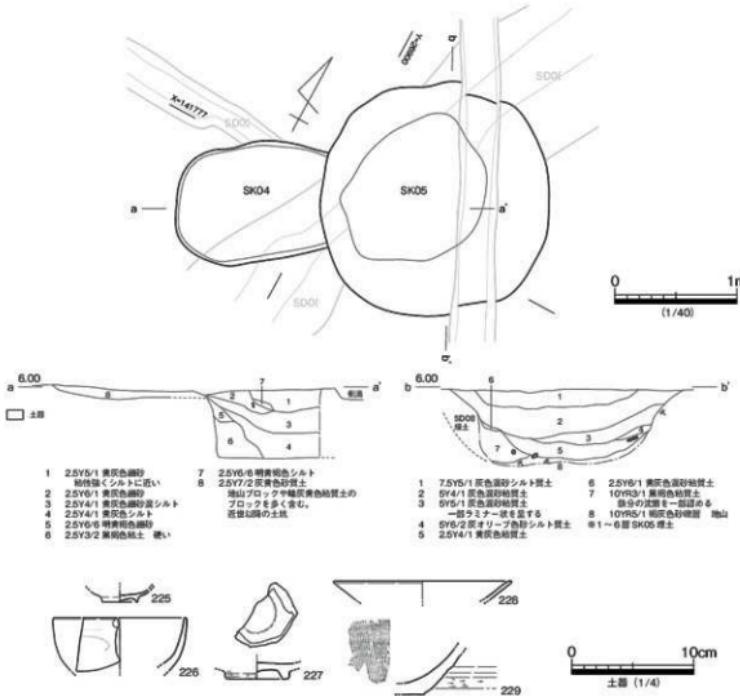
第 65 図 3 区 SK02・03 平・断面・遺物実測図

4 区 SX06・07

調査区南壁際で検出された浅い遺構である。4 区 SD01 より新しい。土師器、弥生土器小片が数点出土している。

4 区 SX08・09・10 (第 70.71 図)

4・④区西端で検出された。土層断面からは、同一遺構 2 回の再掘削が 3 つの遺構として現場調査の段階で認識されたものと考えられる。底面は砂疊層に達している。北側へ溝状に延長するように見えることから出土状遺構である可能性がある。北側の 4・②区では SX04 がその延長かもしれない。遺物は近世陶磁器、漆器碗及び加工木等が出土している。240～247 は SX08 から出土した。240 は染付椀である。241 は青磁壺である。242 は鉄軸の陶器碗である。243 は鉄軸の陶器壺である。244・245 は備前焼擂鉢である。246・247 は板材及び加工材（芯持）である。248・249 は SX09 から出土した染付椀及び灰釉の陶器香炉である。250・251 は SX10 から出土した染付椀及び色絵碗である。251 は表面が磨滅している。252～255 は土層確認トレンチから出土した。252 は中国産青磁である。253 は漆器碗で内面が赤漆、外側が黒漆で仕上げられている。254 は角材、255 は板材である。



第66図 3区 SK04・05 平・断面・遺物実測図

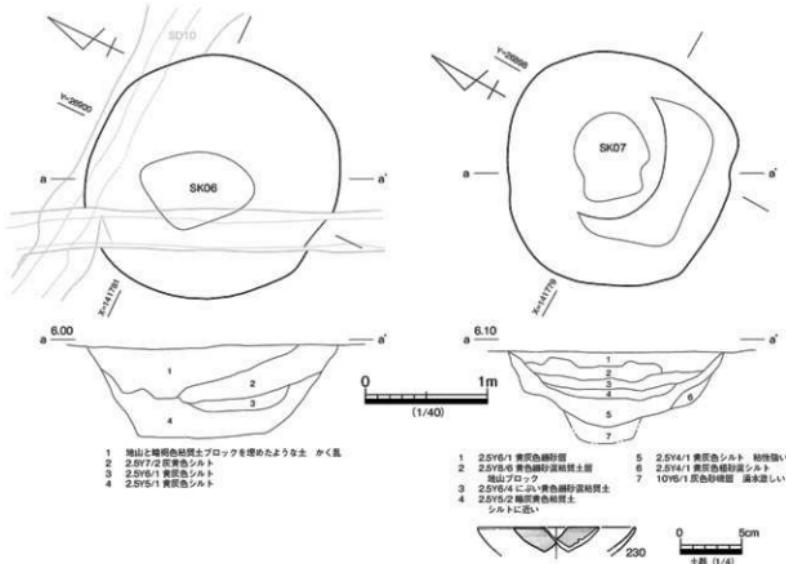
4区 SX11（第72図）

4-③区東壁際で検出されたもので、全体形は不明である。多量の地山ブロックを含むことから埋め戻されたものと考えられる。近世陶磁器が出土している。256は灰軸の陶器碗である。

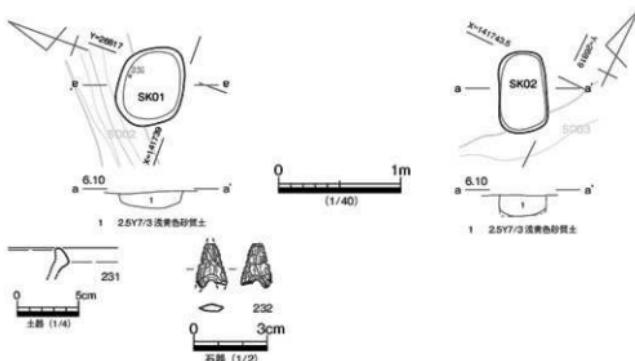
溝跡

1区 SD01（第73図）

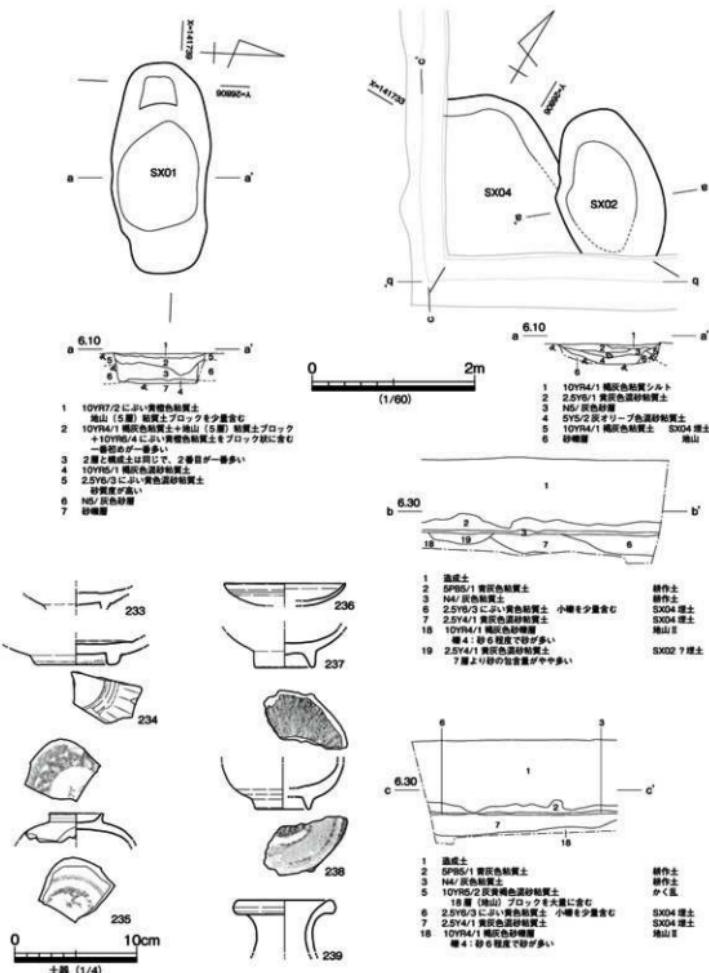
直線的に伸びる浅い溝跡である。最大幅約0.8m、深さ約0.1mである。埋土及び出土遺物から近世以降の時期が考えられる。近世陶磁器が出土している。257は白磁盤である。258は白磁碗である。259～268は染付碗である。269～271は染付徳利あるいは瓶である。272は青磁染付碗である。273は青磁染付の可能性がある碗である。274・275は灰軸の陶器皿である。276は備前系陶器皿である。277は青釉軸陶器皿である。278は灰軸の陶器碗である。279は褐軸の陶器碗である。280は褐軸の陶器皿である。281は軟質陶器の鍋である。282は備前焼擂鉢である。283は備前焼系陶器の甕である。



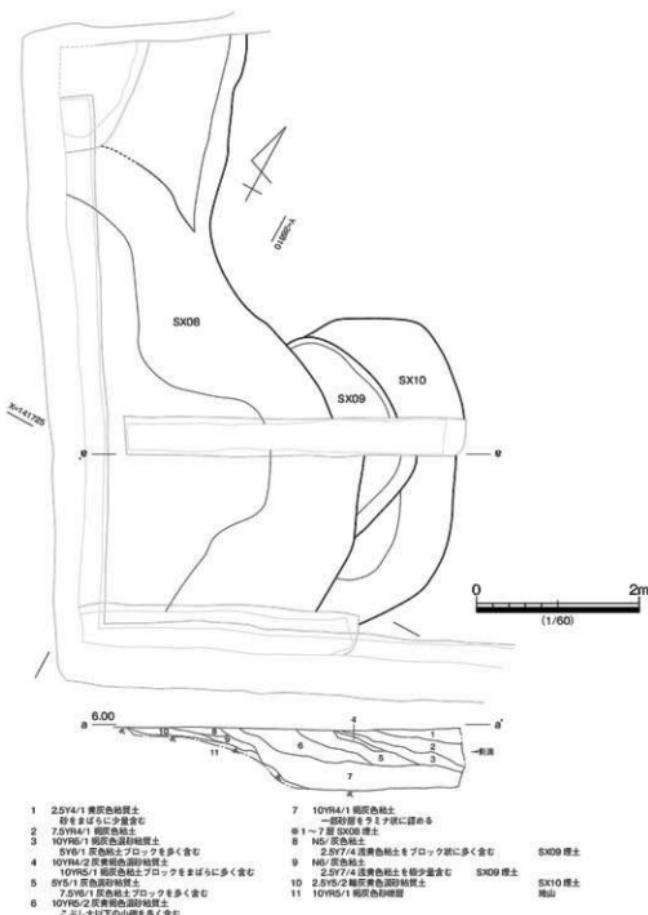
第 67 図 3 区 SK06・07 平・断面・遺物実測図



第 68 図 4 区 SK01・02 平・断面・遺物実測図



第69図 4区 SX01・02・04 平・断面・遺物実測図



第 70 図 4 区 SX08・09・10 平・断面図

1区 SD02（第73図）

埋土から近世以降の時期が考えられる。浅い遺構である。284は土師質土器足釜である。

1区 SD05（第73図）

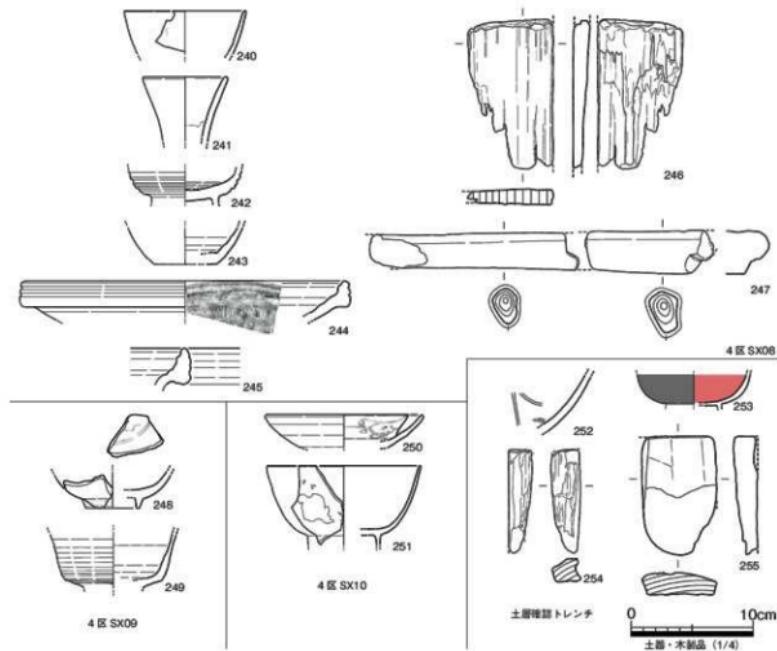
浅い小規模な溝である。埋土から近世以降と考えられる。

1区 SD10（第73図）

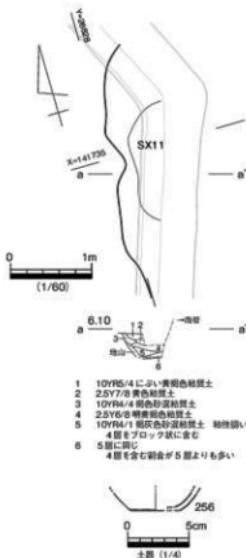
1区 SD01及び1区 SK06より古い溝であるが、近世陶磁器が出土していることから近世の時期と考えられる。1区 SD01とは直交する。285は鉄釉の陶器皿である。

3区 SD01（第74図）

近世土坑3区 SK01よりは古いものの、他の溝跡すべてより新しいことから近世頃の時期が考えられる。条里地割に方向が合致する。土師器小片1点のみが出土している。



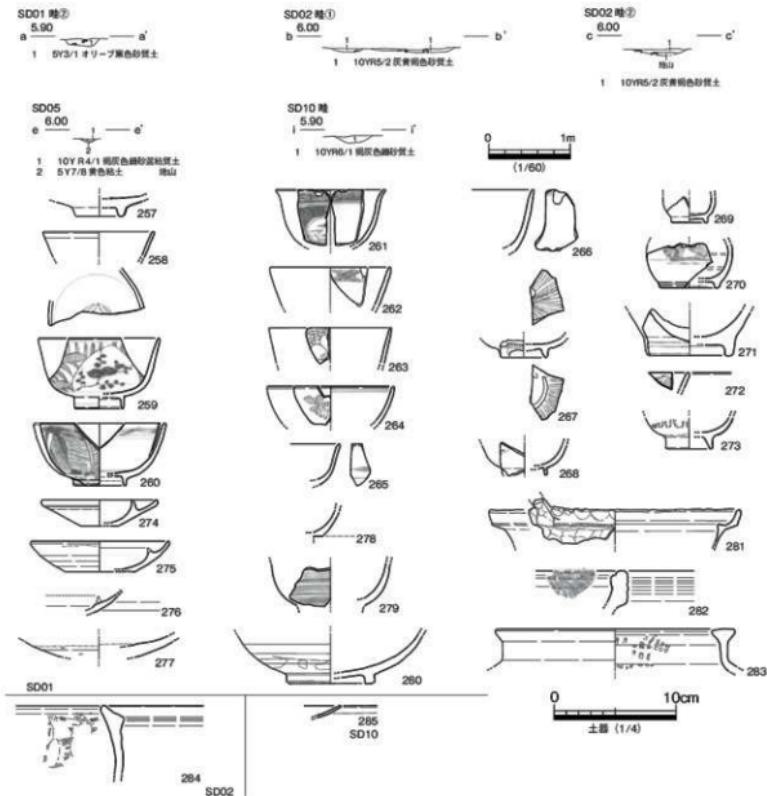
第71図 4区 SX08・09・10 遺物実測図



第 72 図 4 区 SX11 平・断面
・遺物実測図

5 ピット、包含層等からの出土遺物（第 75 図）

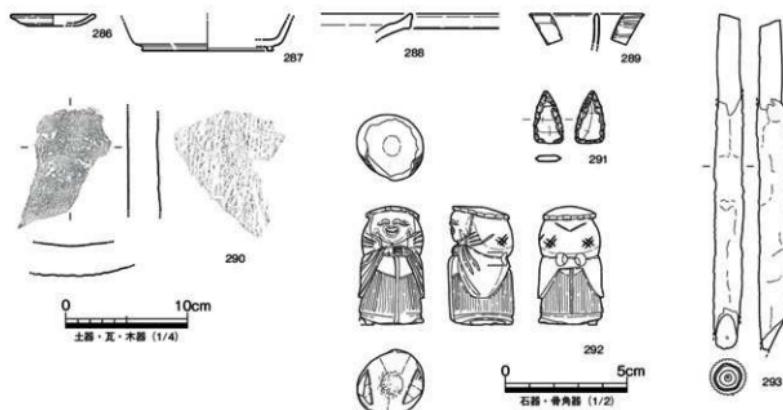
286 は、4 区 SP19 から出土した土師質土器皿である。288 は須恵器高台付杯である。288 は東播系須恵器鉢である。289 は中国産青磁碗で、口縁部に雷文が巡るものである。290 は平瓦である。291 はサスカイト製石鏃である。292 は1 区遣構検出時に出土した骨角器である。293 は側溝拡張時に出土したもので、先端のみに加工面がある。



第73図 1区 SD01・02・05・10断面・遺物実測図



第74図 3区 SD01断面図



第75図 ピット、包含層遺物実測図

第4章 自然科学分析

2区SE01井筒(194)の保存処理に伴い、樹種同定を実施している。

第1節 香川県津森位遺跡出土木製品の樹種調査結果

(株)吉田生物研究所

1. 試料

試料は香川県津森位遺跡から出土した井筒1点である。

2. 観察方法

剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。このプレパラートを顕微鏡で観察して同定した。

3. 結果

樹種同定結果（針葉樹1種）の表と顕微鏡写真を示し、以下に主な解剖学的特徴を記す。

1) スギ科スギ属スギ (*Cryptomeria japonica D.Don*)

（遺物No.1）

（写真No.1）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや急であった。樹脂細胞は晩材部で接線方向に並んでいた。柾目では放射組織の分野壁孔は典型的なスギ型で1分野に1～3個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。樹脂細胞の末端壁はおおむね偏平である。スギは本州、四国、九州の主として太平洋側に分布する。

参考文献

島地謙・伊東隆夫「日本の遺跡出土木製品総覧」雄山閣出版（1988）

島地謙・伊東隆夫「図説木材組織」地球社（1982）

伊東隆夫「日本産広葉樹材の解剖学的記載I～V」京都大学木質科学研究所（1999）

北村四郎・村田源「原色日本植物図鑑木本編I・II」保育社（1979）

深澤和三「樹体の解剖」海青社（1997）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第27冊 木器集成図録 近畿古代篇」（1985）

奈良国立文化財研究所「奈良国立文化財研究所 史料第36冊 木器集成図録 近畿原始篇」（1993）

使用顕微鏡

Nikon DS-Fi1

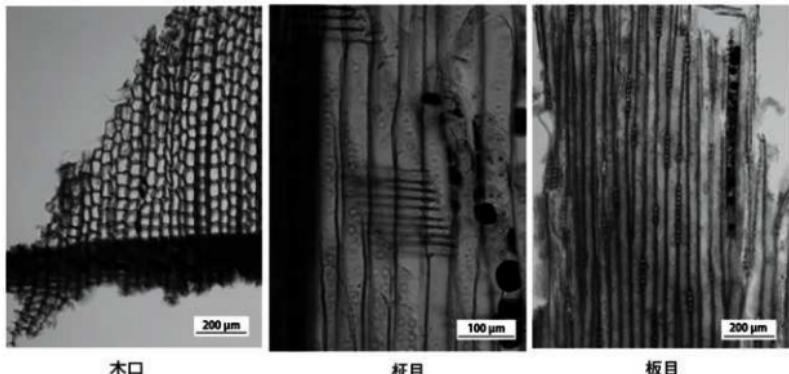


写真1 樹種同定顕微鏡写真

第5章 総括

第1節 瓦の出土について

1区SD04を中心として平安時代後半頃と考えられる瓦が出土している。この遺構からは44点、重量6.429kgの瓦が出土しており、これ以外の遺構からは9点、重量0.759kgが出土している。詳細は第2表のとおりである。先に報告されている「津森位遺跡I」では、瓦の出土は僅少とされており、報告書に掲載されたものは、10世紀後半及び中世の遺構から出土した6点である。津森位遺跡の南400～500mの位置にある田村廃寺との関連を考えるべきであるとしている。今回の調査地で出土した瓦についても同様であろう。

遺構名	実測図掲載の有無	丸瓦		平瓦		計	
		点数	重量(g)	点数	重量(g)	点数	重量(g)
1区SD04	有	5	2237.5	25	3990.2	30	6227.7
	無	4	48.2	10	153.2	14	201.4
その他の遺構	有	3	316.6	2	393.2	5	709.8
	無	4	49.0	0	0.0	4	49.0
計		16	2651.3	37	4536.6	53	7187.9

小破片ため瓦の種類が不明なものは、平瓦として集計している。

第2表 出土瓦集計表

第2節 遺構について(第76・77図)

弥生時代終末期

溝2条が検出されているのみである。ガラス滓と考えられる遺物が注目できる。

平安時代後半

津森位遺跡Iでは、古代から中世の建物遺構が多数検出されたものの、その西隣の今回の報告箇所では、建物遺構はほとんど見られない。遺構面標高に大きな違いはないことから後世の削平により遺構が無くなった可能性は小さく、本来建物遺構がなく、用水路を主体とする地区であったと考えられる。

平安期の大型水路は南東から北西への方向のものが多く、津森位遺跡IのⅢ区SR01は本報告の平安時代の大型水路に類似したものと考えられる。条里型地割との関係では一部の溝が条里方向を示すものの、明確に条里地割に関係する遺構は無いようである。当遺跡においては、条里型地割の方向に向くのは中世以降と考えられる。

大型水路のうち、1区SD04からは、10世紀後半頃の遺物がまとめて出土しており、基準的な資料と考えられる。またこの溝からは瓦がまとめて出土した。

中世

平安時代後半の溝の最終埋没は中世に下るものと考えられるが、明らかに中世の中で開削から埋没までが取まると考えられるのは、井戸2区SE01である。開削は13世紀後半と考えられ、最終埋没は15、16世紀頃と考えられる。

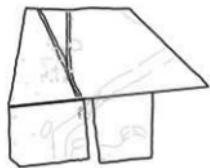
近世以降

近世後半の水溜用と考えられる土坑が多数検出されている。

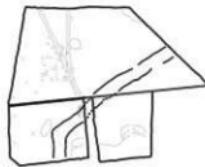
第76図 遺構変遷図(1)

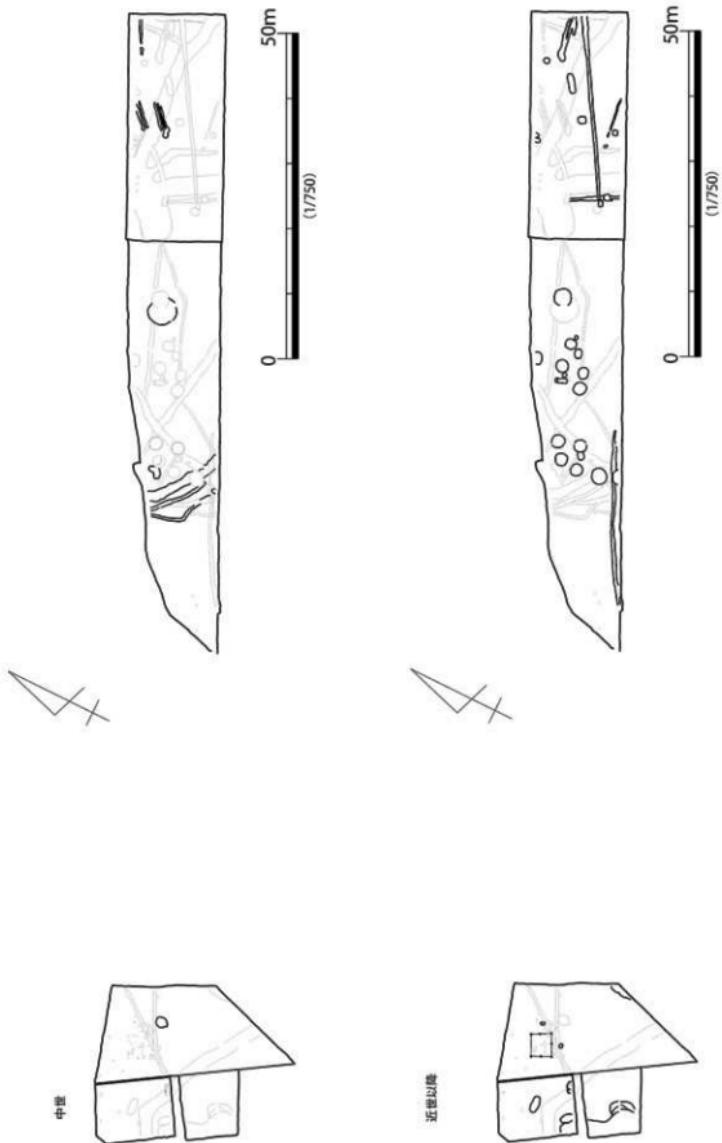


後生時代終末期



平安時代後半





第77図 津森佐道跡(2)

番号	地区名	遺跡名	層位	種類	器種	裏面	外面	裏面	外面	色調		土	法面	器高	底径	残存率	備考
										石英	赤色角閃石						
1	4・1区	SD02・SD04②	張生土器	壺	不明(マメツ)	不明(マメツ)	ヨリYR6.3に於い 黄褐色	572/1 黒	10YR6.4に於い 黄褐色	少細・少	無	壺・並	-	-	-	-	1/8
3	4・1区	SD03②	下層 張生土器	壺	不明(マメツ)	ヨコナード・ナダ	10YR6.4に於い 黄褐色	中・並	無	無	中・並	-	-	-	-	-	1/8 東側
4	4・1区	SD03③	下層 張生土器	壺	不明(マメツ)	ヨリYR6.3に於い 黄褐色	23YR2/2灰白	23YR2/1灰白	中・少	無	無	-	-	-	-	-	5.0 4/8
5	4・1区	SD03・Pn3-P1	張生土器	壺	不明(マメツ)	ヨリYR6.3に於い 黄褐色	10YR6.3に於い 黄褐色	10YR6.3に於い 黄褐色	少細・少	無	無	中・並	-	-	-	-	40 3/8
6	4・1区	SD03②	下層 張生土器	盆	口縁・体・内側 高さ・底	不明(マメツ)	ヨリYR6.3に於い 黄褐色	10YR6.3に於い 黄褐色	少細・少	無	無	中・並	-	-	-	-	1/8
7	4・1区 Pn3-P1の 方)	SD03③	上層 張生土器	壺	不明(マメツ)	体・脚(ナダ)	23YR1 黄灰	25YR1 黄灰	中・少	無	無	中・並	-	-	-	-	7.8
8	4・1区	SD04②	下層 土器	壺	不明(マメツ)	不明(マメツ)	23YR2/2灰白	25YR2/2灰白	中・並	少	無	無	-	-	-	-	6.0 2/8
9	1区	SD04②	下層 土器	壺	不明(マメツ)	不明(マメツ)	23YR2/2灰白	25YR2/2灰白	中・多	-	-	中・多	-	-	-	-	6.5 2/8
10	1区	SD04②	下層 土器	壺	不明(マメツ)	脚(ナダ)・キリ 引	10YR6.2灰白	10YR6.2灰白	-	-	-	中・多	-	-	-	-	6.0 7/8
11	1区	SD04②	下層 土器	壺	不明(マメツ)	不明(マメツ)	10YR6.2灰白	10YR6.2灰白	-	-	-	中・少	-	-	-	-	7.5 3/8
12	1区	SD04②	下層 土器	壺	不明(マメツ)	脚(ナダ)・キリ 引	10YR7.2に於い 黄褐色	10YR7.2に於い 黄褐色	-	-	-	中・少	-	-	-	-	6.8 7/8
13	1区	SD04②	下層 土器	壺	不明(マメツ)	脚(ナダ)・キリ 引	23YR3 深黃	23YR3 深黃	-	-	-	中・少	-	-	-	-	8.0 3/8
14	1区	SD04②	下層 土器	壺	不明(マメツ)	不明(マメツ)	10YR7.3に於い 黄褐色	10YR7.3に於い 黄褐色	-	-	-	中・少	-	-	-	-	8.4 6/8
15	1区	SD04②	下層 土器	壺	不明(マメツ)	不明(マメツ)	10YR8.2灰白	10YR8.2灰白	-	-	-	中・少	-	-	-	-	6.6 1/8
16	1区	SD04②	下層 土器	壺	不明(マメツ)	脚(ナダ)	23YR2/2灰白	23YR2/2灰白	-	-	-	中・少	-	-	-	-	8.0 6/8
17	1区	SD04②	下層 土器	壺	不明(マメツ)	不明(マメツ)	10YR7.4に於い 黄褐色	10YR7.4に於い 黄褐色	-	-	-	中・少	-	-	-	-	6.8 2/8
18	1区	SD04②	下層 土器	羽釜	ヨコナード	脚(ナダ)・体・ハゲ メ後ナダ	23YR7/2灰白	23YR7/3灰白	-	-	-	中・少	-	-	-	-	1/8
19	1区	SD04②	下層 土器	羽釜	体・脚(ナダ)・底	脚(ナダ)・切引	10YR7.4に於い 黄褐色	N7/灰白	-	-	-	中・少	-	-	-	-	1/8 東側
20	1区	SD04②	下層 土器	羽釜	体・脚(ナダ)・底	脚(ナダ)・切引	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	中・少	-	-	-	-	5.0 1/8
21	1区	SD04②	下層 土器	羽釜	体・脚(ナダ)・底	脚(ナダ)・切引 引後ナダ?	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	中・少	-	-	-	-	6.6 2/8
22	1区	SD04②	下層 土器	羽釜	脚(ナダ)・切引	脚(ナダ)・切引	10YR7.1灰白	10YR7.1灰白	-	-	-	中・少	15.9	-	-	-	1/8
23	1区	SD04③	下層 土器	羽釜	平行	平行(ナダ)	N6/灰	N6/灰	-	-	-	中・少	15.8	-	-	-	1/8 東側
24	1区	Pn3-P1	下層 土器	羽釜	平行	平行(ナダ)	10YR7.3に於い 黄褐色	10YR7.3に於い 黄褐色	-	-	-	中・少	-	-	-	-	-
25	1区	SD04②	下層 土器	羽釜	平行	平行(ナダ)	23YR3 深黃	23YR3 深黃	-	-	-	中・多	14.8	53	80	2/8	-
26	1区	SD04②	下層 土器	羽釜	黒色土	體六瓣	573/3 キリード	573/3 キリード	-	-	-	中・多	-	-	-	-	-

第3表 土器觀察表 (1)

編 番 号	地区名	遺跡名	層位	種類	器種	外觀	裏面	内面	色調	土石 長石	赤粒 角閃石	粘土 雲母	砂粒	口径	體高	體徑	残存率	備考	
27	1 区	SD04 ①	土場器	杯	口縁：ヨコナナデ、底：不明（マ ツメ）	口縁：ヨコナナデ、底：不明（マ ツメ）	10YR5/1 地灰	10YR5/2 地白	-	-	-	-	-	127	-	-	2/8		
28	1 区	切り合い部分 SD04 ①	土場器	杯	口縁：ヨコナナデ、底：不明（マ ツメ）	口縁：ヨコナナデ、底：不明（マ ツメ）	25YR2/2 地白	25YR2/2 地白	-	-	-	-	-	14	-	-	1/8		
29	1 区	SD04 ①	土場器	杯	不明（マツメ）	不明（マツメ）	75YR8/2 地白	75YR8/2 地白	-	-	-	-	-	中・少	-	-	61	3/8	
30	1 区	SD04 ①	土場器	杯	体：不明、底：直板ナデ タキリ	体：不明、底：直板ナデ タキリ	5YR6/6 梗	5YR6/6 梗	-	-	-	-	-	中・少	-	-	62	6/8	
31	1 区	SD04 ② 1	土場器	杯	体：不明（マツメ）	体：不明（マツメ）	10YR7/2 地白 黒鐵	10YR7/2 地白 黒鐵	-	-	-	-	-	細・少	-	-	66	3/8	
32	1 区	SD04 ① PNS-P9	土場器	杯	不明（マツメ）	不明（マツメ）	25YR8/1 地白	25YR8/1 地白	-	-	-	-	-	中・少	-	-	68	4/8	
33	1 区	SD04 ①	土場器	椀	口縁：一休ノツブ； 体：不明、底：直板ナデ タキリ	口縁：一休ノツブ； 体：不明、底：直板ナデ タキリ	5YR6/8 梗	5YR6/8 梗	-	-	-	-	-	中・少	147	-	-	1/8	
34	1 区	SD04 ②	土場器	椀	体：不明（マツメ）	体：不明（マツメ）	25YR7/2 地黄	25YR7/2 地黄	-	-	-	-	-	中・多	159	-	-	76	4/8
35	1 区	SD04 ①	土場器	椀	直板ナデ、底： ナデナナデ	直板ナデ、底： ナデナナデ	10YR8/2 地白	10YR8/2 地白	-	-	-	-	-	中・少	-	-	73	2/8	
36	1 区	SD04 ① PNS-P4	土場器	椀	不明（マツメ）	不明（マツメ）	25YR7/3 黄鐵	25YR7/3 黄鐵	-	-	-	-	-	細・多	-	-	75	7/8	
37	1 区	SD01 と SD04 切り分け部分 SD04 ① PNS-P8	土場器	椀	体：不明（マツメ）	体：不明（マツメ）	25YR1/1 黄灰	25YR1/1 黄灰	-	-	-	-	-	細・多	-	-	7	7/8	
38	1 区	SD04 ③	土場器	椀	体：直板ナデ、底： ナデナナデ	体：直板ナデ、底： ナデナナデ	25YR8/1 地白	25YR8/1 地白	-	-	-	-	-	中・少	-	-	74	3/8	
39	1 区	SD04 ③	土場器	羽釜	不明（マツメ）	不明（マツメ）	10YR5/2 地黄 黒鐵	10YR5/2 地黄 黒鐵	-	-	-	-	-	中・多	258	-	-	1/8	
40	1 区	SD04 ① PNS-P11	土場器	羽釜	口縁：不明（マツメ） 体：直板ナデ	口縁：不明（マツメ） 体：直板ナデ	5YR6/4 にい 黄鐵	5YR6/4 にい 黄鐵	-	-	-	-	-	中・多	306	-	-	1/8	
41	1 区	SD04 ①	土場器	羽釜	口縁：直板ナデ 底：直板ナデ	口縁：直板ナデ 底：直板ナデ	10YR5/2 地黄 黒鐵	10YR5/2 地黄 黒鐵	-	-	-	-	-	中・多	275	-	-	1/8	未調
42	1 区	SD01 と SD04 切り分け部分 SD04 ①	土場器	羽釜	口縁：ヨコナナデ 底：直板ナデ	口縁：ヨコナナデ 底：直板ナデ	25YR7/1 地白	25YR7/1 地白	-	-	-	-	-	細・多	311	-	-	1/8	未調
43	1 区	SD04 ①	土場器	羽釜	ヨコナナデ	ヨコナナデ	10YR7/3 にい 黄鐵	10YR7/3 にい 黄鐵	-	-	-	-	-	中・多	-	-	-	1/8 外面十付着	
44	1 区	SD04 ②	土場器	羽釜	ヨコナナデ 体：不明（マツメ）	ヨコナナデ 体：不明（マツメ）	10YR5/2 地黄 黒鐵	10YR5/2 地黄 黒鐵	-	-	-	-	-	中・多	250	-	-	1/8	
45	1 区	SD04 ①	土場器	羽釜	不明（マツメ）	不明（マツメ）	10YR5/2 地黄 黒鐵	10YR5/2 地黄 黒鐵	-	-	-	-	-	中・多	-	-	-	1/8	未調
46	1 区	SD04 ①	須恵器	杯	ナダ・底： 直板ナデ	ナダ・底： 直板ナデ	25YR7/1 地白	25YR7/1 地白	N8 地白	-	-	-	-	細・少	135	34	82	1/8	
47	1 区	SD04 ③	須恵器	杯	直板ナデ	直板ナデ	10YR7/1 地白	10YR7/1 地白	-	-	-	-	-	中・少	117	-	-	1/8	未調
48	1 区	SD04 ③	須恵器	杯	ヨコナナデ 直板ナデ	ヨコナナデ 直板ナデ	N7 地白	N7 地白	-	-	-	-	-	中・少	-	-	52	1/8	未調
49	1 区	SD04 ③	須恵器	椀	直板ナデ	直板ナデ	N8 地白	N8 地白	-	-	-	-	-	細・少	140	-	-	1/8	内面二口接外側 朱色化

第4表 土器觀察表 (2)

第5表 土器観察表 (3)

番号	地区名	遺跡名	層位	種類	器種	裏面		外面		色調		胎土		法薬 (cm)		参考
						裏	裏板	外	外	裏	裏板	石英 長石 角閃石 雲母 鈣長石	赤鉄 角閃石 雲母 鈣長石	口径	器高	
50	1区	SD04 ③		須恵器	輪	体:圓盤ナダ、底:圓板ナダ切り	底:圓板ナダ切り	N8/灰白	N8/灰白	-	-	中・少	-	62	1/8	
51	1区	SD04 ① PN3-P3		須恵器	壺	口縁:「圓盤ナダ」底:「圓板ナダ」全體	「圓盤ナダ」底:「圓板ナダ」全體	N4/灰	N5/灰	-	-	細・少	10.1	-	3/8	墨く濃い焼成 合?
52	1区	SD04 ③		須恵器	壺	体:圓盤ナダ、底:「圓板ナダ」ナダ	体:圓盤ナダ、底:「圓板ナダ」ナダ	N5/灰	N7/灰白	-	-	細・少	-	11.3	1/8未満	
53	1区	SD04 ①		須恵器	壺	体:「圓盤ナダ」底:「圓板ナダ」後ナダ	体:「圓盤ナダ」底:「圓板ナダ」後ナダ	N6/灰	SRS/青灰	-	-	細・少	-	90	2/8	51と同一個体 合?
54	1区	SD04 ③		須恵器	壺	体:圓盤ナダ、底:「圓板ナダ」ヘタケグリ	体:圓盤ナダ、底:「圓板ナダ」ヘタケグリ	N6/灰	N6/灰	-	-	中・少	-	98	2/8	
55	1区	SD04 ③		須恵器	壺	明(マメツ) 不明(マメツ)	明(マメツ) 不明(マメツ)	23Y1灰白	N4/灰	-	-	細・少	-	88	1/8	
56	1区	SD04 ①		須恵器	壺	黒色土器	黒色土器	23Y1灰白	N4/灰	-	-	細・少	-	64	1/8	
57	1区	SD04 ①		須恵器	壺	黒色土器	黒色土器	23Y1灰白	5Y3/1チャーピー	-	-	細・少	-	62	2/8	
58	1区	SD04 ①		周易土器	壺	黒色土器	黒色土器	5Y7/66.6 粒	N3/青灰	-	-	細・少	12.5	-	88	1/8未満
59	1区	SD04 ②		周易土器	壺	黒色土器	黒色土器	5Y4/1灰	5Y4/1灰	-	-	細・少	-	64	1/8	
60	1区	SD04 ②		周易土器	壺	黒色土器	黒色土器	5Y3/1チャーピー	5Y3/1チャーピー	-	-	細・少	-	58	1/8	
61	1区	SD04 ③		輪軸陶器	輪	体:圓盤ナダ、底:圓板ナダ後ナダマツツ	体:圓盤ナダ、底:圓板ナダ後ナダマツツ	5Y6/1灰	5Y7/1灰白	-	-	細・少	-	68	1/8	
62	1区	SD01-SD04 分 PN3-P14		輪軸陶器	輪	体:圓盤ナダ、底:圓板ナダ、輪軸 輪:「圓盤ナダ」底:「圓板ナダ」	体:圓盤ナダ、底:圓板ナダ、輪軸 輪:「圓盤ナダ」底:「圓板ナダ」	23G7/1灰	N7/灰白(胎)	-	-	細・少	-	71	5/8	
63	1区	SD04 ②		輪軸陶器	輪	須恵器	須恵器	23G7/1灰	10Y6/6灰白	-	-	細・少	-	-	1/8未満	
64	1区	SD04 ③		須恵器	輪	須恵器	須恵器	23G7/1灰	25Y7/1灰白	-	-	細・少	11.3	-	1/8未満	
65	1区	SD04 ③		須恵器	輪	須恵器	須恵器	25Y7/1灰	N8/灰	-	-	中・少	9.1	-	1/8未満	
66	1区	SD04 ③		須恵器	輪	須恵器	須恵器	25Y7/1灰	25Y7/1灰白	-	-	細・多	-	82	1/8	
67	1区	SD04 ②		須恵器	輪	須恵器	須恵器	25Y7/1灰	N8/灰	-	-	細・少	9.2	-	1/8未満	
68	1区	SD04 ③		須恵器	輪	須恵器	須恵器	25Y7/1灰	25Y7/1灰白	-	-	中・少	12.7	-	1/8未満	
69	1区	SD04 ① PN3-P10		須恵器	壺	須恵器	須恵器	5P6/1青灰	N6/灰	-	-	中・少	11.0	-	1/8未満	
70	1区	SD04 ①		須恵器	壺	須恵器	須恵器	N5/灰	N5/灰	-	-	細・少	-	-	1/8	
71	1区	SD04 ③		須恵器	壺	須恵器	須恵器	5Y7/1灰	75Y7/1灰白	-	-	細・少	-	-	1/8未満	
72	1区	SD04 ② PN3-P7		須恵器	壺	須恵器	須恵器	N7/灰白	N7/灰白	-	-	中・少	-	64	3/8	
73	1区	SD04 ①		須恵器	壺	須恵器	須恵器	N7/灰白	N7/灰白	-	-	中・少	-	-	1/8未満	
74	1区	SD04 ②		須恵器	壺	須恵器	須恵器	N5/灰	ヨコナダ	-	-	中・少	-	15.2	1/8未満	
75	1区	SD04 ②		須恵器	壺	須恵器	須恵器	75Y6/1灰	同心円アチ具組	-	-	中・少	-	-	-	

報告番号	地区名	遺跡名	層位	種類	器種	調整		内面	外面	色調	石英 長石	赤色粒 角閃石	粘母	砂粒	口径	體高	焼付率	備考	
						上	下												
76	1 区	SD04 ③		土器質 土器	皿	口縁～体：不明 内縁：アラトリ底 内縁：アラトリ底；縫合部へ不明（マメツ）	10YR7/1灰白			-	-	-	-	-	中・少	76	13	60	2/8
77	1 区	SD04 ② PN3-P12		土器質 土器	皿	口縁～体：不明（マ ラトリ底；縫合部へ不明（マメツ）	23YR7/2灰白	25YR7/2灰白	-	-	-	-	-	縫合部少	85	13	61	7/8	
78	1 区	SD04 ③		土器質 土器	椀	不明（マメツ） 不明（マメツ）	10YR7/3灰白 黄褐色	25YR7/3灰白 縫合部	-	-	-	-	-	縫合部多	-	-	65	1/8	
79	1 区	SD04 ①		土器質 土器	椀	体：不明（マメツ） フ、縫合部：ナデ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	-	-	-	-	-	中・多	-	-	-	3/8	
80	1 区	SD04 ③		土器質 土器	椀	体：不明（マメツ） フ、縫合部：ナデ	10YR7/1灰白	10YR7/1灰白	-	-	-	-	-	中・少	-	-	56	7/8	
81	1 区	SD04 ①		土器質 土器	足盤	指オサエ	10YR7/2灰白黃褐色	-	-	-	-	-	-	中・多	-	-	-	-	
82	1 区	SD04 ③		須恵器	椀	口縁：回転ナデ 内縁：ハナダ	57YR8/1灰白	25YR8/1灰白	-	-	-	-	-	縫合部少	129	-	-	1/8 東側西村塗	
83	1 区	SD04 ③		須恵器	椀	口縁：外側上昇 内縁：回転ナデ 下体：ハナダ	57YR8/1灰白	53YR8/1灰白	-	-	-	-	-	中・少	150	465	44	5/8 西村塗	
84	1 区	SD04 ③		須恵器	鉢	体：回転ナデ、底：底 内縁：ナデ、外縁：ナデ	NB/灰白	25YR5/1灰白	-	-	-	-	-	縫合部少	-	-	90	1/8	
85	1 区	SD01 と SD04 切り合、部分		須恵器	盃	体：回転ナデ、底：底 内縁：ナデ、外縁：ナデ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	中・少	-	-	110	2/8	
86	1 区	SD04 ③		瓦器	椀	体：指オサエ、高 内縁：ナデ、外縁：ナデ	25YR8/2灰白	N5/灰白	-	-	-	-	-	縫合部少	-	-	46	1/8 東側	
87	1 区	SD04 ①		須恵器	杯	不明（マメツ）	57YR8/2灰白	-	-	-	-	-	-	縫合部少	-	-	-	-	
123	1 区	SD08 ③		須恵器	杯	不明（マメツ）	回転ナデ	N7/灰白	25YR7/1灰白	-	-	-	-	-	縫合部少	99	-	-	1/8 東側
124	1 区	SD08 ②		須恵器	杯	不明（マメツ）	回転ナデ	N8/灰白	-	-	-	-	-	縫合部少	108	-	-	1/8 東側	
125	1 区	SD08 ③		須恵器	杯	不明（マメツ）	回転ナデ	N8/灰白	-	-	-	-	-	縫合部少	129	-	-	1/8 東側	
126	1 区	SD08 ②		須恵器	盃	回転ナデ	N8/灰白	N4/灰白	-	-	-	-	-	縫合部少	79	-	-	1/8 東側	
127	1 区	SD08 ②		須恵器	要	平行行タキ	回転ナデ具鉢	75YR7/1灰白	-	-	-	-	-	中・少	-	-	-	-	
128	1 区	SD09 ②		須恵器	杯	体：回転ナデ、 内縁：ナデ、外縁：ナデ	57YR8/1灰白	-	-	-	-	-	-	縫合部少	-	-	70	2/8	
129	1 区	SD04-SD09 合部	上層	須恵器	杯	ヨコナデ 平行行タキ	ヨコナデ 内縁：ナデ、外縁：ナデ	N7/灰白	-	-	-	-	-	縫合部少	206	-	-	1/8 東側	
130	1 区	SD11 ①		土器質 土器	椀	不明（マメツ）	不明（マメツ）	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	-	-	-	-	-	中・多	127	-	-	1/8 東側
140	1 区	SD11 ①		須恵器	盃	体：回転ナデ、底 内縁：ナデ、外縁：ナデ	N8/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	縫合部少	-	-	112	1/8 東側	
141	3 区	SD06-SD09 合部		須恵器	盃	平行行タキ後カ 内縁：ナデ	回転ナデ具鉢	N7/灰白	-	-	-	-	-	中・少	-	-	-	1/8 東側	
142	2 区	SD04-SD09 PN3-P26	下層	土器質 土器	鉢	ヨコナデ 内縁：ナデ、外縁：ナデ	10YR6/4に近い 黄褐色	10YR6/4に近い 黄褐色	-	-	-	-	-	縫合部多	122	62	-	7/8	
143	2 区	SD12 ④-A①		須恵器	椀	内縁：ナデ 外縁：ナデ	N8/灰白	N8/灰白	-	-	-	-	-	縫合部少	12	-	-	1/8	
144	3 区	SD05 ④		須恵器	杯	不明（マメツ）	10YR8/2灰白 ナデ	10YR8/2灰白 ナデ	-	-	-	-	-	中・少	-	-	1/8 東側		
145	4 区	SD01 ③	上層	土器質 土器	盃	ヨコナデ	ヨコナデ	57YR5/6灰白	-	-	-	-	-	中・少	-	-	-	-	

第 6 表 土器觀察表 (4)

報告番号	地区名	遺構名	層位	種類	器種	外面	内面	裏面		底面	口径	身径	高さ	保存率	備考
								石英 長石 角閃石 斜長石	赤色粒 角閃石						
146	4-3区	SD01 (4)	上層	須恵器	高台 圓筒形	口縁：直口 内面：直口	ナデ	-	-	縦・少	-	-	10	1/8	
147	4-2区	SD01 (2)	上層	須恵器	高台 圓筒形	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	N7灰白	-	-	-	75	1/8未調
148	4-2区	SD01 (1)	下層	須恵器	無輪鉢	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	N7灰白	-	-	-	-	1/8未調
149	4-3区	SD01 14-P2	下層	須恵器	無輪鉢	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	N7灰白	-	-	-	-	1/8未調
151	4-3区	SD01 (2)	下層	須恵土器	壺	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	5YTR6.6 瓶	縦・少	6	-	-	1/8 調部に北摺文
152	4-2区	SD01 (2)	下層	須恵土器	壺	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	5YTR6.6 瓶	縦・少	6	-	-	1/8未調 調部に北摺文あり
153	4-2区	PNS-P16	下層	須恵土器	壺	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	10YR7.3に5cm 黄褐色	10YR7.2に5cm 黄褐色	10YR7.2に5cm 黄褐色	中・少	-	1/8
154	4-2区	SD01 (2)	下層	須恵土器	壺	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	10YR7.3に5cm 黄褐色	10YR7.2に5cm 黄褐色	10YR7.2に5cm 黄褐色	中・少	-	1/8
155	4-2区	SD01 (2)	下層	須恵土器	壺	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	10YR6.2灰黃	10YR7.2灰黃	10YR7.2灰黃	中・少	-	1/8
156	4-2区	SD01 4-P2	下層	須恵土器	壺	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	25Y7.2灰黃	25Y7.2灰黃	25Y7.2灰黃	中・少	-	2/8
157	4-2区	SD01 (2)	下層	須恵土器	鉢	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	5YTR7.1灰白	5YTR7.1灰白	5YTR7.1灰白	中・少	-	2/8
158	4-2区	SD01 (2)	下層	須恵土器	鉢	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	25Y7.1灰白	25Y7.2灰黃	25Y7.2灰黃	中・少	-	4/8
159	4-2区	SD01 (2)	下層	須恵土器	壺	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	5YTR4.1灰	25Y7.2灰黃	25Y7.2灰黃	中・少	-	5/8
160	4-2区	SD01 (2)	下層	須恵土器	壺	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	10YR7.3に5cm 黄褐色	10YR7.3に5cm 黄褐色	10YR7.3に5cm 黄褐色	中・少	-	5/8
161	4-2区	PNS-P28	下層	須恵土器	壺	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	10YR6.3に5cm 黄褐色	10YR6.3に5cm 黄褐色	10YR6.3に5cm 黄褐色	中・少	-	3/8
162	4-2区	SD01 (2)	下層	須恵土器	壺	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	7.5YTR8.4灰褐色	7.5YTR8.4灰褐色	7.5YTR8.4灰褐色	中・少	-	11.7 1/8未調
163	3区	SX06	土器	土器	圓筒形	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	7.5YTR8.2灰白	10YR4.1灰黃	10YR4.1灰黃	中・少	15.8	-
164	4-1区	SX06	土器	土器	圓筒形	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	25Y7.1灰白	-	-	縦・少	78	11 1/8
165	4-1区	SX06	土器	土器	圓筒形	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	10YR8.3灰白	10YR8.3灰白	10YR8.3灰白	中・少	98	- 1/8未調
166	4-1区	SX06	土器	土器	圓筒形	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	10YR8.1灰白	10YR8.1灰白	10YR8.1灰白	中・少	88	28 4/8
167	4-1区	SX06	土器	土器	圓筒形	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	10YR5.1灰白	10YR5.1灰白	10YR5.1灰白	中・少	-	-
168	4-1区	SX06	土器	土器	圓筒形	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	10YR6.2灰黃	10YR6.2灰黃	10YR6.2灰黃	中・多	226	1/8
169	4-1区	SX06	土器	土器	圓筒形	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	7.5YTR7.3に5cm 黄褐色	7.5YTR7.3に5cm 黄褐色	7.5YTR7.3に5cm 黄褐色	縦・少	-	1/8未調
170	4-1区	SX06	土器	土器	圓筒形	口縁：直口 内面：直口	ナデ	不明 (マメツ)	不明 (マメツ)	10YR5.2灰黃	10YR5.2灰黃	10YR5.2灰黃	中・少	-	外面部以下、十 字付箋

第7表 土器觀察表 (5)

相 當 番 号	地 區 名	遺 跡 名	層 位	種 類	器 械	外 面	內 面	整 理	色 調	土 色	石英 長石	赤色粒 角閃石	黑 母	砂 粒	口 徑	體 積	量 度 (cm)	燒 失 率	備 考
171	4.①区	SX06	土器質 土器	足盤 足	ナフ	ハケメ 後ナフ	ナフ	ナフメ	10YR5/2灰黃褐色 10YR5/2灰黃褐色	10YR5/2灰黃褐色 10YR5/2灰黃褐色	5YR 5YR	5YR 5YR	5YR 5YR	-	-	-	中・多	-	-
172	4.③区	SX06	土器質 土器	脚焰 焰	ハケメ	ハケメ	ハケメ	ハケメ	10YR5/2灰黃褐色 10YR5/2灰黃褐色	10YR5/2灰黃褐色 10YR5/2灰黃褐色	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
173	4.④区	SX06	中國陶 青瓷	脚焰 焰	脚焰 焰	脚焰 焰	脚焰 焰	脚焰 焰	5YR3/3オリーブ 黄(輪)	5YR3/3オリーブ 黄(輪)	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8
174	4.④区 燒土有り	SX05	脚焰 焰	要 要	ナフ?	底 底	底 底	底 底	10YR5/1陶灰 10YR5/1陶灰	10YR5/1陶灰 10YR5/1陶灰	-	-	-	-	-	-	-	-	外底に焼化物付 着
175	2区	PNS-PZ7	土器質 土器	脚焰 焰	ナフ?	底 底	底 底	底 底	10YR5/2灰白 10YR5/2灰白	10YR5/2灰白 10YR5/2灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	内面凹凸あり
176	2区	SE01 1-2	土器質 土器	脚焰 焰	ナフ?	底 底	底 底	底 底	10YR5/1灰白 10YR5/1灰白	10YR5/1灰白 10YR5/1灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	4/8
177	2区	SE01 1-2	土器質 土器	脚焰 焰	ナフ?	底 底	底 底	底 底	10YR5/2灰白 10YR5/2灰白	10YR5/2灰白 10YR5/2灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	3/8
178	2区	SE01 1-2	土器質 土器	脚焰 焰	ナフ?	底 底	底 底	底 底	10YR5/2灰白 10YR5/2灰白	10YR5/2灰白 10YR5/2灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	5/8 1/8未満
179	2区	SE01 1-2	土器質 土器	脚焰 焰	ナフ?	底 底	底 底	底 底	10YR5/2灰白 10YR5/2灰白	10YR5/2灰白 10YR5/2灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8
180	2区	SE01 ① ~5cm	土器質 土器	脚焰 焰	不明(マメツ)	不明(マメツ)	不明(マメツ)	不明(マメツ)	10YR5/4に5Y 黄褐	10YR5/4に5Y 黄褐	-	-	-	-	-	-	-	-	5/8 1/8
181	2区	SE01 ①	土器質 土器	脚焰 焰	ナフ?	底 底	底 底	底 底	10YR4/2灰灰 10YR4/2灰灰	10YR4/2灰灰 10YR4/2灰灰	-	-	-	-	-	-	-	-	外表面以下灰化 物付着
182	2区	SE01 ① 34層 井戸埋め土	土器質 土器	足盤 足	ナフ?	脚焰 焰	脚焰 焰	脚焰 焰	10YR4/2灰灰 10YR4/2灰灰	10YR4/1陶灰 10YR4/1陶灰	-	-	-	-	-	-	-	-	外表面付着
183	2区	SE01 ② ~5cm	土器質 土器	足盤 足	ナフ?	脚焰 焰	脚焰 焰	脚焰 焰	10YR4/2灰灰 10YR4/2灰灰	10YR4/1陶灰 10YR4/1陶灰	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8
184	2区	SE01 ① 34層 井戸埋め土	土器質 土器	足盤 足	ナフ?	脚焰 焰	脚焰 焰	脚焰 焰	10YR4/2灰灰 10YR4/2灰灰	10YR4/2灰灰 10YR4/2灰灰	-	-	-	-	-	-	-	-	-
185	2区	SE01 ② ~5cm	須磨器	脚焰 焰	不明(マメツ)	不明(マメツ)	不明(マメツ)	不明(マメツ)	5YR1灰白 5YR1灰白	5YR1灰白 5YR1灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
186	2区	SE01 ② ~5cm	須磨器	脚焰 焰	不明(マメツ)	不明(マメツ)	不明(マメツ)	不明(マメツ)	NG/灰 NG/灰	NG/灰 NG/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
187	2区	SE01 ② ~5cm	瓦器	脚焰 焰	ナフ?	脚焰 焰	脚焰 焰	脚焰 焰	NA/灰 NA/灰	NA/灰 NA/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未満
188	2区	SE01 ①	無山塊	要 要	脚焰 焰	脚焰 焰	脚焰 焰	脚焰 焰	10YR7/4に5Y 黄褐	10YR7/4に5Y 黄褐	-	-	-	-	-	-	-	-	-
189	3区	SE03 ① 灰有り	土器質 土器	脚焰 焰	不明(マメツ)	不明(マメツ)	不明(マメツ)	不明(マメツ)	10YR5/2灰黃褐色 10YR5/2灰黃褐色	10YR5/2灰黃褐色 10YR5/2灰黃褐色	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8
190	3区	SE03 ① 灰有り	土器質 土器	脚焰 焰	ナフ?	脚焰 焰	脚焰 焰	脚焰 焰	10YR7/1明灰 10YR7/1明灰	10YR7/1明灰 10YR7/1明灰	-	-	-	-	-	-	-	-	高台内面付着
191	1区	SK06	白磁	白磁	白磁	白磁	白磁	白磁	NA/灰 NA/灰	NA/灰 NA/灰	-	-	-	-	-	-	-	-	47 2/8

第9表 土器観察表（7）

報告番号	地区名	遺構名	部位	種類	記録	調査	色調		胎土		法面 (cm)	厚径 mm	持存率	備考	
							外面	内面	外縁	内縁					
200	2区	SK008	陶器 (白釉)	直	底部無釉 火照裏 陶器器	蛇の目 透視 回転ヘケアリ	灰白色 ナダ	5YR5/6明赤褐色 5YR5/2灰赤褐色	-	-	無	-	5.7	2.8	
201	2区	SK008	陶器 (白釉)	直	底部無釉 火照裏 陶器器	回転ヘケアリ	回転ナダ	5YR5/6明赤褐色 5YR5/2灰赤褐色	-	-	無	-	-	1.8	
202	2区	SK008	陶器 (白釉)	直	底部無釉 火照裏 陶器器	ナダ	5YR5/6 程 25G17/1明き)	7.5YR5/2灰赤褐色 N7/灰(白)胎	-	-	細・少	-	-	1.8未調	
203	2区	SK111	白磁	直	施釉	無釉	-	-	-	-	無	-	-	-	1.8未調
204	2区	SK111	瓦形風 陶器	直	施釉	施釉	10YR7.4/5灰 黄(白)胎	25Y8/4淡黃褐色 黄(白)胎	-	-	無	-	-	1.8	
205	2区	SK111	陶器 (褐釉)	直	回転ナダ・無釉 陶器	無釉	25Y5/6黄褐色 褐(白)胎	7.5YR5/4/5V 5V	-	-	細・少	-	-	-	
206	2区	SK14	陶器 (褐釉)	直	無釉 火照裏 陶器	無釉	不明(マメツ)	不明(マメツ) 回転ナダ	23YR6/6橙 10R5/6赤	5YR6/6橙 10R5/6赤	-	-	細・少	-	-
207	2区	SK16	陶器 (褐釉)	直	無釉 火照裏 陶器	無釉	5G7Y8/1灰白(白)胎	N8/灰白(白)胎	-	-	中・少	-	-	-	
208	2区	SK18	白磁	直	施釉	無	不明(マメツ)	透明(マメツ) 直筒口	10YR8/2灰白 透明(白)胎	10YR8/2灰白 透明(白)胎	-	-	無	12.3	1.8
209	2区	SX05(2)	土器器	直	施釉	無	透明(白)胎	N8/灰白(白)胎	-	-	中・少	-	6	1.8	
210	2区	SK01	染付	直	施釉	無釉	透明(白)胎	N8/灰白(白)胎	-	-	無	36	-	2.8	
211	3区	SK01	染付	直	施釉	無釉	透明(白)胎	N8/灰白(白)胎	-	-	無	14.0	-	1.8未調	
212	3区	SK01	染付	直	口縫・施釉 下凹・テッカリ 陶器	無釉	25YR3/4暗赤褐色 5V(白)胎	25YR6/4-5V 5V(白)胎	-	-	無	128	-	1.8	
213	3区	SK01	染付	直	施釉	無釉	5TBS/6明赤褐色 5V(白)胎	7.5YR7/4-5V 5V(白)胎	-	-	細・少	-	-	1.8未調	
214	3区	SK02	染付	直	施釉	無釉	7.5G7/21暗綠 陶器	N8/灰白(白)胎	-	-	無	118	-	1.8	
215	3区	SK02	染付	直	施釉	無釉	透明(白)胎	N8/灰白(白)胎	-	-	無	105	-	1.8	
216	3区	SK02	染付	直	施釉	無釉	5G7Y8/2灰 陶器	10YR8/1灰白 陶器	-	-	無	98	-	1.8未調	
217	3区	SK02	染付	直	施釉	無釉	5G7Y8/2灰 陶器	10YR5/6赤	5G7Y8/1明き 陶器	-	-	無	-	-	2.8未調以上4 組
218	3区	SK02	配色系 陶器	直	蒙付無釉 陶器	無毛 直筒口	7.5YR2/2黒褐色 7.5YR2/2灰 陶器	7.5YR2/2黒褐色 7.5YR2/2灰	-	-	無	9.7	4.0	2.8	
219	3区	SK02	配色系 陶器	直	蒙付無釉 陶器	無毛 直筒口	23Y7/2灰褐色 7.5YR5/3/4灰 陶器	23Y7/2灰褐色 7.5YR5/3/4灰 陶器	-	-	無	5	6.8	-	
220	3区	SK02	配色系 陶器	直	蒙付無釉 陶器	無毛 直筒口	10YR5/6赤	10YR8/2灰白(白)胎	-	-	中・少	-	4.3	7.8	
221	3区	SK02	土器質 土器	直	蒙付無釉 陶器	無毛 直筒口	不明(マメツ) 指ササエ	25YR4/4/5V 無	-	-	中・少	-	-	底部調査後も使 用	
222	3区	SK02	土器質 土器	直	蒙付無釉 陶器	無毛 直筒口	7.5YR5/2灰 陶器	7.5YR5/2灰 陶器	-	-	中・多	-	-	1.8未調	
224	3区	SK03	無	直	回転ナダ	不明(回転ナダ)	23YR4/6赤褐色 7.5G7/8/1明 陶器	25YR5/6赤褐色 7.5G7/8/1明 陶器	-	-	中・少	-	-	1.8	
225	3区	SK05	白磁	直	蒙付無釉 陶器	無毛 直筒口	10YR8/1明赤 陶器	N8/灰白(白)胎	-	-	無	-	29	2.8	
226	3区	SK05	白磁	直	蒙付無釉 陶器	無毛 直筒口	10YR8/1明赤 陶器	10YR8/1灰白(白)胎	-	-	無	108	-	1.8	
227	2区	SK05	白磁	直	回転ヘケアリ	蛇の目 陶器	10YR8/1灰白(白)胎	10YR8/1灰白(白)胎	-	-	無	-	5	4.8	

編 番 号	地区名	遺跡名	層位	種類	器種	外觀	内面	調整		土石 長石	赤色粒 角閃石	黏土 雲母	砂粒	口径	體高	燒成率	備考
								外面	内面								
228	2 区	SX05	簡面系 陶器	圓底系 陶器	圓底系 陶器	圓底 直筒	圓底ナデ	體：圓底ナデ後 底：圓底へテクニズム	燒成	5YR6.4に近い 5YR6.4に近い	10YR6.3浅黃	-	-	-	14.5	-	1.8未調
229	3 区	SX05	簡面系 陶器	圓底系 陶器	圓底系 陶器	圓底 直筒	圓底ナデ	體：圓底ナデ後 底：圓底へテクニズム	燒成	10YR6.4に近い 10YR6.4に近い	25Y8.1灰白(施)	-	-	-	中・少	-	-
230	3 区	SX07	簡面系 陶器	圓底系 陶器	圓底系 陶器	圓底 直筒	圓底ナデ	燒成	10YR6.4に近い 10YR6.4に近い	25Y8.1灰白(施)	-	-	-	無	12.8	-	1.8未調
231	4-1区	SX01	簡面系 須耳器	圓底系 陶器	圓底系 陶器	圓底 直筒	圓底ナデ	不明(剥落)	不明(剥落)	25Y5.1灰白	-	-	-	中・多	-	-	-
232	4-2区	SX04	簡面系 須耳器	圓底系 陶器	圓底系 陶器	圓底 直筒	圓底ナデ	蛇の目輪調ぎ -2孔(施)	蛇の目輪調ぎ -2孔(施)	25Y7.1明オリ NS8灰白(施)	-	-	-	無	-	-	1.8未調
233	4-2区	SX04	青磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	蓋付無地	蓋付無地	10Y7.1灰白(施) NS8灰白(施)	-	-	-	無	-	-	-
234	4-2区	SX04	青磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	口沿：圓底ナデ 底：ヘタマスリ	口沿：圓底ナデ 底：ヘタマスリ	5YR4.4に近い NS8灰白(施)	-	-	-	無	-	-	2.8未調
235	4-2区	SX04	青磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	蓋付無地	蓋付無地	10Y7.1灰白(施) NS8灰白(施)	-	-	-	無	-	-	1.8未調
236	4-2区	SX04	青磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	蓋付無地	蓋付無地	10Y7.1灰白(施) NS8灰白(施)	-	-	-	無	9.8	-	1.8未調
237	4-2区	SX04	青磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	蓋付無地	蓋付無地	10Y7.1灰白(施) NS8灰白(施)	-	-	-	無	-	-	4.9 5.8
238	4-2区	SX04	青磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	蓋付無地	蓋付無地	10Y7.1灰白(施) NS8灰白(施)	-	-	-	無	-	-	4.2 2.8
239	4-2区	SX04	青磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓底ナデ	圓底ナデ	25Y6.1灰白	-	-	-	無	7.6	-	2.8
240	4-3区	SX08	染付	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	燒成	燒成	25Y7.1明オリ -2孔(施)	-	-	-	無	9.8	-	1.8未調
241	4-4区	SX08	青磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	燒成	燒成	25Y7.1明オリ -2孔(施)	-	-	-	無	6.8	-	1.8未調
242	4-4区	SX08	青磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	燒成	燒成	10Y7.3灰白(施) NS8灰白(施)	-	-	-	無	-	-	2.8未調
243	4-4区	SX08	青磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	燒成	燒成	10Y7.3灰白(施) NS8灰白(施)	-	-	-	無	-	-	5 1.8
244	4-4区	SX08	青磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓底ナデ	圓底ナデ	10Y8.4明赤	-	-	-	中・少	26.1	-	1.8未調
245	4-4区	SX08	青磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓底ナデ、自然 燒成	圓底ナデ、自然 燒成	10Y8.2-3極暗 燒成(施)	-	-	-	中・多	-	-	1.8未調
246	4-4区	SX09	染付	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	燒成	燒成	10Y7.1灰白(施) NS8灰白(施)	-	-	-	無	-	-	4.3 1.8
247	4-4区	SX09	陶器 (灰釉)	圓底系 陶器	圓底系 陶器	圓底 直筒	圓底ナデ	口沿：燒成、体 底：無釉	口沿：燒成、体 底：無釉	25Y7.2灰白(施) -2孔(施)	-	-	-	無	-	-	1.8未調
248	4-4区	SX10	染付	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	燒成	燒成	10Y7.1明赤	-	-	-	無	-	-	1.8未調
249	4-4区	SX10	色磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	燒成	燒成	10Y7.1明赤	-	-	-	無	-	-	1.8未調
250	4-4区	SX10	色磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	燒成	燒成	10Y7.1明赤	-	-	-	無	12.8	-	1.8未調
251	4-4区	SX10	色磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	燒成	燒成	10Y7.1明赤	-	-	-	無	12.5	-	1.8 外面文様附落
252	4-4区	SX10	色磁	圓 盒	圓 盒	圓 盒	圓 盒	燒成	燒成	10Y7.1明赤 -2孔(施)	NS8灰白(施)	-	-	無	-	-	-
253	4-4区	SX11	陶器 (灰釉)	圓底系 陶器	圓底系 陶器	圓底 直筒	圓底ナデ	全体：燒成、底： -底：無釉	全体：燒成、底： -底：無釉	25Y7.2灰白(施) -2孔(施)	-	-	-	無	-	-	40 1.8未調
254	4-4区	SX11	陶器 (灰釉)	圓底系 陶器	圓底系 陶器	圓底 直筒	圓底ナデ	全体：燒成、底： -底：無釉	全体：燒成、底： -底：無釉	10Y8.1明赤	-	-	-	無	-	-	39 2.8
255	1 区	SD01③	白磁	圓底系 陶器	圓底系 陶器	圓底 直筒	圓底ナデ	燒成	燒成	10Y8.1明赤	-	-	-	無	9.0	-	1.8 口縫小
256	1 区	SD01②	白磁	圓底系 陶器	圓底系 陶器	圓底 直筒	圓底ナデ	燒成	燒成	10Y8.1明赤	-	-	-	無	9.8	3.8	1.8
257	1 区	SD01③	白磁	圓底系 陶器	圓底系 陶器	圓底 直筒	圓底ナデ	燒成	燒成	10Y8.1明赤	-	-	-	無	-	-	10.7 5.6 4.4 2.8

第11表 土器調査表 (9)

報告番号	地区名	遺跡名	層位	種類	記録	外面	裏面	色調		胎土		法面 (cm)	器高	口径	砂粒	裏柱半径	備考	
								外面	裏面	石英	赤鉄角閃石							
261	1区	SD01(3)	染付	陶	施釉	NS/灰白(釉)	NS/灰白(胎)	-	-	-	-	89	-	-	-	1/8未調		
262	1区	SD01(3)	染付	陶	施釉	25GY8/1灰白(釉)	NS/灰白(胎)	-	-	-	-	98	-	-	-	1/8未調		
263	1区	SD01(2)	染付	陶	施釉	25GY8/1灰白(釉)	NS/灰白(胎)	-	-	-	-	99	-	-	-	1/8未調		
264	1区	SD01(1)	染付	陶	施釉	透明(釉)	NS/灰白(胎)	-	-	-	-	10.3	-	-	-	1/8未調		
265	1区	SD01(2)	染付	陶	施釉	25GY8/1灰白(釉)	NS/灰白(胎)	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未調		
266	1区	SD01(2)	染付	陶	施釉	NS/灰白(釉)	NS/灰白(胎)	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未調		
267	1区	SD01(3)	染付	陶	施釉	15GY8/1明綠	NS/灰白(胎)	-	-	-	-	-	-	-	-	36	1/8	
268	1区	SD01(3)	染付	陶	施釉	無	NS/灰白(胎)	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8		
269	1区	SD01(3)	染付	陶	施釉	回転ナデ、無釉	5GY8/1灰白(釉)	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8		
270	1区	SD01(3)	染付	陶	施釉	透明(釉)	NS/灰白(胎)	-	-	-	-	-	-	-	-	4.7	2.8	
271	1区	SD01(3)	染付	陶	施釉	NS/灰白(釉)	NS/灰白(胎)	-	-	-	-	-	-	-	-	6.8	1.8	
272	1区	SD01(3)	青釉染付	陶	施釉	25GY7/1明オリ	NS/灰白(胎)	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未調		
273	1区	SD01(1)	(染付)	青絞	陶	施釉(青絞)	5GY6/1オリーブ	NS/灰白(胎)	灰(釉)	-	-	-	-	-	-	38	1.8	
274	1区	SD01(3)	(灰釉)	陶器	墨	口縁施釉	5Y2/2灰白(釉)	25Y2/2灰白(胎)	-	-	-	-	93	-	-	1/8未調		
275	1区	SD01(3)	(灰器)	陶器	墨	口縁:施釉、体 ケイロ:施釉	5Y7/2灰白(釉)	NS/灰白(胎)	-	-	-	-	-	-	-	112	2.5	
276	1区	SD01精生	輪削系 陶器	墨	輪削系 陶器	上半:輪削ナデ 下半:回転ナデへ タケツリ	自然焼	10YR5/1灰灰	75YR4/2灰地	-	-	-	-	-	-	-	1/8未調	
277	1区	SD01(1)	青絞	陶器	墨	回転ヘタケツリ	蛇の目輪削5	5GY6/1輪削(釉)	25GY8/1灰白(胎)	-	-	-	-	-	-	-	1/8未調	
278	1区	SD01(3)	(灰釉)	陶器	墨	体:施釉、底:回 転ヘタケツリ	5GY7/2灰白(釉)	25GY8/3灰黄(胎)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
279	1区	SD01(3)	陶器	墨	施釉	上半:輪削 下半:回転 タケツリ	7.5GY8/3灰黄(胎)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2.8	
280	1区	SD01(3)	(陶)	陶器	墨	回転ヘタケツリ	10YR5/3±4% 黄灰(釉)	10YR7/3±5% 黄灰(胎)	-	-	-	-	-	-	-	6.8	2.8	
281	1区	SD01(3)	呉須陶器	陶器	墨	口縁:施釉、体 ケイロ:施釉	25YR6/4に近い	10YR6/4に近い	-	-	-	-	20.4	-	-	-	1/8未調	
282	1区	SD01(3)	輪削地 陶器	陶器	墨	輪削ナデ	10YR5/6赤	10YR5/6赤	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
283	1区	SD01	輪削系 陶器	墨	輪削ナデ、回転 タケツリ	7.5GY8/1灰灰	7.5GY8/3灰黄(胎)	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未調		
284	1区	SD02(2)	土器質 足器	土器	墨	不明(マフ)、 足器	10YR6/4に近い 黄灰(釉)	10YR7/4に近い 黄灰(胎)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	
285	1区	SD10 (SD10下層)	(灰釉)	陶器	墨	口縁:施釉、体 ケイロ:施釉	25YR4/4に近い 黄灰(胎)	10YR6/4に近い 黄灰(胎)	-	-	-	-	-	-	-	-	1/8未調	
286	4-1区	SP19	土器質 器	土器	墨	口縁:不明(付 者物)	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白	-	-	-	-	-	-	-	6.6	10	4.2
287	4-2区	遺構検出	須磨焼 器	須磨焼 器	墨	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	-	10.8	1/8未調	
288	1区	包含層剖面	須磨焼 器	須磨焼 器	墨	ヨコナデ	M6/灰	N7/灰白	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

報告番号	地区名	遺跡名	層位	器種	調査		外面	内面	色調		基土	底層	測量 (cm)	測量 (cm)	測量 (cm)	
					凸面	凹面			石英 長石	赤色 角閃石	雲母	矽粒	口徑	壁高	残存率	備考
289	3区	東壁切り		中腹壁 背壁			1076.2オーフ	1076.2オーフ	N8	灰白(胎)	-	-	-	-	-	-

第12表 土器調査表(10)

報告番号	地区名	遺跡名	層位	器種	調査		外面	内面	色調		基土	底層	測量 (cm)	測量 (cm)	測量 (cm)	
					凸面	凹面			白色 砂粒	黑色 砂粒						
88	1区	S200③	丸瓦	ナデ	布目	圓面:へ~きり 凹面:深面・未調査	7.5YR8/3 浅黄	7.5YR8/3 浅黄	細・少	無	無	(305)	-	(98)	2.5	141.35
89	1区	S200③	丸瓦	ナデ	布目	圓面:へ~きり 凹面:未調査 背面:黒カリ	10YR8/2 灰白	7.5YR8/3 浅黄	細・少	無	(135)	-	(111)	2.6	403.32	
90	1区	S200③	丸瓦	ナデ	布目	圓面:へ~きり	5Y8/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	細・少	無	(137)	(4.2)	-	1.8	188.15	
91	1区	S200②下層	丸瓦	ナデ	布目	圓面:へ~きり	10YR8/3 灰白	10YR8/3 灰白	無	無	(92)	(6.7)	-	1.6	121.04	
92	1区	S200②	丸瓦	ナデ	布目	圓面:不明(マメツ) 凹面:不明(マメツ)	N6灰白 灰白	5Y8/1 灰白	無	無	(53)	(8.4)	-	1.7	111.46	
93	1区	S200③	平瓦	輪目タタキ	布目	圓面:へ~きり 凹面:へ~きり	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白	細・少	無	(139)	(10.6)	-	1.7	282.25	
94	1区	S200③	平瓦	輪目タタキ	布目	圓面:へ~きり 背面:黒カリ	10Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	無	無	(99)	(8.4)	-	2.1	259.8	
95	1区	S200②	平瓦	輪目タタキ	ナデ	圓面:へ~きり後ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	中・少	無	(142)	(7.8)	-	2.7	350.38	
96	1区	S200②PN2RS	平瓦	輪目タタキ	布目	圓面:不明(マメツ) 凹面:不明(マメツ)	10YR8/1 灰白	2.5Y7/2 灰白	中・少	無	無	(95)	(9.5)	-	2.4	190.94
97	1区	S200③	平瓦	輪目タタキ	布目	圓面:へ~きり 凹面:へ~きり	2.5Y7/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	細・少	無	(104)	(90)	-	2.0	229.94	
98	1区	S200②PN2RS	平瓦	輪目タタキ	不明(マメツ)	圓面:不明(マメツ) 接端面:不明(マメツ)	10YR8/3 灰白	10YR8/3 灰白	細・少	無	(92)	(8.8)	-	1.9	183.55	
99	1区	S200①PN2R10	平瓦	輪目タタキ	布目	圓面:へ~きり 背面:へ~きり	7.5YR8/3 灰白	7.5YR8/3 灰白	細・少	無	(95)	(6.9)	-	2.4	146.41	
100	1区	S200③	平瓦	輪目タタキ	布目	圓面:へ~きり 凹面:へ~きり	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	細・少	無	(8.1)	(5.2)	-	1.7	76.88	
101	1区	S200③	平瓦	不明(マメツ)	-	圓面:不明(マメツ)	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白	中・少	無	(6.6)	(3.0)	-	1.8	32.29	
102	1区	S200③	平瓦	輪目タタキ	布目	圓面:へ~きり	2.5Y8/1 灰白	2.5Y7/1 灰白	中・少	無	(102)	(9.2)	-	2.0	220.72	
103	1区	S200①PN2RS	平瓦	タタキ目?	布目	圓面:不明(マメツ)	5Y8/1 灰白	10YR7/1 灰白	中・少	無	(97)	(8.8)	-	2.5	196.43	
104	1区	S200③	平瓦	輪目タタキ	不明(マメツ)	凹面:不明(マメツ)	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/1 灰白	中・少	無	(75)	(7.1)	-	1.9	123.75	
105	1区	S200③	平瓦	輪目タタキ?	布目	圓面:不明(マメツ)	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白	中・少	無	(80)	(8.5)	-	2.4	153.53	
106	1区	S200③	平瓦	輪目タタキ	不明(マメツ)	圓面:不明(マメツ)	5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白	中・少	無	(73)	(7.3)	-	2.0	111.73	

第13表 土觀察表(1)

報告 番号	地区名	遺傳名	部位	構造	調整			白面	凹面	その他	白色多孔質板	灰色多孔質板	(保存長)	法量 (cm・g)	法量 (cm・g) (底面幅 (底面厚))	厚さ	重量	備考	
					凸面	凹面	侧面												
107	1 区	SD004(3)	平瓦	縹目タタキ	不明	側面:ヘタキリ		10YR7/2 23Y8/4			無	無	(5.5)	(6.1)	-	2.3	76.09		
108	1 区	SD004(3)	平瓦	縹目タタキ	布目	-		25Y8/1 15Y5/1 黄楓			無	無	(9.9)	(11.0)	-	2.5	229.07		
109	1 区	SD004(2)	平瓦	縹目タタキ	布目	-		10YR7/1 15Y5/1 黄楓			無	無	(8.0)	(10.6)	-	2.0	155.94		
110	1 区	SD004(3)	平瓦	縹目タタキ	ナデ	-		15Y8/2 15Y8/2 黄楓			無	無	(8.7)	(8.7)	-	2.5	152.85		
111	1 区	SD004(2)	平瓦	縹目タタキ	布目	-		25Y8/2 15Y8/2 黄楓			無	無	(9.5)	(6.9)	-	2.2	115.35		
112	1 区	SD004(2)	平瓦	不明(マツフ)	布目	-		25Y8/1 23Y8/1 N6/灰白			中・多	無	無	(6.0)	(12.0)	-	2.5	169.43	
113	1 区	SD004(3)	平瓦	不明(マツフ)	不明(マツフ)	-		N7/灰白			中・多	無	無	(9.2)	(5.5)	-	2.2	123.12	
114	1 区	SD004(2)	平瓦	縹目タタキ	布目	-		25Y8/2 15Y8/2 黄楓			無	無	(7.5)	(6.5)	-	2.4	116.58		
115	1 区	SD004(2)	平瓦	縹目タタキ	ナデ	-		N7/灰白			中・少	無	(6.2)	(5.4)	-	3.0	138.19		
116	1 区	SD004(4) り合い 部分	平瓦	縹目タタキ	ナデ	-		25Y7/1 23Y6/1 黄楓			無	無	(6.1)	(5.7)	-	2.8	89.52		
117	1 区	SD004(3)	平瓦	縹目タタキ	布目	-		N6/灰 N6/灰			無	無	(5.7)	(6.3)	-	1.8	66.52		
122	1 区	SD007(2)	丸瓦	ナデ	布目	-		25Y8/2 23Y8/2 黄楓			無	無	(9.0)	(8.5)	-	2.0	169.11		
130	1 区	SD009(2)	平瓦	縹目タタキ	布目	出湯面:ヘタキリ 裏面:不明(マツフ)		25Y8/2 23Y8/2 黄楓			中・少	無	(10.3)	(15.0)	-	2.0	117.83		
150	4-3 区	SD001(3)	中層	丸瓦	不明(マツフ)	指サエ		10YR7/3 15Y8/7 黄楓			無	無	(5.5)	(9.0)	-	1.9	123.88		
199	1 区	SX001	丸瓦	ナデ	布目	-		15Y8/2 15Y8/2 黄楓			無	無	(4.7)	(4.7)	-	1.8	32.59		
290	1 区	機械屋用	平瓦	縹目タタキ	ナデ	-		N6/灰 72Y6/灰			中・少	無	(11.3)	(9.1)	-	2.5	275.4		

第 14 表 瓦観察表 (2)

報告 番号	地区名	遺傳名	部位	器種	調整			法量 (cm・g)	法量 (cm・g) (底面幅 (底面厚))	厚さ	材質	備考
					長さ	幅	高さ					
2	4-1 区	SD02 N4-K2		ガラス等?	12	0.9	0.6	0.9	0.6	0.5	ガラス、 セメント等?	
118	1 区	SD004(3)	PN4-S3	石織	1.65	1.1	0.2	1.1	0.2	0.3	セメント等?	
119	1 区	SD004(1)		石織	9.8	10.5	5.7	7.65	7.65	0.5	セメント等?	
131	1 区	SD009(3)	PN4-S2	石織	2.7	1.5	0.3	0.9	0.9	0.5	セメント等?	
132	1 区	SD009(2)	PN4-S1	石織	2.4	2.25	0.3	1.49	1.49	0.5	セメント等?	
197	3 区	SD03(1)	上層	石織	19.2	8.7	5	125.75	125.75	0.5	セメント等?	
223	3 区	SK02		石織	3.1	3.8	0.7	7.47	7.47	0.5	セメント等?	
224	4-1 区	SK01	PN4-S4	石織	1.7	1.2	0.3	0.88	0.88	0.5	セメント等?	
291	2 区	遺傳未定(剪 絶色貼士)		石織	2.2	1.2	0.25	0.74	0.74	0.5	セメント等?	

第 15 表 石器観察表

報告番号	地区名	通称名	部位	器械	法盤 (cm · g)		材質	備考
					長さ	幅		
121	1 区	SD04 (3)	下端	加工材 (芯持ち)	4.8	0.9	-	法盤のみ加工、年輪は見えない。
133	1 区	SD09 (1)	下端	角材	6.2	2.7	1.5	法盤削 (マツツ)、加工痕見えない、年輪 6mm/ 年
134	1 区	SD09 (1)	下端	加工材 (削りかず)	5.7	4.3	1.1	法盤削 (マツツ R キ)、板目材、加工痕見えない、年輪 6.2mm/ 年
135	1 区	SD09 (1)	下端	加工材 (削りかず)	6.7	5.3	1.1	法盤削 (マツツ)、板目材、加工痕あり、年輪 6mm/ 年
136	1 区	SD09 (1)	下端	加工材 (削りかず)	5.6	2	0.6	法盤削 (マツツ)、板目材、加工痕あり (工具外にこげれ落ちる)、年輪 3.5mm/ 年
137	1 区	SD09 (1)	下端	加工材 (削りかず)	6.3	3.2	0.8	法盤削 (マツツ R キ)、板目材、加工痕あり (工具外にこげれ落ちる)、年輪 4.9mm/ 年
138	1 区	SD09 (1)	下端	加工材 (削りかず)	4.9	4.3	1.3	法盤削 (マツツ R キ)、板目材、加工痕見えなく、年輪 13mm/ 年
190	2 区	SE01 石組み 下端油刷	板材	-	8.5	1.4	0.2	法盤削 (ヒノキ ?)、板目材、年輪 1.8 ~ 1.4mm/ 年
191	2 区	SE01 石組み 下端油刷	板材	-	-	-	-	法盤削 (ヒノキ ?)、板目材、断面側位差で 131 年の年輪を確認 (0.76mm/ 年)
192	2 区	上・23 階 FN5-W1	曲物底板	10.9	9.9	0.7	法盤削 (ヒノキ ?)	内面・赤唐、外面・黒唐
193	2 区	SE01 石組み 下端油刷	津型 構	-	-	-	法盤削 (マツツ R キ)、板目材、基本的には横材は 2 重、下部の横材は年輪が細かい。側板	
194	2 区	SE01 曲物 1 段目	井筒 (抜け物)	径 : 46.0	-	-	スギ	板目材、加工痕見えなく、年輪 1.3mm/ 年
246	4 (4) 区	SX06	板材	123	7	1.3	法盤削 (ヒノキ ?)	板目材、加工痕見えなく、年輪 12mm/ 年
247	4 (4) 区	SX08 SX9 -	加工材 (芯持ち)	-	3.5	2	法盤削 (櫟丸材)	先端のみ加工、年輪 5mm/ 年
253	4 (4) 区	SX10 檜透シナ -	漆器 梶	-	-	-	法盤削 (トチ)	内面・屋下地板・外縁・黒下地漆用油漆
254	4 (4) 区	SX08 SX9 -	角材	8.5	2.4	1.9	法盤削 (櫟丸材)	加工痕見えなく、年輪 2mm/ 年
255	4 (4) 区	SX10 檜透シナ -	板材	9.7	6.2	1.8	法盤削 (櫟丸材)	板目材、加工痕見えなく、年輪 21 ~ 32mm/ 年
253	4 (4) 区	南隅 銀杏板張	加工材 (芯持ち)	27.5	22	-	法盤削	先端のみ加工、加工痕見えなく

第 16 表 木器調査表

報告番号	地区名	通称名	部位	器械	法盤 (cm · g)		材質	備考
					長さ	幅		
120	1 区	SD04 (3)	人形	鉄打 [元祐通寶]	2.3	1.9	1.5	9.44
169	2 区	SE01 (1)			2.4	-	0.1	291 鋼 茶葉、1086(元祐元)年初鑄 北宋

第 17 表 金属器調査表
第 18 表 骨角器調査表

備考
正面左側面付近に黒色物質付着、背面に 2 打孔有り。

写真図版

図版 1



1区全景 西から



2・3区 完掘 東から



2区 近世土坑群 完掘 北から

図版2



2区 溝状遺構群 完掘 北東から



2区 土坑群完掘 東から



3区 東半部全景 北から



4-①区 遺構検出 東から

図版 3



4-②区 遺構検出 南から



4-②区 全景 南から



4-①②区 全景 南から



4-③区 遺構検出 西から

図版 4



4-③区 完掘 北西から



4-④区 遺構検出 南から



4-④区 完掘 南から



1区 北壁断面 東半 南から

図版5



1区 北壁断面 西半 南から



1区 東壁断面 西から



1区 東壁断面 西から



1区 東壁断面 西から

図版6



1区 東壁断面 西から



1区 東壁断面 西から



1区 東壁断面 西から



2区 南壁断面 北から

図版7



2区 北壁断面 SD08部分 南から



3区 南壁断面 北から



3区 北壁断面 南から



4-①区 東壁断面 西から

図版8



4-①区 南壁断面 SX05 付近 北から



4-②区 南壁断面 SD01 付近 北から



4-②区 北壁断面 南から



4-②区 西壁断面 東から

図版9



4-③区 東壁～南東壁断面 西から



4-③区 東壁～南東壁断面 西から



4-③区 東壁～南東壁断面 西から



4-③区 東壁～南東壁断面 西から

図版 10



4-③区 東壁～南東壁断面 西から



4-③区 東壁～南東壁断面 西から



4-④区 南壁断面 北から



4区 SD02・SD03 完掘 西から

図版 11



4 区 SD02・SD03 断面 西から



4 区 SD03 遺物出土状況 西から



4 区 SD03 土器出土状況 東から



1 区 SK08 断面(炭化物あり) 西から

図版 12



1区 SD03 北から



1区 SD04 断面 西から



1区 SD07 断面 南から



1区 SD08 断面 北から

図版 13



1区 SD09 断面(南壁) 北から



1区 SD09 全景 南から



1区 SD11 断面 西から



2区 SD08 断面 西から

図版 14



3区 SD08 断面 北東から



2区 SD08・SD10 合流部 断面 北西から



3区 SD08・SD10 合流部 SD10 完掘 東から



2区 SD10 断面 南東から

図版 15



2区 SD10 断面 西から



2区 SD10 土器・石器出土状況 西から



2区 SD09 断面 南西から



2区 SK17 断面 南から

図版 16



2区 SD11 断面 西から



2区 SD12 断面 西から



3区 SD02 断面 北西から



3区 SD05 断面 北西から

図版 17



3区 SD04・SD05 切り合い断面 北西から



3区 SD07 断面 北から



4区 SD01 断面 東から



3区 SK19 完掘 北西から

図版 18



3 区 SX02 断面 西から



4 区 SX05 完掘 南から



2 区 SE01・SX05 検出状況 西から



2 区 SE01 石組遺構検出状況 東から

図版 19



2区 SEO1 井側内断面 南から



2区 SEO1 井側内部及び井筒上面検出
南から



2区 SEO1 井筒上面検出 南から



2区 SEO1・SX05 断面 南から

図版 20



2区 SEO1 井筒内断面 南から



2区 SEO1 半裁断面 南から



2区 SEO1 井筒内土器出土状況 南から



2区 SEO1 井筒内完掘 南から

図版 21



2 区 SE01 断面（井筒内完掘時）南から



2 区 SE01 井筒検出状況 半裁時 南から



2 区 SE01 完掘 南から



1 区 SD06 断面 西から

図版 22



1 区 SX02(北)・SX03(南) 断面 西から



1 区 SX04(南右)・SX05(北) 断面 西から



3 区 SD03 断面 北西から



3 区 SD03・SD08 合流部 SD03 完掘
北西から

図版 23



3 区 SD06 断面 北から



4 区 SB01 完掘 南から



1 区 SK01 断面 西から



1 区 SK02 断面 西から

図版 24



1区 SK03 断面(炭化層上面) 東から



1区 SK03 炭化物出土状況 東から



1区 SK03 断面 西から



1区 SK04・SK09 完掘 南から

図版 25



1 区 SK06 断面 西から



1 区 SK07 断面 西から



1 区 SX01 断面 西から



2 区 SK08 断面 西から

図版 26



2区 SK09 断面 西から



2区 SK10 断面 南から



2区 SK11 断面 西から



2区 SK12 断面 南から

図版 27



2区 SK13 断面 南から



2区 SK14 断面 西から



2区 SK15 断面 西から



2区 SK16 断面 西から

図版 28



2区 SK18 断面 西から



3区 SK01 完掘 北西から



3区 SK02 断面 西から



3区 SK03 断面 西から

図版 29



3区 SK03 完掘 東から



3区 SK04 断面 北から



2・3区 SK05 断面 西から



2・3区 SK06 断面 西から

図版 30



3 区 SK07 断面 西から



4 区 SK01 断面 東から



4 区 SK02 断面 南東から



4 区 SX01 断面 南東から

図版 31



4 区 SX02 断面 北から



4 区 SX06 全景 北から



4 区 SX07 全景 北から



4 区 SX08・SX09・SX10 断面 北東から

図版 32



4 区 SX11 断面 北から



1 区 SD01 断面 西から



1 区 SD02 2階 断面 西から



1 区 SD05 断面 西から

図版 33

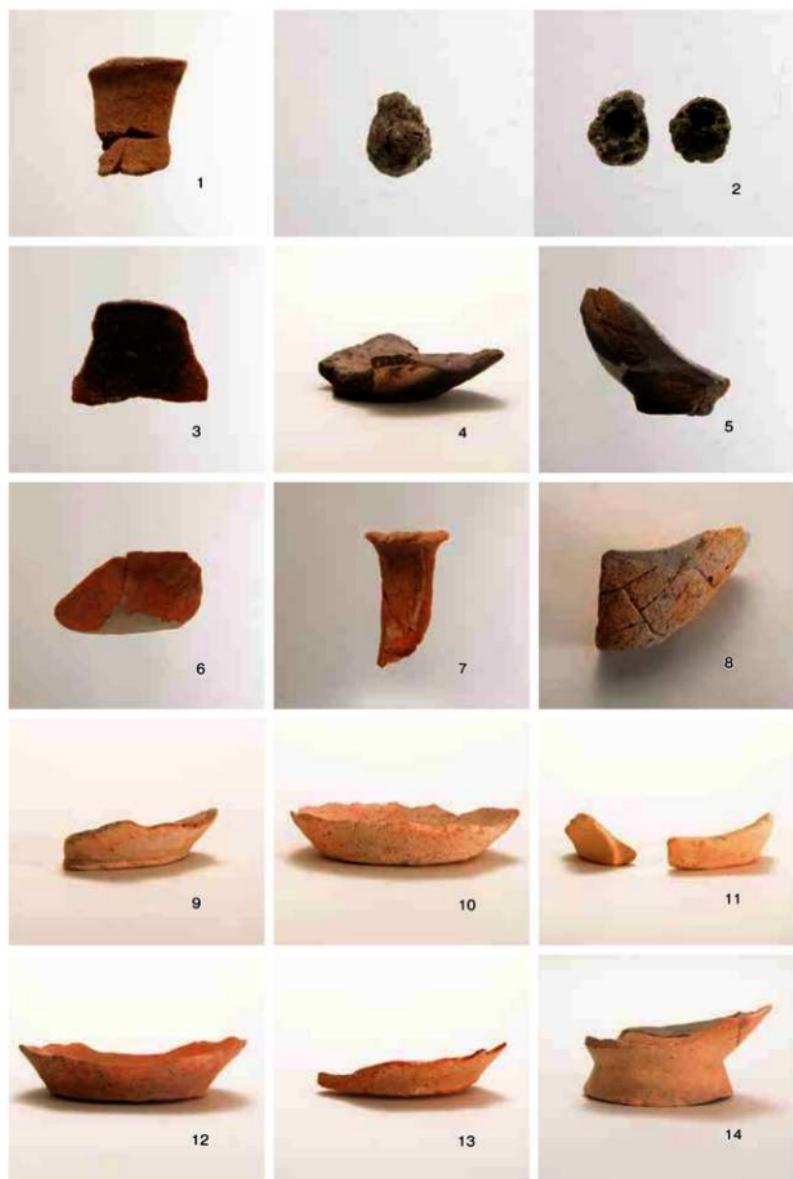


1区 SD10 断面 北から



3区 SD01 断面 西から

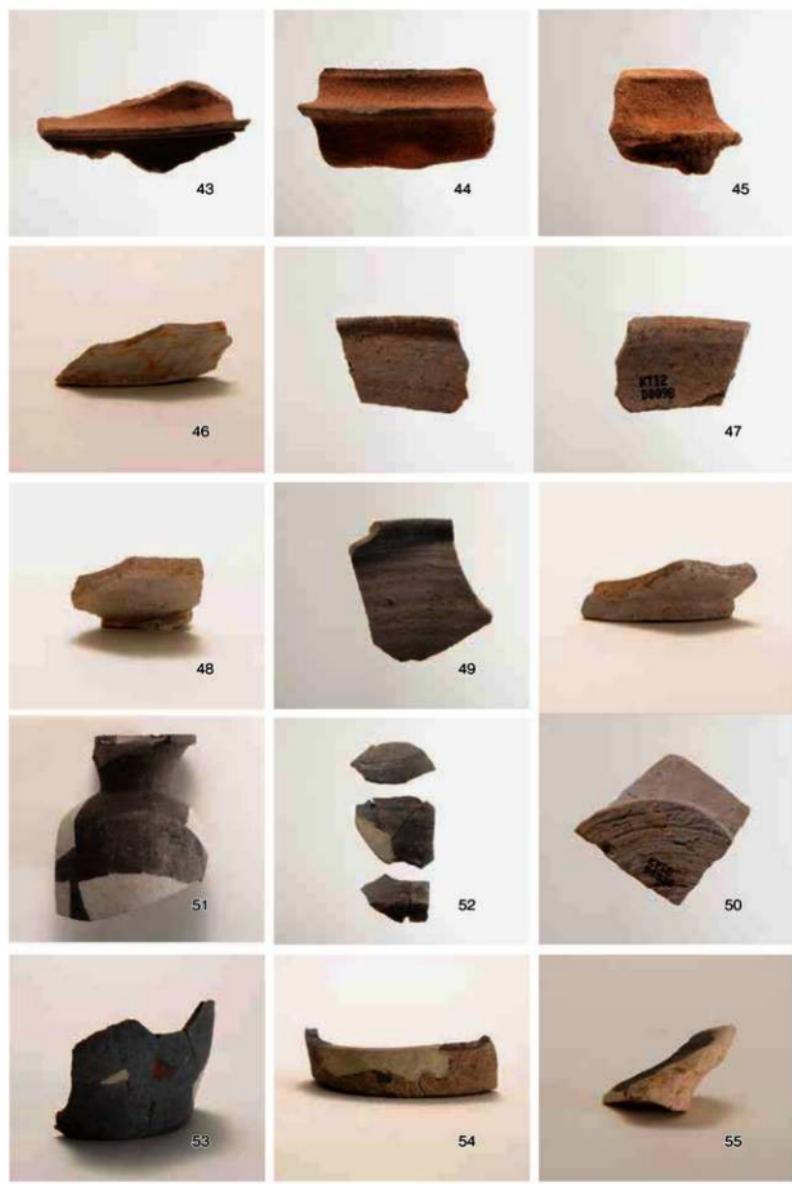
図版 34





図版 36





図版 38



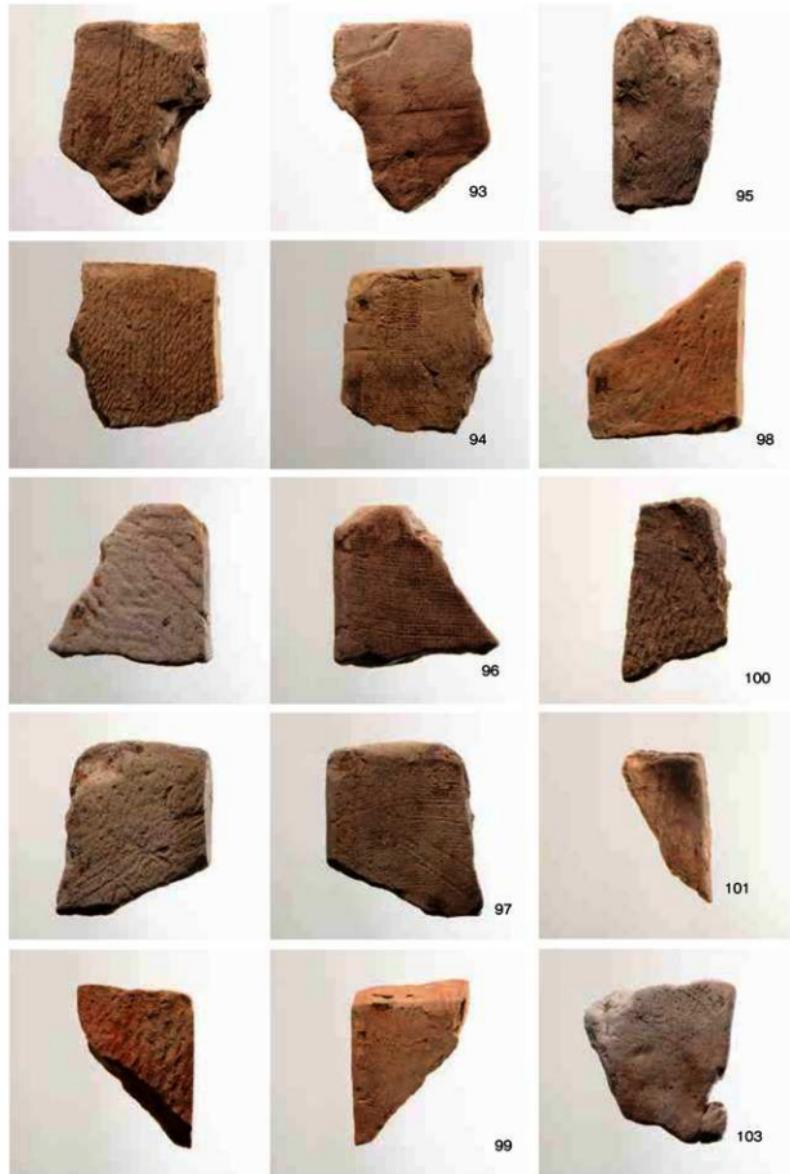
図版 39



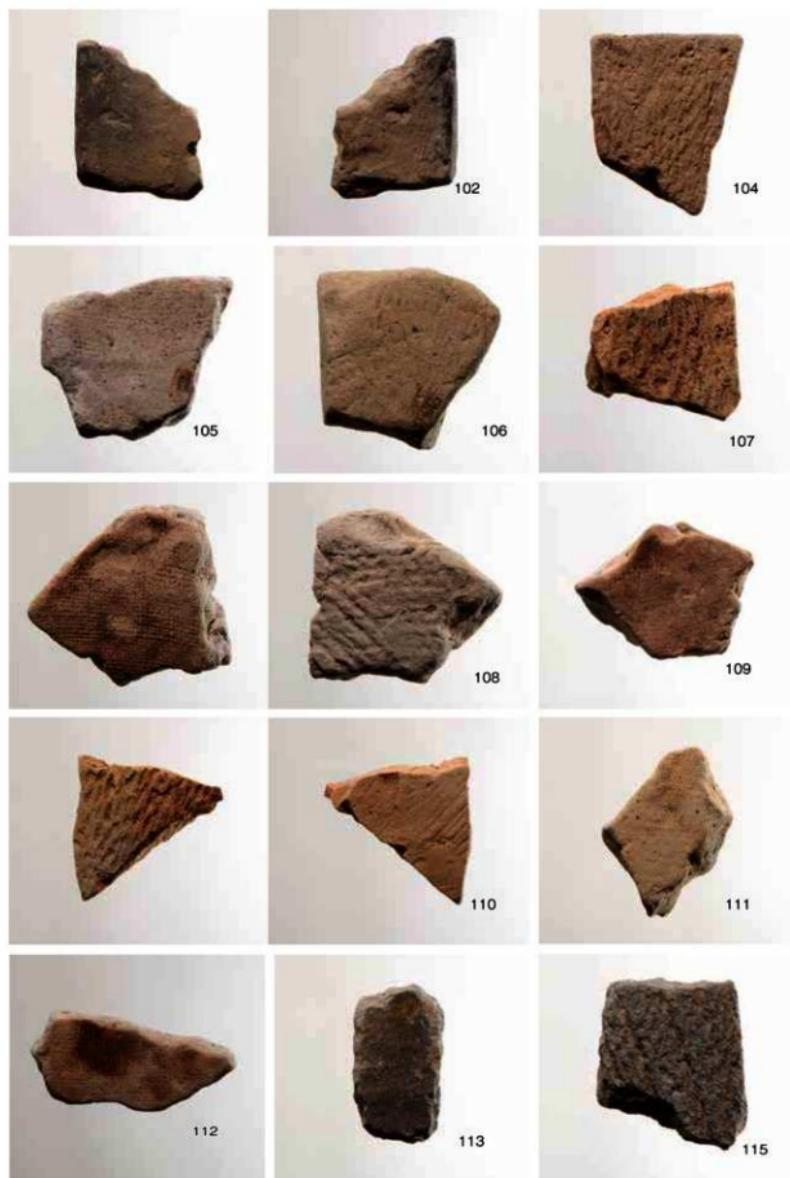
図版 40



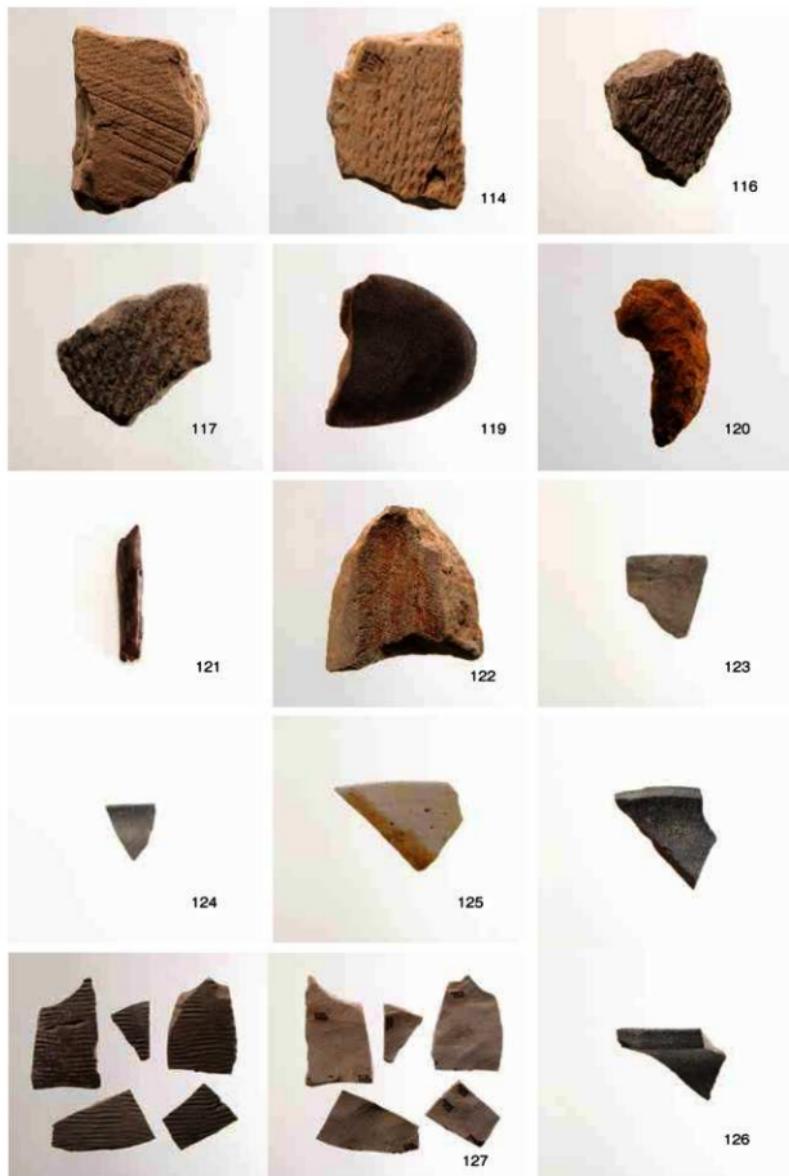
図版 41

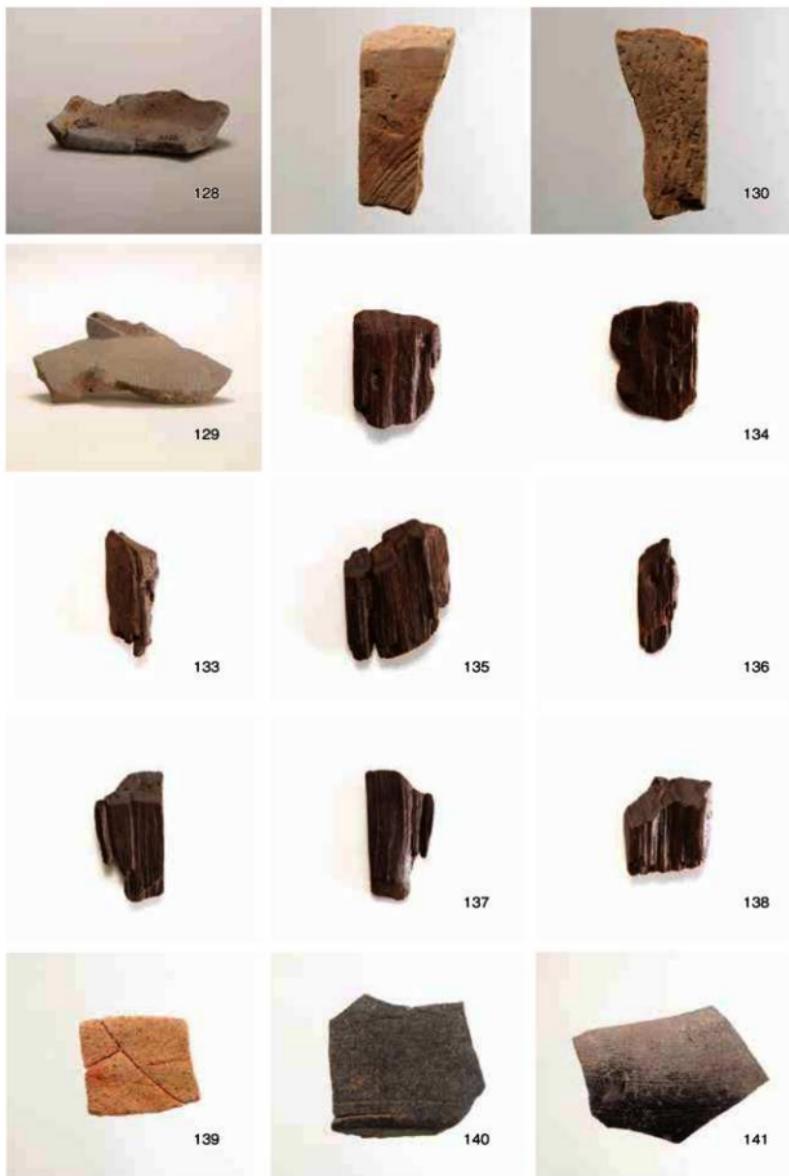


図版 42



図版 43



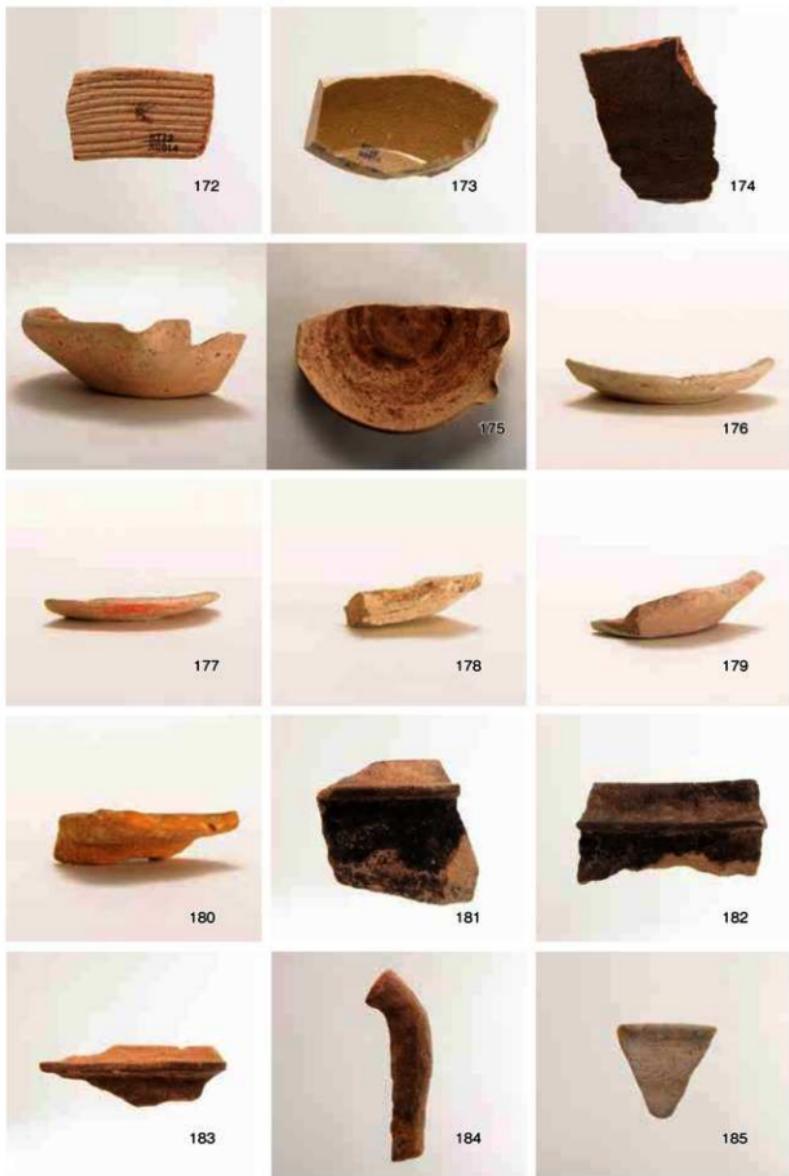


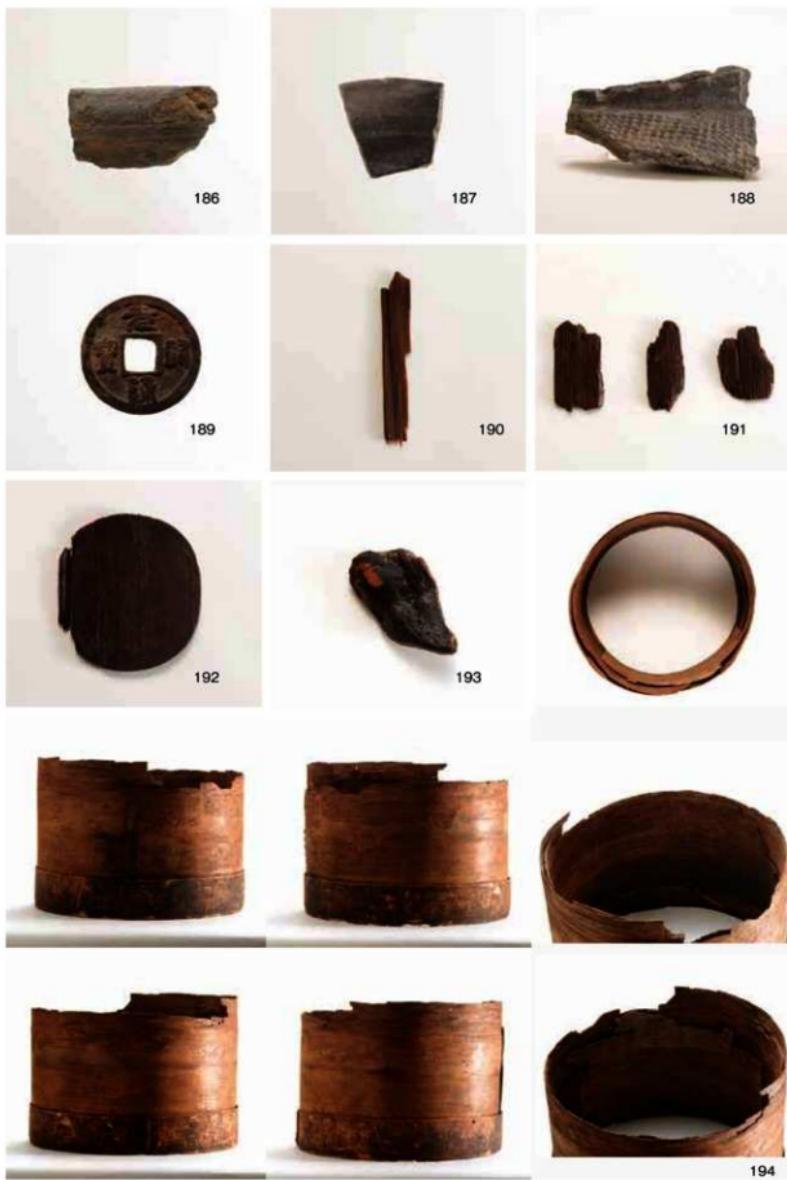
図版 45



図版 46











図版 51



報告書抄録

県道多度津丸亀線（丸亀工区）緊急地方道路整備工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

津森位遺跡Ⅱ

2020年1月31日

編集 香川県埋蔵文化財センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001 番地 4

TEL 0877-48-2191

E-Mail maibun@pref.kagawa.lg.jp

発行 香川県教育委員会

印刷 ワールド印刷株式会社